

和尚さんの心に浮かぶこんなこと

平成編



目次

五十三歳の手習い	平成19年12月	7
ねこ寺(御誕生時)	にて平成25年10月12日	7
宗立専門僧堂	平成25年10月30日	8
算 <small>かけい</small> のしずく	平成25年11月12日	10
坐禅と仏膳	平成25年12月4日	11
鐘を撞く	平成25年12月19日	12
あけましておめでとうございます	平成26年1月1日	13
還暦	平成26年1月15日	14
涅槃会撰心(坐禅会)	平成26年2月5日	15
啓 <small>けいちう</small> 蟄は口の中から	平成26年2月15日	17
柳に雪折れなし	平成26年3月1日	18
3年目の3月11日	平成26年3月12日	20
面白い本	平成26年4月2日	22
桜花爛漫	平成26年4月11日	24
学力テスト	平成26年4月25日	25
竹雨松風	平成26年5月14日	27
木々のみどり	平成26年5月28日	28
溪声山色	平成26年6月2日	30
陰徳を積む	平成26年6月18日	31
ころはしぐさに現れる	平成26年7月4日	33
お盆	平成26年7月30日	34
蚊取り線香	平成26年8月13日	35
終戦の日	平成26年9月3日	36
お彼岸	平成26年9月25日	38
達磨忌	平成26年10月12日	39
新幹線50年	平成26年10月22日	40

落ち葉	平成26年11月12日	41
箸の持ち方	平成26年11月15日	42
弔辞	平成26年11月24日	43
夫婦円満	平成26年12月29日	44
あけましておめでとうございます	平成27年1月1日	45
長泉寺の朝	平成27年1月8日	46
長泉寺の節分	平成27年1月23日	48
課題	平成27年2月6日	50
メガネ	平成27年2月17日	51
その一言	平成27年3月1日	52
3月11日	平成27年3月11日	53
五月病	平成27年5月10日	54
おむすび	平成27年5月20日	56
山を愛する人	平成27年6月3日	57
坐禅会	平成27年6月12日	58
朝の散歩	平成27年7月3日	60
立秋	平成27年8月12日	61
校歌	平成27年8月30日	62
内観	平成27年11月26日	63
ジューサーの季節	平成27年12月10日	64
年の瀬に	平成27年12月18日	65
除夜の鐘	平成27年12月26日	66
あけましておめでとうございます	平成28年1月1日	67
二本の松	平成28年1月28日	68
定物定位	平成28年2月24日	69
別れと出会い	平成28年3月11日	71

開花・・・平成28年3月30日	72
お城のある風景・・・平成28年4月29日	73
かえるのうた・・・平成28年6月16日	75
竹の子にも親切な良寛さん・・・平成28年6月30日	76
お盆を前に・・・平成28年7月27日	77
お盆が過ぎて・・・平成28年8月19日	79
仲秋の名月・・・平成28年9月14日	80
年の瀬に・・・平成28年12月14日	82
年の始めに・・・平成29年1月1日	82
寒行・・・平成29年1月25日	84
鐘の音・・・平成29年2月22日	85
東日本大震災七回忌追悼大法要・・・平成29年3月11日	86
鐘を撞くという事に・・・平成29年4月5日	94
道悟桜・・・平成29年5月3日	96
五感で聴く・・・平成29年5月23日	97
百日紅・・・平成29年6月1日	98
阿武隈急行・・・平成29年7月4日	99
日光東照宮・・・平成29年7月12日	100
エンディング産業展・・・平成29年8月30日	101
貪らない・・・平成29年11月30日	103
あけましておめでとうございます・・・平成30年1月1日	104
節分会・・・平成30年1月26日	104
上野・国立博物館にて・・・平成30年3月7日	106
アルマーニの制服・・・平成30年3月14日	107
幼稚園の新しい一年・・・平成30年4月3日	109
お盆の終わりに・・・平成30年8月16日	110
霜降・霜始降・・・平成30年10月18日	111

年末・・・平成30年12月9日	12
文士・竹千代・・・平成30年12月20日	11
大晦日・・・平成30年12月31日	14
涅槃会・・・平成31年2月6日	15
多目的ホール（平成31年2月20日）	17
卒園式（平成31年3月13日）	19
お彼岸・・・平成31年3月20日	20
韋駄天さん party・・・平成31年4月10日	21
点浄 <small>てんじよう</small> ・・・平成31年4月17日	23
新しい気持ちで・・・平成31年4月24日	25

五十三歳の手習い・・・平成19年12月

鶴が大きく翼を広げたように気高く、美しく、優しい姿の本堂ができてつとあります。檀信徒の皆様方とともに、この大事業の無事円成することを祈りたいと思います。

さて、職人さん達は毎夜遅くまでカンナの刃を研いでいました。然もその姿はみな喜々として、大変な感動を覚えました。この姿を見て、私ももっと自分自身を磨く修行を積みねばならないと発奮したのでした。

「本堂だけが立派に出来上がったても中身のないガラシン堂では笑われる」と思ったからです。そこで九月より、師家養成所といって、教師資格を有する僧侶を養成する修業機関に入り、一年間に九十日。それを四年。大本山永平寺や總持寺の若い修行僧に混じって座禅を中心とした修行生活を送ることに致しました。本山では毎朝三時半起床、九時就寝の生活です。正直、どこまで続けられるか自信がありませんが、何卒、ご理解をお願いしたいと思います。

修行の糧を今後の長泉寺の運営に反映させ、檀信徒の皆様方に振り向けることができれば嬉しいと念願しております。留守中、くれぐれもよろしくお願い致します。

ます。

ねこ寺（御誕生時）にて・・・平成25年10月12日

10月の初め、ある研修会があり、福井県越前市武生の御誕生寺ごたんじょうじに行ってみました。

御誕生寺というお寺は、瑩山けいざんぜんじん禅師がお生まれになられた地に前の大本山総持寺の禅師様、板橋興宗禅師がお建てになられたお寺でございます。猫がたくさんおり、現在は三十人の雲水に対し八十匹の猫がいる「ねこ寺」で、私も猫好きなものですから非常に心安まるお寺です。

そこに参りまして禅師様にご挨拶にお伺いしたところ、禅師様が私の顔を見るなり「あれ！角田の長泉寺の住職か？本物か？」と、こう言うわけです。禅師さんと私は何度もお会いしておりますので、今さら本物の住職かと言われて私も閉口したのですけれど、これは禅で言う常套手段でございます。即座に私は



「はい、住職という職の辞令を載いてはおりますが、本物の住職か本物の僧侶かと言われますと自信がありません」と、こう答えたら「上手いこと言うな」と、にやりと笑われました。

修行と言う話を皆さんよくされるようですけれど、修行に参りますと最初に「あなたは何処からやってきたのですか？」と老師から大体質問されます。そこで、「私は仙台から新幹線に乗り総持寺にやってまいりました」などと返事をすると、「そうですか、それならお茶でも飲んで帰りなさい」、まあこういう具合に言われてしまいます。それは、あなたはこういう境涯きょうがい、すなわちどういう心境でやってきたんですかと質問されているわけです。ですからそこで「はい、私は大本山総持寺で修行する。そういう心境でやって参りました」と答えると、「そうか、じゃあちよつと修行でもしてみるか」と許されるわけです。

さて最初の話に戻りますが、「あなたは本当の住職ですか」と質問されると「本物の住職ですか」と質問されるのでは、言葉は似てますけれどもちよつと質問の内容が違います。「あなたは、誰々さんの

お父さんですか」こう聞かれ、更に「本当のお父さんですか」と聞かれたのと「(お父さんとして)本物のお父さんですか」と聞かれたのではちよつと質問が違うことに気づかれるでしょう。私も「本物の人間」「本物の自分」になるように生きたいものだなと思いつながら、禅師様とお話をさせていただき帰ってきました。

宗立専門僧堂・・・平成25年10月30日

現在、長泉寺を会場として8月26日から11月18日まで曹洞宗宗立専門僧堂を開催しています。海外の男性6名、女性4名都合10名、それに日本人のスタッフを合わせると20名から25名で坐禅修行を中心とする仏道修行をしています。1日4時間の坐禅を中心に、作務



(掃除)をしたり、朝・昼・夕の三時の諷経、食事

の調理や作法、様々な仏教の講義等を3カ月90日間、行住坐臥に亘って修行をする道場です。

昨夜、法堂から音がするので行ってみますと二人の尼僧さんが1人は鐘を鳴らしもう1人は木魚をついて一所懸命、お経と鳴らし物の練習をしていました。そしてお互いに教え合っている姿が見られました。



自分で学んだことを他人に教えると不思議なことに自分自身の学びも深まるそんな体感をされた方もいると思います。学んだことを人に教えることによつて自分の学びが深まるこれは非常に不思議なことです。しかし私の経験上これはやっぱり本当のことだと思えます。

さて今回の宗立専門僧堂のテーマは「自己を習う」と言うテーマです。これは道元禅師が『正法眼蔵』現成公案巻というお示しの中で述べられているお言葉で、「仏道をならふといふは、自己

をならふなり。自己をならふといふは、自己をわするなり。自己をわするといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるといふは、自己の心身および他己の心身をして脱落せしむるなり」から頂いたお言葉です。

仏道修行するということは自分自身を見つめ、自分自身を修行することだ、とまあ簡単に訳せばそういうことになるかと思いますが、前述したように、他人を力（鏡）とすることで、自分を見つめることができる、そのような意味にも捉えられると思います。坐禅は自分一人でする修行のように思われますが大勢の方々のお力をいただかないと出来ない。まさに「参禅は坐禅なり」（同・坐禅儀巻）です。

私たちも1人で生きていくわけではなくて大勢の社会の人々に助けられて生きています。そういう生き方、ありがたさを発見するというのが私たちの修行でもあり、万物の息づかいを感ずることであろうと思えます。

笥のしづく・・・平成25年11月12日

お寺の庭には蹲があり、その蹲に笥から水の雫が落ちて波紋を生むようにあしらっています。笥の水は山の流れの自然水なら風情はありますが、残念ながら庭の片隅に隠してある水道のバルブで調節することになっています。



私はポトンと一滴しづくが落ちて水面に水紋が広がり、その水紋が消えかけんとする時にまたポトンと落ちる、そう言うリズムとどうか波長に水流の強さを調整しています。

ところが、庭掃除する方がその蹲を掃除する時、いったん水道の水を止めそしてまた出すのでしよう、人によって、その間隔がみなまちまちで流水のようになったり、よくもまあ違うものだなあと感じます。それと同時に、せっかく調整したのがまたやり直しをしなければならぬのかと思うと残念でもあります。

さてこのように、人間には人それぞれ生まれながらに心地よく感ずるリズム、波長を持っているように感じます。例えば音楽ですが、同一曲でもテンポの速いものを好む人もいれば遅いものを好む人もいます。また時代によってもテンポは異なるようで、40〜50年前のベートーヴェンの『田園』などは本当にのどかな田舎を想わせるのんびりしたテンポでしたが、最近の『田園』は疾風の如く「さーっ」とあまりにも都会風になりました。これも何か私にとっては味気ないと思いますが、いずれにしても心地良く感ずるリズム、テンポ、それは人それぞれ持っている波長のような気がいたします。

ところで、仏道の話をしませんが、よく世間の人は仏道というのは仏教の一つの思想ではないかと言っている人がおりますが、仏道というのは思想ではありません。それは仏道が宇宙の事実そのものであるからで、宇宙の事実を抜きにして仏道はありません。この宇宙の事実の波長と自分の波長が合っているかどうか、これを見極めるのが仏道であり修行だろうと思っただけでやらせていただいております。ですからそれぞれに自分の波長があつて、結局それで良いのですね。ちよつと変な話になりました。

坐禅と仏膳・・・平成25年12月4日

11月18日、3ヶ月90日間の全日程を終了し宗立僧堂が閉単しました。厳しい宗立僧堂の修行に参加した10名の海外僧の方々は皆ひとしく晴々とした顔をして仙台空港から成田を経て、それぞれのお国に無事帰って行かれました。



90日の間、この長泉寺で体験されたいろいろな禅の学びをそれぞれの国で大いに発揮していただきたいと思います。

さて、その日の夜、私は修行僧の誰か1人でもまちがって残っているのではないかと思ひ、真つ暗な坐禅堂にそつと扉を開けて入ってみました。当然のことながら堂内はしんとして誰もおりません。ほのかに修行僧の残り香のようなものが漂っている気配がするばかりです。その時私の心に、本当に終わった

んだなあという寂しさが一気に込み上げてきました。

話は変わりますが、先日ある葬祭会館で葬儀がありました。祭壇には新仏となられた故人様に仏膳が供えてありました。朱塗りの立派な本膳ですが、よく見るとなんか変です。それは本来お汁を盛る椀にご飯が盛られ、ご飯を盛るべき椀にたくさんのお天ぷらが載っており、いわゆる壺皿というのでしょうか丸い縦長の湯呑茶碗の型をしたその細長い椀器の中に味噌汁が入れられてお供えをしてあったからです。

これは弱ったなあと思いましたが、葬儀式はすでに始まっています。仕方なくその場は気づかぬふりをして、式終了後、盛付をされた若いスタツフの方を控え室にお呼びして、あれはちよつと盛り付けの器も器の配置も違うのではないかなと、お話をいたしました。すると彼女は「だってファミレスに行つて定食を頼むとそのいわゆるツボの器ですか？、それに味噌汁が盛られてくるんですよ」と、キョトンとして返答し、言われてみればなるほどなあと納得。だから間違えたのかと苦笑

し、本膳料理のノウハウを駄目に行っているのは彼女ではなくファミレスの責任であったかと、妙な気持ちになりました。

つまり、修行と言うのは特別なところに行つて特別なことをするのではなく、このような普通の日常生活の中でいろいろ学ぶことが本来の修行なのだと思つて感じました。

言うまでもなく、私たちの修行も坐禅堂の中だけにあるわけではありません。日常の生活そのものが修行です。海外僧の方々も私も宗立僧堂の修行は終わりましたが、それは同時に新しい生活の修行の始まりでもあるのです。失礼いたしました。

長泉寺には、ちょっと自慢できる美しい庭園があります。成人の日や卒業式、入学式、子どもの日、七五三、結婚記念日等々、またお見合い写真にも、是非想い出づくりのためにご利用ください。拝観料、利用料ともに無料です。

鐘を撞く・・・平成25年12月19日

おはようございま

す。毎朝6時に鐘を撞きます。撞く鐘は九声、但し、八声目は小さく、その後ひと呼吸入れてすぐに九声目を大きく撞きますから、人によっては鐘の音が八つとしか聞こえない人もいます。鐘を撞く間隔は2分、つまり九つ撞くのに14分とちよつとかかります。一日24時間の中の14分間は1日の約1%に相当します。けれども、このわずかな時間でも夜明けはあつという間にやってきて、みるみるあたりは明るくなります。



まったく「光陰は矢の如し」、あつという間に時は過ぎていくとこの時ぐらい身をもつて感ずる時はありません。

ご存知の通り長泉寺の鐘楼堂は少し高い所にあり、境内の東の方角には木々もなく開けてお

り、遠く阿武隈山脈を眺み、次第に白々と明るくなる様子はとても綺麗です。まるで毎朝、元日の朝を迎えているようで清々しい気持ちになります。今日も新しい一日を迎えられた感謝と喜びの、至福の時間です。

ところで、お寺の鐘はどなたにも自由に撞いていただける鐘でございます。これから来る大晦日の除夜の鐘だけでなく、朝は6時、夕方は5時に毎日撞いていますのでご希望の方はどうぞいらして下さい。そして、鐘をご縁にしているんなお話ができれば嬉しいと思います。

是非、お寺に遊びに来ていただきたいと思っております。年末年始寒い時季になります。お体に気を付けてお過ごし下さい。ありがとうございました。

除夜の鐘・・・大晦日午後11時より。

紅白鐘もち（先着一〇八家族）、甘酒、年越そばでおもてないたします。（なくなり次第終了になります）。

あけましておめでとございます・・・平成26年1月1日
あけましておめでとございます。皆様おすこやかで穏やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

大晦日の除夜の鐘にはたくさんの方々にお参りいただき、鐘もたくさん撞いていただきました。除夜の鐘の数は百八声と昔から言われています。煩惱の数が百八あり、それを一つ一つ潰していくのが除夜の鐘だと言われています。それで、その百八煩惱についてもっと詳しく聞かせてくださいという方もいらっしゃるようですが、私にはよくわかりません。

ところで、これは落語の話ですが、「酒は百薬の長」の百薬の数え方について何とも愉快的説があります。それは酒を飲むと笑い上戸は「わっはっはっはっ、はっば六十四」、逆に泣き上戸は「しくしくしく、しく三十六」、はっば六十四に、しく三十六を足すと百になる。だから百薬の長だといひます。

まあいずれしろ数にこだわるのではなく、あーそいうものかと楽しくお酒を飲み、除夜の鐘も今年を振り返り新年を祈る心でたくさん撞くというのが

賢い作法ではないかと思っています。どうぞお時間のある方は百八煩惱と除夜の鐘の關係についてお調べいただき、教えていただきたいと思っています。

さて昨年、南アフリカのネルソン・マンデラ元大統領がお亡くなりになりました。人権主義者、人道主義者の大統領で知られていた方でしたから、大変残念なことでした。

葬儀には世界の国々から多数の要人が参列し、その後、彼の御遺骨は故郷に葬られたと聞きました。そのニュースを聞いて、私は彼が大統領府のある首都にはなく生まれ育った故郷に葬られたことに対しある種の安堵感を覚え、ああ幸せな人だったと思いました。

どなたかの句に、「元日は冥土の旅の一里塚、めでたくもありめでたくもなし」と言う句があるそうです。新年を迎えるというのはめでたい事だけでなく、この世を去る日がまた近づいたよ、毎日毎日を大切に過ごそうよという意味だと思います。

しかし、毎日毎日を大切に過ごしていたとしてもやがてこの世とお別れする日は誰にでもやって来ます。その時であっても私が生まれ育った故郷は、いつでも平和でそして美しい世界であって欲しい。そ

こに私も葬って欲しいと思いつながら今年のお正月をお迎えしました。

昨年、私達が東京オリンピックの招致に浮かっている隙に、永田町では「特定秘密保護法」など、軍国主義の気配がする政治の企みが始まっている様に思えます。武力には武力で対抗するのはなく、戦争に進まない平和の力を磨き、そして育て、平和を大切にする生き方こそが人間を救うと強く信じます。そうでなければ、我が国がネルソン・マンデラ氏の葬儀に参列した意味がありません。

長泉寺の梵鐘には「二十一世紀平和祈念鐘」と刻印されています。大きな音で鳴り、残響の豊かな一里鐘です。平和祈念の心が遠くまで届く一年になって欲しいと思います。

還暦・・・平成26年1月15日

私事ながら、私は昭和29年の午年生まれ。いつの間にか還暦を迎えました。馬齢を重ねるとはこ

ういうことかと苦笑してしまいます。

さて、午年生まれの人の守り本尊は勢至菩薩（大勢至または得大勢なども訳される）で、阿弥陀仏の右脇侍（わきじ）として立たれ、智慧をあらわす菩薩さまであります。ちなみに阿弥陀仏の左脇侍として立てられる仏さまは観世音菩薩で、慈悲をあらわしています

勢至菩薩は智慧の光で人々を照らし、菩提心を起こさせ、苦しむ者に無上の力を与えてあらゆる苦厄から解放するといわれています。

長泉寺にも立派な勢至菩薩像がお祀りされています。十年程前、市内君萱にお住まいの篤信のご婦人さまより寄進されたものです。1月末日まで本堂に安置しておりますので皆様ぜひお参りされて下さい。

今年の第58回有馬記念レースでは、オルフェーヴルが2着馬に8馬身差をつけて圧勝。疾風の如く走り抜き、有終の美を飾りました。あやかりたいものです。

皆様方の一層のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

涅槃会摂心（坐禅会）・・・平成26年2月5日

先日の節分豆まきには大勢の方々にお参り頂き、にぎやかに豆まきをさせていだきました。ご褒美のおやつは五百袋用意したのですがほとんどなくなりました。ですから、それくらい大勢の方々がお参りにおいでいただいたと嬉しく思っております。

当日、豆まき前の挨拶の中で、私は、心の中にいる「意地悪な鬼」を追い出して仲良し福、ニコニコ福を増やそうと子供たちにお話をさせていたできました。私たちの心には良い心とイタズラな悪い心が同居しています。良い心を伸ばすことによって、悪い心の居場所を無くすことが大切です。私たちの良い心を沢山伸ばすよう豆を沢山まき、まいた種が良い花を咲かせるよう毎日正しく生きていきましょう。そのようにお話をさせていただきますました。



さて2月15日は、「ねはんえ涅槃会」。二千五百年程前

にお釈迦様のお亡くなりになられたご命日です。長泉寺では江戸期の作品と言われております大きな涅槃絵図を本堂に掲げ、1日からこの15日まで釈尊最期の説法である「仏遺教経」というお経を誦し、お参りをさせて頂いております。

さて、ご存知かもしれませんが、長泉寺は悲しいことに明治元年に全焼してしまいました。その後、本堂は角田の臥牛城解体の材料をいただいて建て直しをさせて頂いたなど、お寺を復興することに様々苦心いたしました。

現在掲げている涅槃絵図も、その掛図の裏にこの

掛図は明治9年12月に三河亀蔵さんというお方が中心となり、その三河さんと長泉寺の住職、他に百九十八名のお檀家の方々合計二百名で浄財を出し合ってこれを求めたと記録されております。ですから、お参り頂くとその掛図の裏に皆様方のご先祖様のお名前が記さ



れているかもしれません。是非お参りをいただきたいと思えます。そしてお釈迦様をお偲びし、私たちの人生を省みて、毎日の生活を正しく、そして皆と助け合って生きようとお心に誓って頂きたいと思えます。

生意気ですが、このような仏縁により諸悪莫作（しょあくまくさ）・衆善奉行（しゅぜんぶぎよう）・自浄其意（じじょうごい）に近づくことが出来ると信じています。

これに合わせ2月8日から2月11日まで4日間ではありますが、涅槃会摂心、坐禅会をしたいと思っております。どうぞお気軽にご参加下さるようお願いしております。毎晩7時から9時まで坐禅をします。その坐禅の間にお話をいたします。椅子等も準備してあり、坐禅堂も暖かです。姿勢を正しく、心静かに坐ってみましょう。

立春を過ぎたとは言え寒さが厳しくなる時期でもあります。どうぞ、お風邪など召さぬよう健康に注意していただき、それぞれのポジションで活躍されますようお祈りいたします。ありがとうございました。

啓蟄は口の中から・・・平成26年2月15日

3月6日は啓蟄です。啓蟄とは一年の二十四節の一つで、春分の日の15日前が当たります。したがって、今年は3月21日が春分の日ということになります。

啓蟄とは、冬ごもりをして土の中に隠れていた虫が動き出す季節と言う意味で「啓」というのはひらく、拝啓の啓です。つまり土を啓(ひら)いて虫が這い出してくる意味です。

啓蟄という言葉に対して逆に虫が土に閉じ籠もることを指す「閉蟄」という言葉もまたあります。これは冬になって虫が土の中に潜って冬を越す季節という意味です。(但し、閉蟄は二十四節にはありません。)

さて、この啓蟄の頃になるとなぜか私は毎年歯の痛みを覚えます。周囲の人に訊くと私ばかりでなく春先になるとなぜか歯が疼き、具合が悪くなる方もいらっしやるようで、季節と私たちの身体は何か関係があるような気がします。

木の芽が芽吹く頃にも体調を崩される方が多いと古老の方々から聞いた事もあります。そのように自

然の命が動き出す頃、不思議に体調を崩しやすいのではないかと思います。

ところで、篤信とくしんの信者さんに山下道也先生がいらっしゃいます。この方は東京で歯医者さんを開業されている先生です。先生は歯科の名医として名高いばかりでなく、私どもの曹洞宗高祖道元どうげんぜんじ禅師について非常に勉強をされており、とくに道元禅師が書かれた「正法眼蔵洗面の巻しやうぽうげんざう」について深く研究をされております。

道元禅師は真実の正伝の仏法を求めて中国に渡り、その時に非常に口臭を感じ、人様に不快な感じを与えるのは仏行に背くことであると悟りました。

そこで「洗面の巻」を著し、「楊枝」(今の世の中で言えば歯ブラシ)の使い方、舌の磨き方まで「三千さんぜん威儀経いぎきょう」等を引用しながら丁寧に説かれました。山下先生は、自分が信心している高祖様がこのような御作法まで示しているということに驚き、道元禅師のような心構えと作法に従って現代流に口の中を清潔に維持することはできないかと研究され、口の中、特に舌を拭うシート(Tーシート)を開発されました。

そして、先生はこのシートを3年前の3月11日の東日本大震災で私たち東北人が被災し水が使えないような状態のときに自ら車を運転して被災地に届け、水がなくて歯磨き出来ない多くの方々にお配りをされました。

Tーシートで口腔内を拭くだけで水を使用せずともサッパリし、清潔になるということで、幼児、お年寄り、特に女性の方々は大変喜ばれました。私たちミネ幼稚園にもおいでいただき、また山元町等いろいろなところに行かれ、避難生活をされている方々にどうぞこれを使って下さいと歩かれた姿は被災地で話題になったほどでした。

自分の職業を通じて慈悲行・布施行を行せられ、まさに道元禅師のお教えに従った実践行を歯科医の白衣を着た先生が行じられた事に敬意を表するとともに、信者さんの一人であることを私は嬉しく思っています。

話を戻しますが、前述した啓蟄の啓の字に歯と書いて「啓齒(けいし)」という熟語もあります。これは歯を見せるということから、笑うという意味になります。

春は卒業・入学、嬉しい時期です。花も咲き楽し

い時期でもあります。早速私も主治医の歯医者さんに行き、さわやかな口で笑顔で愛語を伝えねばなりません。ギックリ腰になったり、加齢にもなってあちらこちら身体にガタが来ていますが、還暦なりの春を迎えたいと念願しています。ありがとうございました。

柳に雪折れなし・・・平成26年3月1日

おはようございます。

先日の文章をお読みいただいた方々から何通かお便りを頂きました。山下先生の歯科医院を紹介して下さいとか、方丈さんはもう歯医者さんに行かれましたかとか様々お便りを頂きました。嬉しく思っております。

まず私ですが、すでに主治医の歯医者さんに行つて治療中です。「虫歯の虫が這い出してくる」ことから、啓蟄と虫歯をひっかけて文章を書いたのですね。なかなか洒落てます。」と冷やかす

お便りもいただき、うふふと笑いました。ともあれ、ホームページを覗いていただく方が増えてきてありがたいです。

さて東風解氷の候とは言え、このたびの大雪には非常に驚かされました。皆様方のご家族やお住まいにも被害があったのではないかとお見舞い申し上げます。

長泉寺では積雪で屋根の軒が破損する被害を被りました。については、皆様方にご迷惑がかからぬよう早急に復旧に努めたいと考えています。

実は、2月17日から20日まで大本山永平寺で「曹洞宗師家会」の本山研修が予定されており、私も出席を予定しておりましたが、この大雪でやむなく欠席する羽目となって、この被害・・・、幸か不幸か分かりませんが、私がいたことで直ちに対応を始める事が出来、助かったと思えました。

例年、2月、3月は、両本山初め各修行道場に新しい修行僧が入門をする季節です。高校、大学あるいは社会を出た数多くの掛搭僧（入門志願僧）が入門して参ります。けれど、掛搭僧が想像している以上に厳しい生活が修行道場には待っており、それに怯んでわずか2、3日ひどい人はその当日に修行を

あきらめて去って行く者がいます。残念ではありますが、しかし山門は常に開いて入門者を待っています。何度でも再チャレンジして上山して欲しいと思います。

人間、何でもやってみると後で振り返れば、あの時頑張つてよかったという事が必ずあると思います。「いまの一旦はむかしの百不当のちからなり」（『正法眼蔵』説心説性の巻）という言葉があります。ありますが、私たちの人生にはおよそ失敗も成功もなく、自分の今ある人生には必ず意味があります。大切なのは、ただ失敗するのではなく的に当たる失敗をすることです。その失敗を積み重ねることを努力と言い修行と言います。

レイvistロースという学者が何かの本に書いていましたが、人間はその時、退歩的と見えても、それはみんな進歩、進化している事だと述べています。目先の事で、一喜一憂しない凶太い精神と困難にくじけない柳のようなしなやかな心を持ちたいものです。

・・・行仏道の初心のとき、未練にして通達せざればとて、仏道をすてて餘道をへて仏道をうることなし。仏道修行の始終に達せざるともがら、

この通塞の道理なることをあきらめがたし。

仏道は、初発心のときも仏道なり、成正覚(じゃうしゃうがく)のときも仏道なり、初中後ともに仏道なり。たとへば、万里をゆくものの、一步も千里のうちなり、千歩も千里のうちなり。初一步と千歩とことなれども、千里のおなじきがごとし。

『正法眼蔵』説心説性の巻より。

3年目の3月11日・・・平成26年3月12日

おはようございます。

3月11日は今年で3年目を迎えた東日本大震災追悼の日です。長泉寺でも犠牲になられた方々の慰霊の法要をさせていただきました。

震災が発生したその日、私は岡山県矢掛町にある洞松寺専門僧堂において研修中でした。午前中、岡山テレビの取材を受け、どうして修行するのですか？とか坐禅は何のためにするのですか？と言うようなりポーターからの質問に大きな災害が間近に

迫っているなどとは露知らず、呑気な返事で話をしていました。

そして昼食をはさんで、午後から瑩山禅師の『伝光録』の一章を研修員の前で話をし、ホットひと息ついたところに自坊からけたたましい突然の電話があり、とにかく大きな地震が起きて家中大変な事になっている、一刻も早く帰ってきて欲しいと言う悲鳴的な電話を受けました。直後より電話は不通。東北の状況が分かりません。けれど、洞松寺にはテレビもラジオも無く、取材のテレビ局もさあ大変とさっさと帰り、ようやく近くのお寺でテレビを見せられ大津波の様子に愕然。しかし、暗闇に向かって帰るのは危険と判断し、寝れぬ夜を過ぎて翌12日の新倉敷発の朝一番の新幹線で東京に戻りました。着いたのは午前10時頃です。

そうしたら東京駅はもう大変な人でごった返しをしております。東北新幹線も止まったままです。ただ一つ宇都宮線が走っており、電車は二〇〇%位の超満員ではありませんが、ためらうことなく私はそれに乗込み、発車まで2時間ぐらいそのギュウギュウ詰め電車の中で待ち、そ

れから4時間ぐらいかけて埼玉の久喜までやって来ました。

そこで電車を降り、ご本堂を作っていたいた鶴工舎さんの会社が栃木の塩谷町にあるものですからそこに電話をして車で久喜まで迎えに来ていただいて、そして久喜から四号線を北上して角田に着いたのが翌13日の朝4時頃だったと思います。

これが私の震災の体験です。ですから、本年も大震災の^{3.11}の日になって家族の者たちが当日は大きな揺れで死にそうだったとか、お寺の建物もみんな駄目になると思ったとか、そういう話をしてる時には、震災に遭遇してないのですから私はうつむいて話を聞くだけです。

さて、震災時その電車の中で驚いたことは、鮎詰め状態の車中でも酒好きな人は、いわゆるワンカッブを開けて飲んだり、焼酎を飲んだりして「じたばたしてもしょうがないんだ」というようなことをわめいたり、何かの団体の方でしょうか、我々のチームはどこそこについて活動するんだと自分たちの組織の支援についてPR的に打ち合わせをするグループを見かけた事です。

危機的な状況の中にあっても色々な人がやはり世

の中にはいるのだなあということをおは震災の時に勉強しました。

また、あの時、被災地では食料品や生活用品等の物資が瞬時になくなるということをお素早く察知していれば乾電池だとか水とかもって持ち帰ってあげられたと手ぶらで帰ってきたことが本当に悔やまれてなりません。とにかく、1分でも1秒でも早く家族の元という気ばかりが焦って帰って来てしまい、大事な時に私はいつもぼんやりとして何の役にも立たないなあをつくづく反省した次第です。

近頃は、災害に備えて防災グッズや非常袋を用意される方が多くなってきましたが、いちばん用意しなければならぬのはどんな状況の中にあっても冷静な判断が出来る心です。自分だけが先に助かればと言う気持ちではなく、他の人の安全を先に考える「自未^{じみとくど}得度^{とど}先度^{せんど}他^た」の心を常に忘れないことです。

そしてこの心は頭だけの理解では育ちません。和合の社会の中での人と人との関わりからしか体得出来ません。私たち僧侶が自らを灯火として、教え導かなければならないことはただ一点、この

心の用心です。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたし、また一日も早い復興を祈りつつ震災の日の私の話とさせていただきます。

ありがとうございます。

面白い本・・・平成26年4月2日

おはようございます。

いよいよ4月から消費税が5%から8%に増税されました。そこで、3月は駆け込み需要と言うのでしょうか、いろいろなところで買い込み物を安いうちに済ませておこうという消費者がたくさん群がる光景がテレビで報道されていました。

さてこれは、3月29日付の読売新聞の編集手帳からですが「除夜の鐘 税込み価格で百八つ」という句があるのを拝見して、世の中にはうまいことを言う人がいるものだなあとひどく感心いたしました。

この句は、第一生命保険のサラリーマン川柳コンクールで入選一〇〇作品の1句だそうで、時節柄の

消費税アップを揶揄した句ではありますが、当然ながら、除夜の鐘は消費税があるうがなかるうが百八つで、そこがバカバカしくてなかなか良い句だと思えます。

私もささやかな抵抗として消費税が安いうちに本を少しまとめ買いをいたしました。本といっても何十万円もする本を買うわけではありませんから、本当にささやかな抵抗です。

その中に、昨年1月に岩波新書から発行されました「面白い本」という本があります。この本の著者は成毛真真なるけまことさんと言って、一九九一年から二〇〇〇年まで10年間マイクロソフト社の代表取締役社長をお勤めになられた方です。

成毛氏が推奨する面白い本を二〇〇冊紹介してあるわけなのですが、その本の135頁から136頁に亘って、「様々な仕事」ということで手前ども長泉寺の本堂建立記『鵜工舎の仕事』（文藝春秋社）の本の紹介をいただいております。周知の通り、これは本堂が落成した平成20年10月に御檀家の皆様方全員にお配りをさせていただいた本です。

岩波新書を手にして、この本が成毛氏の推奨する一〇〇冊の本の中選ばれてあったということ

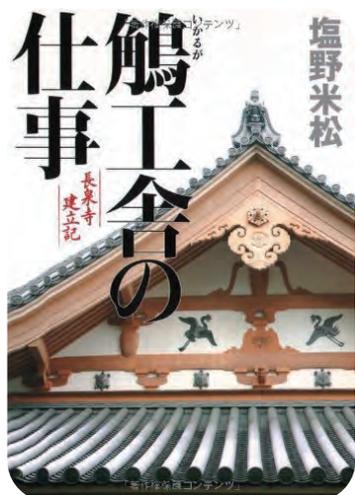
に非常に驚き、また大変うれしく思いました。以下に成毛氏の文章を紹介します。

さまざまの仕事（「面白い本」一三五頁から一三六頁）

宮大工とは、寺社仏閣の建築、修復に関わる大工のことをいう。彼らが建てる寺社仏閣はもちろんだが、そもそも宮大工という存在自体が文化財といえるかもしれない。

「^{いづれか}鵜工舎の仕事―長泉寺建立記」（塩野米松著）

は、法隆寺最後の宮大工と呼ばれる故西村常一氏を紹介した「木に学べ」（西岡常一著、小学館）で知られる作家の著作だ。本書は、二〇〇八年九月に落慶法要された東北



最大規模の寺院本堂建立に関わった奈良の宮大工集団、鵜工舎の仕事ぶりを描いている。

本書によると、この本堂は少なくとも数百年はもつという。しかし基礎は二〇〇年ほどしかもたないというのだ。なぜかといえば、昔の工法では建築許可が下りないため、やむをえずコンクリートにしたから

だという。日本古来の建築技法のための必要条件を、今の建築の法整備が阻害しているのも不思議だが、そんな技術が時代を超えて継承されていることにも驚かされる。仏さまがお座りになる本陣の床は台湾製の檜で樹齢は二〇〇〇年のものだ。本書は、棟梁のみに焦点をあてた本ではない。材木や基礎、左官、瓦など、さまざまな職人の工ピソードも盛り込まれている。そこが本書を価値のあるものになっている。

古来から伝わる寺社建築の機能美には終始驚かされどおしだ。歴史に残る仕事は、遙かな時代を超えてみせるのだ。

だからどうだというわけではないのですが、より多くの方々にこのような立派なご本堂にお参りされる勝縁を結んでいただき、一層長泉寺に対して御信心を賜ればありがたいと願っています。

また私も、皆様の御信心にお応えできる住職として更に弁道精進に励まねばと意を固くしています。

新年度もよろしくご法愛賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございますございました。

桜花爛漫・・・平成26年4月11日

おはようございます。

桜花爛漫の好時節を迎えました。今年もお寺の桜は見事に咲き、境内は花見の客やカメラマンで賑わっています。

4月10日はミネ幼稚園の入園式で、新入園児はこの花咲く綺麗な園庭に明るく元気に登園



してきました。嬉しい季節です。桜の木の下で入園記念の写真を撮る親子の姿はみんな幸せそうな表情で、園長の私も嬉しく幸せな気分になりました。

さて3年前の震災の後、復興を応援する「花は咲く」という歌が日本中で歌われましたが、当然ながら桜の花も環境が整わなければ咲きません。つまり、厳しい冬が過ぎ、気温が上がリ雪が消え、十分な春のお日様の輝き、水分、栄養等々、そのような環境が整って初めて咲くものです。ただ種を蒔き歌を歌っていれば花咲くというわけではありません。

ですから、復興を応援する歌もよろしいですが、復興が進むような目に見えたアクションが必要で、

それによって環境を整えなければ被災地には決して花が開かないということも私たちは理解をしなければなりません。一層のご支援を被災地の方々にお願したいと思います。

さて長泉寺とミネ幼稚園では、平成22年度からいわゆるペットボトルのキャップを集めて最終的にはそれを認定NPO法人JVCに送り届けて、小児マヒから子どもたちを守るポリオワクチンとして送り支援するというエコキャップ活動をしています。別表の通り平成25年度は四六八キロのペットボトルのキャップをご協力いただき、平成22年度からの累計は一五七二キロも集まり、送らせていただくことが出来ました。ペットボトルのキャップを1個2.5gと計算して、そのキャップが八〇〇個すなわち²kgでポリオワクチンが1本(約20円)まかなえるという計算です。平成25年までですと一五七二キロですから、この活動を開始してからこれまで七八六人分のポリオワクチンを送ることが出来たこととなります。

この数字を多いと見るか少ないと見るかはそれぞれの人のご判断だと思えますが、ともあれ人のために役立つ活動というのは目に見える大きなも

のではなく、小さな小さな地味な積み重ねがあつて初めて成しえるものと信じます。何事も、継続的な努力が必要です。エコキャップ活動にご支援、ご協力をいただいている多くの方々にあらためて心より御礼申し上げます。

エコキャップ活動

ペットボトルのキャップを集めて、リサイクル工場に売却したお金を

内閣府認証のNPO法人「エコキャップ推進協会」に寄附して、世界の子供たちにポリオワクチンを届ける、という活動です。

図は「長野県・佐久の情報サイト『あさま日和』の編集長ブログ」より掲載させて頂きました。

当サイトの環境活動報告の頁にも内容を掲載しています。



学力テスト・・・平成26年4月25日

おはようございます。

4月22日に全国一斉学力テストが行われました。翌日の新聞にその問題が載りましたが、非常に面白い問題が今回たくさんあったように思います。私が興味深く思ったのは小学校算数Aの問題です。

小学校6年生の問題ですが、その算数Aの5番の問い、これは日本の伝統文化に関する問題でした。

5番の(1)の問題は畳の敷方についての問題です。まず、畳の敷方には約束事が3つあり、1つは床の間に畳の長い辺を合わせる、2つ目は出入りに畳の長い辺を合わせる、3つ目は畳の四つの角が1カ所に集まらないようにする。この3つの約束事があって私たちの部屋に畳が敷いてある。まず、そういうルールを子供たちに教えて、では、床の間・出入り口付き6畳間の畳の敷き方を実際に図に描いてみましょうという問題でした。

この問題にチャレンジした子供たちはテストが

終わったら、きっと自分の家の畳の部屋や身の回りの様子が気になって、より意識を持って見るようになるのではないかと思います。

おっと、前置きが長くなりました。私が今日お話ししたのは、その2番目の問題「使いやすい箸の長さについて」の質問です。ちょっと読んでみます。「使いやすい箸の長さの目安は、一咫半ひとあたはんと言われています。「ひとあた」とは親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。1咫半は、1咫を1.5倍した長さです」と、図を使ってまず説明されています。親指と人差し指を直角に広げた時の単位、これを1咫ということを小学校6年生で覚えるだけでもすごいと思います。

ところで、市販のお弁当を求めるとお弁当についてくる箸がいやに短くて使いづらいと感ずることが多くなりました。皆さんの中にもそう感じられる人もいると思います。どう見ても1咫位あたの長さです。これくらいケチってどれ程の節約エコになるんだろうかと考えてみる必要があります。

また、外出場所で用を足す時、蛇口から流れる水が寂しげにちよろちよろとしか流れない手洗いが多くなりました。手を洗うとすると水量が少ないた

め、どうしても洗面台のへりに手が触ってしまいます。指が当たって不便ですし、また不愉快です。

そんな時、節約エコと言うのはさてどういことなんでしょうかと思えます。節約しすぎて使用に不便さを覚えることはエコとは言えないのではないかと、ただ単にケチっているだけではないかと思えてなりません。不便さを与えるエコ活動と言うものは本来あり得ないと思いますが、皆さんはどう思われますか？

脱線しました。箸の長さとお咫の話に戻ります。使い易い箸の長さが1咫半ということ覚えておくと、子供たちにとって使いやすい箸の長さがお母さん方にはすぐわかります。さらに1咫あたは身長10%の長さに相当することもこの問題の中で説明されています。つまり、自分の子供の身長が130センチだったら1咫は13センチそれに6.5センチつまり約20センチの長さの箸がその子供にふさわしい箸であることを教えてくれる問題でもありました。

余談ですが、昔の人の身長は大体一五〇〜一六〇センチぐらいだと言われています。今、仮

に一五〇センチと計算すると一咫はその10%つまり10分の1で15センチになります。三種神器の一つである八咫鏡の周辺の長さは15×8で120センチ、円周率を 3.14 とすると $120 \div 3.14$ で大体直径38センチ位の鏡これが八咫鏡となります。また、八咫のカラスは体長120センチの大きなカラスだったということがわかります。その八咫のカラスの導きで神武天皇が熊野から大和に至る道を進んで行かれたのですね。

一つのことからいろいろなことに興味を持って学習できるように生徒を指導するのは現場の先生の役目だと思えますし、また、大人にとっても面白い、良い問題がたくさんあった今回の学力テストだと思います。

私たち僧侶が取り組む修行も教えられることを待っているには遅すぎます。日常生活そのものが修行であるという事、毎日毎日の自分の生き方に正面から取り組むという事、結局、「平常心是道^{びんねいしんじょう}」というのはこういう事だろうと思います。大変失礼いたしました。

竹雨松風・・・平成26年5月14日

おはようございます。

私の父であり師匠でもあり、また長泉寺41世の住職、つまり先の住職を勤めた奥野泰弘師は平成14年5月13日に81歳で遷化（逝去）しました。

今年は正当13回忌に当たりますので、去る5月9日に私が講師を勤めさせていただいている大本山総持寺祖院監院の今村源宗老師に焼香師をお願いをして法要を営みました。

親は左利きで非常に手先が器用でありました。多忙な檀務の中、様々な材料を集めては暇な時間を見つけて工作するのが唯一の楽しみとしました。法衣を着たときの厳しい表情の僧侶の顔から普通の父の顔に戻って工作する姿に、私は本当の親の姿を見ておりました。

竹を自分で火に炙り、角度を工夫しながら曲げて作った孫の手2本が今も残されていますが、それは非常に絶妙な角度で、我が家ではテレビを見ながら四半世紀も愛用させていただいています、アハハ・・・。孫の手は一例ですが、その他にもいろいろ親が作った小物が沢山残されており、そ

ういうものを使つたびに親の顔が思い浮かびます。

さて私たち僧侶が法要で使用する法具の一つに「笏こし」というものがあります。その笏も自分で作ったものがあり、黒檀の棒を自分なりに削り、その裏面に「竹雨松風(ちくうしょうふう)」と、それから自分の名前を「長泉泰弘」と小刀で削って刻銘したものがありません。1周忌法要の時に、今度は白檀の木でそのレプリカを私が作り(業者に作らせたのですが)、参列して下さったお弟子の方々にさしあげました。

「竹雨松風」という言葉は、普通は「雨竹松風」というのが通例で、親は何か間違い事をしたのではないかと、とそのレプリカを作るときに思いました。けれども、何か意味があつて竹と雨の字を逆にしたのかもしれないとも思い、それはそれなりにして、そのまま親の字体そのままに笏に複製して皆さんにお別けいたしました。

その後、「竹雨松風」の文言についてお弟子の方々からは何もご意見がなく、それも寂しいといえは寂しいですけど、ともあれ、先人が遺したものは何か意味があるのだろうと私はいつも考えております。

前述したように、親は左利きでした。祖父も左利きでした。私も左利きです。私の次男も左利きです。見えない遺伝子というのは、こうして代々確かに受け継がれ残されているのだと実感しています。

皆様方にもご自分のご先祖様、ご家族様を思う時、何かそういう見えない事、見えないものを感じる方もいらっしゃると思います。その見えないところに私たちは何かありがたさ、不思議さというのを、また感じなければならぬのではないかと思います。失礼いたしました。

木々のみどり・・・平成26年5月28日

おはようございます。

今朝(5月21日)は久しぶりに雨の天気になりました。鐘を撞いて境内の木々を見渡すと、この雨に樹木がうっとり葉を垂れ、空からの雨の



シャワーをうれしそうに受けている感じがしました。雨の景色を眺める私の気持ちも清々しくなりました。

先日、消防署の会議に出席しました。席上、署長様より、空気が乾燥すると火災が発生しやすくなる。特に山火事など、焚き火による火災の発生が高いと言ってお話をいただき、私たちのちよつとした不注意で大火災ともなり、この大切な自然を損なってしまう。一層火の取り扱いに注意をしなければならぬと訓示をいただきました。

先月、4月20日から22日まで3日間に渡り山内の樹木の剪定をいたしました。

作業を依頼した業者の方は伊勢神宮や日光東照宮の樹木を管理されている和氣瀧親方で、「吊し切り」という特別な作業方法で枝を払い木を切るという軽業師のような方です。クレーンで幹や枝を吊り、高所から順々に切り落とす伐採の様子を下から見ていると、私の方が目が眩むようでした。

さて、親方である和氣さんのお話によれば、暦の中には「八専」と言う言葉があって、この八専の期間に樹木を切れば、夏の時期でも木は枯れないということでした。

確かに今回の作業も八専の期間に当たり、4月末にもかかわらず切った樹木からは一滴の樹液も流れ出ませんでした。芽吹く時期で水をどんとと吸い上げているはずの樹木が不思議なことに樹液を出さない。つまり八専とは、樹木が生命の活動をちよつと一休みをしている時期に当たるのだなと言ったことがわかりました。

また、木を倒すときに用いる斧には三本の線が入っている。この三本の線の意味は、昔、斧をかういで森に入り、そして目当ての木を伐採する時にその斧をその木に立てかけ、いわゆる木霊というか、その木に宿る神様に対して山海の珍味をお供えしそれからお酒をお供えをして手を合わせ、神々のお許しを頂いてから伐採する儀式をしたのだそうですが、お供え物がない時でも、お供えさせて頂いたことにするためにその名残がその斧の三本の線に象徴化されていると言った話もお聞きしました。

職人さんには、その仕事における知恵と言うか心があるのだと驚き感心もいたしました。

普段、私たちは何気なく森を見、山を見ている訳ですがその陰には私達の目には見えない神秘

的な自然の力を大事にし、逆らわず、森を守って下さっている人達がいることをあらためて知り、つくづくありがたいと思います。

いま、東北の森や山は震災復興のためどんどん削り取られています。津波から人間の生活圏を守るため防潮堤や土地の嵩上げに大量の土が必要とされるからです。やむを得ないことです。しかし同時に、私達は自然に守られ生かされていることも忘れてはなりません。

人間のためだけに森を消滅させては貴重な動植物の生命まで奪うことになり、それはやがて私達の生命まで脅かすことにきつとなるのではないかと心配です。

森を守りつつ震災復興が出来るような、もっと良い手立てはないものでしょうか？。震災復興と同時に森の再生を是非お願いしたいものです。

溪声山色・・・平成26年6月2日

おはようございます。

新緑の良い季節になりました。筧を掃除したり、蹲踞を掃除したり、庭を手入れするのが楽しい時期になりました。

道元禅師の言葉に「池を作って月を待たず、月来たって池初めて成る」という言葉があります。これは、月が水に浮かべれば良いと池を作るのではない。月が水に浮かんでこそ池が出来たと言うものだ、と言っ意味です。

この言葉は様々な解釈できると思います。例えば、お店を開いて大勢のお客さんが来れば良いと思うのは間違いで、大勢のお客さんがやって来てこそ初めてお店を開いたことになるのも解釈できます。あるいは、お月様を悟りと解釈すれば、修行してその結果お悟りが開けると思うのは誤りで、お悟りの方がやって来てこそ本当に修行したことになるのも解釈できます。意味深長な真実のお言葉だと思います。

さて、熊本県菊池市に聖護寺という有名な修行寺があります。お寺の法堂左脇間入口壁に、今

は亡き檜崎一光老師（老師は愛媛県新居浜市の瑞応寺専門僧堂の堂長、さらには大本山永平寺副貫首をされました）の御染筆によるこの道元禪師のお言葉の書が掲げられており、聖護寺に拝登させていただくに必ず私はこの書を眺め、道元禪師と一光老師よりご指導をいただく気持ちで心を奮い起こし、そして下山することになっています。



聖護寺は非常に山深いところにあり、真に深山幽谷の地、いろいろな動物もやってきます。毒のあるマムシなども出てきます。それら全てを包蔵する仏法という自然・宇宙をありがたく感じます。

「溪声便是広長舌（けいせいすなわちこれうちょうぜつ） 山色豈非清浄身（さんしきあにしよ うじょうしんにあらざらんや）」。 「山河を見るは仏性をみるなり」（『正法眼蔵』）、もまた道元禪師のお示しです。味わうべき季節です。

陰徳を積む・・・平成26年6月18日

おはようございます。

前回、菊池市・聖護寺での話を書きましたところ、読者の方から聖護寺での他の思い出等ありましたら聞かせて下さいと希望されましたので、もう一つ心に残るお話をさせていただきますと思います。

それは聖護寺から長泉寺に帰ってくる帰路の道中の思い出です。お話を申し上げたように聖護寺は山の高いところにありますので、帰るためにはバスターミナルのある菊池市の菊池プラザというところまでタクシーで20分から30分ぐらいかけて降りてまいります。そして菊池プラザから路線バスに乗り熊本駅で九州新幹線に乗り、博多あるいは大阪で今度は東海道新幹線に乗り継ぎそして東京で東北新幹線に乗り換えて長泉寺に帰って来ます。

ある時、菊池プラザで熊本市内行きバスを待ってありましたら乗客は私1人だけでした。それで運転手さんに「このバスは熊本駅に行きますか？」と聞きましたら「熊本駅通りますよ、どう

ぞお乗りください」と言うことで、私1人を乗せて
定刻になりましたのでバスは発車をいたしました。

ところが、次の停留所で「○○町1丁目、○○町
1丁目。お降りのお客様はおりませんか？いらっ
しゃいましたらブザーを押して下さい」と運転手さ
んが案内をするわけです。えっ！？他に誰も乗って
ないわけです。私1人だけ、しかも私は熊本駅まで
行くという事がわかっていているわけですからアナウ
ンスしなくても良いのではないか？何を言っている
のだろうと私はおかしくなりました。そしてまた次
のバス停に来ましたらまた同じように「○○町、○
○町。お降りのお客様はいらっしゃいませんか？」
その次でも「○○前、○○前。お降りの方はいらっ
しゃいませんか？」と言うのです。録音テープでな
く、それが全部運転手さんの肉声なのです。

しかし、最初は何を言っているのだろうとおかし
く思ったのですが、しばらく乗って、はっといたし
ました。私はこの運転手さんのバスに乗ってよかつ
たなと思ったのです。と言うのは、そのような運行
の規則と言うかマニュアル通りに運転手さんは運転
されていた事に気付いたのです。ですから「信号待
ちになりました。少々お待ちください」また「バス

走行中はお立ちにならないようお願いをいたし
ます。転倒防止にご協力ください」。乗客がいよ
うがいまいが、普通の運行と同じようにアナウン
スをしていたことが分かったのです。そこで、私
はこのような真面目な運転手さんが運転するバス
に乗せていただいて本当にうれしく、また有り難
いと思つづく感じました。

「陰徳を積む」と言う言葉があります。見てい
ないところでも正しい行いをするということであ
す。

人は自分の他に誰もいないと交通信号を守らな
かったり、スピードを守らなかつたりするもので
すが、ルールを守る守らないは、しているその本
人にしか分からないことです。

ルールを破れば、しめしめと思う人もいるで
しょうが、むしろそのことが自分の心を苦しめ、
罪悪感や嫌な気持ちを持つ人の方が多いのではな
いでしょうか？自分自身の行為によって自分の
心が晴れ晴れと快く、清々しい気持ちになるよう
に、正しい事は誰がいなくても正しい事をせず
はいられない。また悪い事はしようとしても出来
ない。そういう真面目な正しい生き方をこの運転

手さんから学んだような気がいたしました。ありがとうございました。

こころはしぐさに現れる・・・平成26年7月4日

おはようございます。

テレビを観ていると、芸能人の所作にいろいろな不思議さを覚える事があります。

例えば、私はお酒というのをほとんど飲みませんから分からないのですが、ビールのコマーシャルでジョッキでビールを飲むとだいたい決まって役者さんは「クウー！」と言いながら首を傾けておいしそうに飲むアクションをしますけれど、ビールを飲む人は本当にああいう事をするものかなと思います。また、芸能人の多くは何か面白い事おかしい事があると、両手を打って口を大きく開け「わはははあー」と手を打ちながら大笑いしますが、そういう事は私の周りの人たちはあまりしないように思えます。おかしい時はああやって両手を打つのが普通なものかなと怪訝に感じます。

さて、私は今あることに努力をしています。その一つは「戒尺」の音です。戒尺は主にご授戒会、またはご葬儀の時に合図として打つ拍子木ですが、この「カチカチ」という音がいつでも同じ音色で響くよう、密かに努力をしています。

もう一つは、いわゆる神社にお参りする時に両手を打つ拍手です。この拍手を宮司さんのようにいつでも同じ響きで「ポンポン」となるよう努力をしています。

簡単なように見えてもこれはやってみるとなかなか難しいことで、「戒尺」も「拍手」も、いつでも同じように響かせる、これにはかなりの熟練が必要であると私は思っています。お相撲さんの呼び出しのあの扇子の開き、あるいは拍子木など、それらも陰では大変な努力をされているなと思っています。

さて、ご葬儀やご法事の時、焼香されるお参りの方々の合掌と礼拝の姿を拝見すると、この方はいつも御仏壇の前や墓の前で、またお寺で合掌礼拝のお参りを重ねている人だなと感じたり、反対にこの方はほとんどお参りや焼香もされない方だなというのがわかります。身体にその作法が染み

ると言うか、馴染むと言うか、そういう礼儀作法と
いうのはやろうと思っただけ出来るわけではなく、数を
積み重ねるうちに身体と心が一体のものとなって初
めて身に付くものだと思います。

信仰心が有るとか無いとか、そういう難しい話で
はありませんが、やはりそういうちょっとした立ち
居振る舞いにその人の心の一部が垣間見れるように
思います。

私たちの曹洞宗の言葉に「威儀いぎ即すなわ仏法ぶつぽう、
作法さほう是これ宗旨しゆじ」があります。禅僧としての正しい立ち
居振る舞いこそが仏道に入る前提であり、毎日の生
活が正しく実践され、禅の行為が実現したところが
悟りの世界だと言う意味です。つまり、日常の言
動、行住坐臥に修行の姿が滲み出てこそ本物の禅僧
であり、またそのような修行を積まなければならな
いと言つことです。

昔から見た目は九割と言いますが、私のように
見た目だけを気にする鍛錬ではだめですね。トホ
ホ……。

お盆・・・平成26年7月30日

おはようございます。

毎日暑い日が続いておりますが、皆様方が
お過ごしでしょうか。お身体に気をつけてこの暑
い夏を乗り切ってほしいと思います。

私ですが、熱中症と呼ばれる病気が頭の中にこ
びりついて水分を補給しすぎてしまい、胃液を薄
め、しかもお腹を冷やして、かえって体調を悪く
してお医者さんに数日通うと言う情けない生活を
送ってしまいました。

何事もし過ぎると体に良くないと言う事を改め
て思い知らされました。

さて、長泉寺では別紙（お知らせ頁に掲載）の
ように今年もお盆の供養をさせていただきます。
8月3日から6日までお盆の施食会供養、そして
9日には永代供養された方々のお盆の供養、また
今年新盆をお迎えになられる方々のご供養をさせ
ていただきます。どうぞ、多くの方々のお参りを
お待ちしております。

さて、お盆が近づきますといろいろな方がお寺
に足を運ばれ、いろいろなご相談事をされる方

が多くなります。御仏壇のこと、お墓のこと、お位牌のこと様々なご相談の内容及ありますが、最近特に多いのは家庭での家族間のトラブルごとが増えてきたということです。故人様となられた方の遺産の相続のトラブル、あるいは墓地等の継承のトラブル等々ですが、お寺から家庭の問題の中に入り込む事はなかなか難しく、住職としても困っているのが実情です。

家庭の中の平和というのがやはり一番の幸せだと、つくづく思うお盆の季節であります。

お盆には亡くなられた仏様（ご先祖様）も帰ってまいります、遠くからお身内の方々も帰ってまいります。いわば家庭は皆が集う浄土です。そのご縁を大事に、なごやかな家庭を造って遠くにいても心が通じ合う、そのような人間関係を築いてほしいと思います。

失礼いたしました。

蚊取り線香・・・平成26年8月13日

おはようございます。

お寺はこのように広い建物ですから、夏場になりますと蚊取り線香が欠かせません。ご本堂あるいはお墓にお参りに行く時、あるいは外で草むしりや庭掃きをする時、蚊取り線香はいつも身近にあって虫除けに使う大切なものの一つです。

ところで、最近ふと、蚊取り線香を眺めて感じたことがあります。ここではメーカーさんの名前は差し控えますが、A社の蚊取り線香、B社の蚊取り線香等々、その会社で渦の巻き方が様々だと言うことに初めて気がつきました。A社が右巻きだったら我が社では左巻きにする。そういうなんとも言えない対抗意識と言っか、会社の独自性を打ち出そうとする、そういうお考えがあるのかもしれません。

けれども、左巻は何となくイヤですね。ワハハ・・・いや、これは失礼しました。

さて人の仕事を見ていると、掃除をする時にも雑巾をきつく絞って拭く人もいれば、ゆるく絞ってだらだらと雫を垂らして床を拭く人もいま

す。拭く布が濡れていけば雑巾が滑りやすく早く仕事が終わりますが、拭いた後はいつまでも濡れていて、これでは掃除をしているのか水でワックス掛けのように床を濡らしているのかわかりません。きつく絞れば布は滑りにくく掃除は大変です。ゆるく絞れば布がなめらかに滑って掃除をするのは楽です。けれども何のために床を拭くかを考えれば、それはゴミを拭い床をきれいにするためです。そのことをいつの間にか忘れてしまって掃除がしやすい方しやすい方へという風に人間は考えてしまいます。

仕事の上でも同じことで何のために仕事をするのか忘れて、仕事がしやすい方に私たちは流れてしまいます。

大変失礼ですけど、原子力発電所の事故も本来はこうすべきだと言うマニュアルをいつの間にか簡略化してしまって、仕事がしやすい方に人間が変更して起きたということもあつたのではないかなと思います。

禅僧が修行する僧堂においては、お師匠さんは弟子に対し、どうすれば悟りが開けるか最短な道を修行のその時々で指導してくれます。それを自分なりに解釈し変更して悟りに到達しようなどと考えれば

逆に悟りに遠くなるということを改めて修行僧の方は知っておかなければならないと思います。失礼いたしました。

終戦の日・・・平成26年9月3日

おはようございます。

秋が近づき朝夕めっきり涼しくなりました。庭には鈴虫の音が鳴り響きます。

さて、今年の8月15日の終戦記念日もまた暑い日でありました。日本武道館で行われた追悼式典にテレビを通して参列された方も多いと思います。私もテレビで参列をさせていただきました。祭壇の中央には「全国戦没者之霊」と大きな白木の塔が立っております。

実は長泉寺でも先の住職が健在だった頃より、否、おそらくは戦後まもなくの頃より戦没者のための供養のお位牌を中央にお祀りをして毎日ご供養を申し上げておりました。（余談ですが、父親は駒沢大学在学中に学徒出陣。海軍予備学生第11

期生であった。同期の方々は皆優秀で、私も何度かお会いしたが父は彼等と出会えたことを終生誇りとしていた。)

さて、私の代になり、我が国の戦没者の方々への供養も勿論ですが、世界中でいろいろな国難で亡くなられた方々への供養をもと思い、これを私は「万国殉難者諸精霊」と新しく白木のお位牌に書き、先の住職のお位牌は脇の方に移動させていただきました。現在はそれに加え「東日本大震災遭難者諸精霊」と表書きをした白木のお位牌を作り、2つ並べて毎日ご供養をしています。

(ご参考までに、檀信徒の皆様にお配りした本年のカレンダーをご覧になってみてください。)

ですから、我が国の戦没者追悼のための終戦記念日ではありますが、政府として世界中の戦争の犠牲になられた方々への追悼の言葉も併せて述べていただき平和を祈って欲しかったと思いました。

ところで今年の終戦記念日の大きな反省のひとつ、と言ってもこれは長泉寺の反省ですが、長泉寺



でも黙祷の意味を込め正午に梵鐘を打つことになっているのですが、梵鐘を打つ担当の若いお坊さんの手違いで正午に間に合いませんでした。後で私はそのお坊さんをきつく叱り、こういう時に失敗をするというのはとにかく最低である、どういう気持ちで撞かなければならないかと言う事をよく考え、毎日の禅寺での行持を勤めなければならぬと諭しました。

漫然と鳴らし物をするのではなく、鳴らし物が私たちの心に伝える意味を考え緊張して打たなければならぬ。こんな話をしたわけです。

近頃、政府は集団的自衛権などと叫び、なんだか嫌な世の中になってきました。今後もずっと戦争のない平和で幸せな日本国であるよう、強く祈った終戦記念日でした。

多忙にまかせ更新が遅くなりました。お詫びします。

お彼岸・・・平成26年9月25日

おはようございます。

今年の秋彼岸は穏やかな日に恵まれ、例年よりお墓参りの方の人出も多かったように感じました。

今年は蚊を媒介とするデング熱が大流行したので、お寺でもお盆の時の蚊の駆除に引き続き、初めてこの秋彼岸にも蚊の殺虫の消毒を実施しました。

また幼稚園でも園児たちが気持ちよく外で外遊びができるよう、毎朝先生方が草むらに殺虫剤を噴霧したり、あるいは子供たちに虫除けのスプレーをするなどその対策に努めています。しかし、相手は蚊という生き物ですから、なかなか人間の思うように駆除できないことも事実です。したがって、墓地等にお参りされる場合には各自、防虫の準備をされてお参りくださるよう、お寺としてもお願いをいたします。

さて、お中日に私もお墓にお参りにまいりました。そうしたら遠くの方から笑い声が聞こえ、楽しそうな声で賑やかに会話する女性たちの声が聞こえてきました。何だろうと思いついてみると、お墓に来られて何年ぶりかでお友人たちと会い、こんなと

ころで再会できるのも何か仏様のお導きじゃないかと言って楽しそうにお話をされているのでした。「そうか!!」お墓参りというのは亡くなられたご先祖様とだけでなく、同時にお参りの方どうし互いに心を通わせ仲良くお話をできる、そういう場でもあるのだとつくづく感じさせて頂きました。

さて、お彼岸というのはご周知のように日本だけの習慣で他の仏教圏の国ではこのような風習はありません。お彼岸の中日、即ち春は春分の日、秋は秋分の日ですが、その日は昼と夜との長さが同じ日で太陽は真東から上がり真西に沈みます。

ところで、昔から浄土というのは西にあると信じてられています。したがって、中日に沈みゆく夕陽は真西へ、つまり極楽浄土に向かって真っ直ぐのところへ沈んでまいります。ですから彼岸の中日には、その沈みゆく太陽に手を合わせ浄土に対して正面から手を合わせることが出来るわけです。この中日を挟む1週間を彼岸として亡きご先祖様を偲ぶとするこの習慣を考えた日本人の自然観というか宗教観という事に対して改めて私はあ

りがたいと思い、感動をおぼえます。

宗教離れが進んでいると叫ばれてはいますが、これからも古人に負けない宗教心を持ち続け、このようなありがたい彼岸の教えをずっと伝えていけるような日本人であって欲しいと願うばかりです。

達磨忌・・・平成26年10月12日

おはようございます。

10月5日は達磨様がお亡くなりになられた日、
達磨忌だるまきでございます。

景德傳燈録けいとくでんとうろくという書物には四九五年10月5日に達磨様は百五十歳で亡くなられたと、そう書いてございます。百五十歳とい

う長寿で亡くられたのですが、達磨様はご存知のよう
にインドから中国に禅を伝えられた方でございます。
す。



嵩山すうざんの少林寺という所、少林寺拳法で有名なお寺ですが、そこで面壁九年、九年間坐禅をされました。禅の教えというのはこれだよと、ただひたすらに、お悟りを開かれたお釈迦様と同じ姿一体となって座ることだよと、座る事はそれ自体が悟りであり修行なんだと言う事を伝えられた方でございます。従いまして、その日は我が曹洞宗のお寺さんでは達磨様を偲んで法要が営まれるわけがあります。

この10月5日の達磨忌は別の意味もございまして、それはすなわち坐禅堂に夏の間、扉の代わりに、入堂する時それから退堂する時にその簾を下ろすわけなのですが、竹製の簾を冬用の布製の簾に替える日でもあります。簾を変えるという意味でこの日を関聯の日とも呼んでおります。のれん（暖簾）というのは暖かくする簾とこう書くように、竹製の通気が良い簾から風を、冷たい風の出入りを防ぐ布製の簾に替えるという日でもあります。

長泉寺でも坐禅堂の簾を替えそれから庫裡の方にお立てしてご来客の方々を涼しくお迎えをしております夏用の建具を冬用の襖戸に替えまし

た。気づかれる方が意外に少なく、まあそれもいいかと思うのですが、夏と冬の建具、お寺のおもてなしも季節によって替えているんだと言うことも、お寺に来た時に感じ味わって欲しいなと思います。

日に日に朝夕寒くなります。お風邪などを召さなようにお励みくださるようお祈りをいたします。

新幹線50年・・・平成26年10月22日

おはようございます。

昭和39年10月1日東海道新幹線が開業いたしました。そしてその九日後の10月10日に東京オリンピックが開会されました。私が小学校5年生の時です。

さて、今年はその東海道新幹線が開業してから50周年の節目の年に当たり、この10月1日もたくさんのお鉄道ファンで東京駅が賑わったとニュース等々で大々的に報道されました。

私は鉄道ファンではありませんので詳しい事は分かりませんが、鉄道に詳しい方から聞いた話によ

りますと、東京駅の駅長室に、大本山永平寺の貫首（永平寺第七十六世（1976-1985））はたえ ぎやくせんじ 秦慧玉せいぎやく 禅師のご染筆の「無事」と言う書が掲げられているそうです。（無事（ぶじ）これは「むじ」とも読みます）。

そして、この「無事」という書が掲げられている前で、毎朝8時半から9時まで関係の方々が集まり駅長さんを中心に朝のミーティングが開かれていると言うことでした。私は駅長室に入ったことはありませんし、どのようなご縁で禅師様の書が駅長室に飾られるようになったか、その経緯についてもわかりません。

しかし、この書は、今日一日、事故のない安穏な日であるようにという祈りの思いで掲げられているに違いないと思量されます。

例えば、『「みよひょうじん伝」』という書物の中に「今日の無事はひとえに母の御蔭なり」という言葉が出てきますが、乗客の安全を祈りながらお仕事をしている鉄道にふさわしい書だったのかもしれない。さらに『臨濟録』の中には、「無事の人」



という言葉があり、仏道に徹して、淡々として生きる人と言う意味で使われています。

東海道新幹線のその正確な時刻表は、世界から驚嘆されていますが、時刻表と実際の発着の差が1年間でもわずか数十秒だと言っています。

我々にとってはダイヤが正確なことは当たり前と思いがちですが、1年間を通じてほとんど誤差がないという事は驚くべきことと思います。

この正確無比な定時発車の信念を貫き、励行する几帳面さは、私たちの修行に似ています。「鉄道」という修行に徹し、無心に業務（ダイヤ道）に合する生き方に励み、喜びとする姿勢は、そのまま禅で言う「平常心是道」、悟りの境地そのものです。まさに「無事是貴人」です。

いつも新幹線を利用して移動させていただいている私ですが、駅長室に無事（ぶじ・むじ）の書があるという話を聞いて、我が曹洞宗の禅師様の書が鉄道員の心の支えとなって車輛を運行していると思うと、少し誇らしい気持ちになります。

落ち葉・・・平成26年11月12日

おはようございます。

今年も市内・稻置の遠藤栄一様からご自身で作られた見事な菊をお寺に飾って下さいと、ありがたいお申し出を頂きました。多くのご参拝のお客様に喜んで頂いております。感謝、感謝です。



さて、長泉寺にはこのとおりたくさんの方葉樹がありますから、落ち葉を「腐葉土にしたいので譲って下さい」という方が多くて差し上げることが多かったのですが、震災後、放射能の心配からか、「腐葉土にしたいので下さい」という申し出の方が少なくなりました。否、少なくなったというよりは皆無になりました。もちろん放射線量が高いことはないのですが、いろいろな心配をされる方が多くなったのだと思います。そこで、今年も庭にたくさん枯れ葉が落ちておりますが、庭掃きして集めた落ち葉は、さらに一箇所に貯めてそれを大きな箱に積み上げ、いっぱいになったら廃棄物処理業者にお願

いをして廃棄しているわけです。

けれども、枯山水の庭にした部分はもう掃ききれま
せんで落葉し尽くすまでそのままにしておくことに
しました。せっかく枯山水の庭を見にきたのに、これ
では落ち葉の山だと、がっかりしたとの多くの声も聞
こえてまいります。どうぞこのゴミの問題と環境の
問題に長泉寺も苦勞しながら取り組んでいる現況をお
察しいただきまして少し目をつぶっていただきたいと
お許し下さい。

冬になれば雪の降った銀世界のお庭を皆様方にお約
束をいたしますのでそれまでしばらくご辛抱をお願い
したいと思います。失礼いたしました。

箸の持ち方・・・平成26年11月15日

おはようございます。

NHKの朝の連続ドラマ「マッサン」は、今、大
変な人気で視聴率も高いように伺っております。

特に「マッサン」のパートナーで奥さんのエリー
さんは、スコットランド女性でありながら、日本人
妻として生きて行きたいという大変健気な女性に描
かれていて、この姿が爽やかで人気があるように思

います。そのエリーさんが箸の使い方が出来なく
て、お姑様から意地悪をされながら豆を挟んだり
して、練習しながら努力をするシーンが放送され
ました。

さて、禅宗ではおつりようせ応量器とい
う特殊な器を用いて朝のお
粥、中食（昼食です）、薬
石（夕食です）をいただきま
す。その器の使い方は独特な
作法で大変なのですが、その
作法よりも私も修行道場で最近困っている事
は、特に若い修行僧の方々や初めて修行道場の門
を叩いた方々の箸の持ち方が非常に乱れていると
いうことです。



お箸の持ち方は鉛筆の持ち方と同じだと言われ
ていますが、どうもこれをうまく持てなかったり
使えない若者が修行に訪れるようになりました。
これは1ヶ月や2ヶ月の特訓ではなかなか直すこ
とができません。

やはり、それぞれの家庭での小さい頃からの使
い方が大事で、お箸の使い方が身に付いていない
と応量器の使い方も上手に出来ません。このよう

な生活の基本という事は、おばあちゃんお母さんそして子供というふうに伝えていてこそ我が身に染みるものだろうと思量します。

特別なところに行って修行するというのではなく、まさに身近なところに私たちの学ぶべきことは多く、しかも何気なく自然に正しい所作をしている姿こそ美しいものはないと思います。失礼をいたしました。

弔辞・・・平成26年11月24日

おはようございます。

特別企画「弔辞・・・鮮やかな人生に鮮やかな言葉」という宣伝文句に惹かれて『文藝春秋』12月号を買い求め拝読をした。ところが期待をしていた特別企画の各界著名人の弔辞は何か一つ私の心にピンとこず、いささか落胆をしてみました。ともかく、いろいろ様々な弔辞があるということだけは勉強さ

せてもらった。

それよりも私の心にとまった文章がある。それは「追憶二人の将軍」というタイトルで元陸上自衛隊幕僚長の富澤暉様がお書きになった文章である。その中に結婚式の思い出が書いてあった。

・・・結婚の時には今村均元陸軍大将に仲人を引き受けて頂いた。披露宴で私の名を（暉）を「ひかる」と読まず、「あきら」君と読んで後で奥様に叱られていたようだが、お仲人が「あきら」と呼んだら私の名付け親である佐藤春夫氏はじめ当時の鏘々たる来賓が祝辞で全員「あきら」君で通した。これには「明治」を感じたものである。・・・という文章である。

仲人を引き受けて下さって挨拶をされた方は有名な今村閣下である。面前で閣下に恥をかかせることをせず、閣下に右ならえで淡々として故意に間違っ言うあたり、その当時の方々のなんと言うか心意気というものを感じた。流石というべきであろう。

さて、弔辞といえば、昔からの常套句である「溘焉(こうえん)として逝去されました」というフレーズ(にわかにお亡くなりになったという

意味)や「長逝されました」、すなわち永久に逝って帰らぬこと、つまり末永く浄土で安らかに眠るという意味でしょうが、そのような昔からの弔辞の常套句は今、なかなか聞くことが出来なくなった。

時代の趨勢と言えはそれまでだが、弔辞というものにはある程度形式というものがあって然るべきではないかと思う。文語調で学術的な弔辞も困りものだが、かと言って口語調で品性のないのも聞くにたえない。ちよつと葬儀の度に寂しく感じる近頃である。

なお、富澤氏は上記の文章に続き、下記の如く今村閣下の思い出を書いておられる。銘すべきであろう。

・・・防大に入ったばかりの頃、私は不躰にも「私も軍人になりますので、死生観について教えて下さい」とお聞きしたことがあった。閣下は静かに「私に死生観をお教えることは出来ません」と言われた。

「恥ずかしいことですが、実は私はラバウルの始末が一応ついた時に、自決しようとして失敗してしまいました。飲んだ薬が古くなっていて効かなかったのです。それ以来、死というものを自分で決めることは出来ないと考えています」とのことであった。今村閣下は若造に対しても、素直に丁寧に、お話しして下さる方であった。・・・

夫婦円満・・・平成26年12月29日

おはようございます。

今年も残すところあとわずかとなりました。皆様方今年1年はどのような1年だったでしょうか。今年1年を振り返り、清々しい新年を迎える意味で長泉寺では毎年大晦日夜11時から除夜の鐘をお届けしております。どうぞ皆様方も奮って撞きにお越しくくださるようお待ちしております。

例年通り紅白の鐘餅と温かい年越しそば、甘い甘酒を準備しております。ご家族様おそろいでおいでくださるようお待ちしております。

さて角田市の広報「広報かくだ・新年号」によりますと、本年11月30日現在の人口は3万7百66人でした。私の推測では、今年お生まれになった赤ちゃんの数からお亡くなりになられた方の数を差し引ますと二百50人ほどのマイナスとなる計算になります。したがって、単純に考えればあと3年ほどで角田市は残念ながら3万人を割る計算となってしまう。非常に寂しく残念でなりません。市長様はじめ各方面の方々も人口をどのようにして増やすか腐心されているとは思いますが

が、私なりに一つ案を申しあげたいと思います。

それは「律儀者の子沢山」と言う諺ことわざです。すなわち、律儀な男は遊びにふけったりすることもないので自然と夫婦仲も良くなり、その結果、子供が沢山生まれるという諺が昔から言われておりますが、そのように夫婦仲が良い、円満な家庭を作るといことがひいては人口増加につながるのではないかと考えているのです。

これは明治安田生命保険相互会社が毎年11月22日（いい夫婦の日）にちなんでアンケート調査をしている報告によりますと、夫婦円満のためには何が必要だと思えますか？という問いに対して、やはりよく会話をすることが一番だと答えたご夫婦が非常に多いという結果が出ています。愛情度が高いから会話が増えるのか、会話が多いから愛情度が高まるのかはわかりませんが、ともあれ夫婦間の愛情を高めるためには会話によるコミュニケーションが重要だと言つふうに考えている人が多いことがわかんと思えます。

家庭円満で夫婦喧嘩をしない家庭であれば子供たちもすくすくのびのびと安定した心で育つことが出来るのは間違いありません。

次に、これから紹介をいたします都々逸は私が会長を勤めさせていただいております角田・丸森地区防火管理者協議会で紹介をした都々逸ですが、「目から火の出る所帯を持ってど火事さえ出さなきや水入らず」という都々逸です。家庭円満そして家内安全これに努め家庭から明るい笑い声と楽しい会話そういう家庭の中にこそ社会を良い方向にしていく原動力が生まれると思います。そう信じて来年も平和で明るい社会になるよう祈りたいものだと思います。それでは除夜の鐘の時に皆さんとお会いしましょう。今年一年ありがとうございました。

あけましておめでとつございます・・・平成27年1月1日

あけましておめでとつございます。

皆様方におかれましては良い春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。お餅はたくさん召し上が

りましたか、お正月に美味しいお雑煮をいただくことぐらい幸せな気持ちになる時はないと思います。

さて新年早々難しい話をするようで大変恐縮ではありますが、新約聖書マタイ伝に「人はパンのみにて生きるものにあらず」という有名な言葉が出てまいります。

人間は食べ物などの物質的満足だけで生きるものではない、精神的な満足を得てこそ生きられるものだという意味とあります。神の口から出る一つの言葉によって私達は生きるものである生かされるものであると言うふうに新約聖書は説いております。しかし、現代は物質の豊かさに流され、精神的な豊かさ満足が得られない時代になったと言われていると思います。

この言葉は、私たち僧侶の立場においても布教・教化の点からも反省すべき言葉であります。より多くの方々に、気安くお寺においでいただき、お寺でゆっくりとお茶を召し上がっていただきながら何か宗教的な心を感じていただく、神様や仏様のお力で生かされているんだ、そのような安心（あんじん）が得られるようなお寺にしなければならぬと思います。

お寺にはパンはございませんが、心落ち着く本堂と心やすらぐ庭園と暖かいお茶がございます。

お寺本来の自然の空間とお香の香りのする静けさの中で、生命の豊かさと悦びを感じていただきたいと思えます。この一年よろしくお願いいたします。

皆様方のご健勝とご繁栄、ご活躍を心よりお祈りをいたします。

長泉寺の朝・・・平成27年1月8日

おはようございます。

禅宗のお寺ではまず起きて坐禅です。その坐禅をする前に、行香と言って諸堂にお祀りする仏様にお線香をあげてご挨拶をし、そして最後に坐禅に入り、文殊様（聖僧様）にお香をお供えして、坐禅をさせていただく「行」を勤めています。

そこで長泉寺では毎朝どのようなにして、行香をしているかを今日はご紹介致します。

まず最初に護法韋駄尊天さん。俗に言う韋駄天

さんとは仏法伽藍守護の仏様です。
かまど（竈）もお護りをいたしますので火消装束のような鎧を着た勇ましい格好をした仏様です。

続きましておトイレですね
「東司」と呼ばれています。

東司の仏様、烏枢沙摩明王様
にご挨拶をします。数年前に
「トイレの神様」という歌が流
行りましたが、いわばこれはト
イレの仏様ということですね。

その次に御開山様・開山堂に
赴き長泉寺を開かれた即庵宗寛
禅師様その他歴代のご住職様に
上香三拝してご挨拶をします。
そしてご本堂にまいります。



そこで上香三拝をし、それから坐禅堂に入り文
殊様にまた上香三拝していよいよ坐禅となりま
す。で、朝5時40分に坐禅が放禅いたします。
1人のお坊さんは6時の梵鐘を撞きに参り、
残った私が朝のお勤め、いわゆる朝課（読経）を
いたします。

朝課がすんだら、「戦没者慰霊塔」そして伊具
地区三十三観音の一つ（第31番）である「十一面



観世音菩薩」（一体は伝来のもの、もう一体は篤
信の神尾様からご寄進賜った十一面観世音菩薩）
にお参りをいたします。

その次に、本年中に亡くなら
れた方々の白木のご位牌が並ん
でいる新亡精霊の位牌壇。戻っ
て、今度は玄関のところにある
もう1体の韋駄天様に参り、



長泉寺の節分・・・平成27年1月23日

おはようございます。

お正月だからというわけではございませんが、今日はお許しをいただいて少しエッチ？なお話をさせていただけます。

これは今から20年ほど前のことだったでしょうか、吉川弘文館(よしかわこうぶんかん)という出版社から毎月出版されている『日本歴史』の、ある年の1月号研究余録に「姫はじめ」と言う文章が載りました。

これはお正月になって最初に男女が同衾(どうきん)する、つまり肉体関係を持つ、そのことについて歴史的資料をもとにして研究された文章でございまして、「姫はじめ」の日は古来より1月2日に決められている神聖な儀式であるということをしていろいろな歴史書をひもといて述べられたありがたい論文でございました。

この文章を読みまして、私は世の中にはこのような貴重な研究を真面目にされている学者さんもいるのだと非常に嬉しく、頼もしく思いました。ところがそれを私ははっきり、何年の1月号に



「般若心経」をお唱えして今日一日の無事をお祈りいたします。

最後に丈室と言つて住職の部屋ですが、そこにも

お仏壇(内仏)がありますのでお線香を立て

三拝し、読経をいたします。

以上が大凡毎朝の流れです。

このような毎朝のお寺の生活は、他人様から見ればせわしなく面倒な事かもしれないが、私どもにとってはそれが身についた日々の生活になつており何の不自由も感じていません。朝4時50分起床、6時40分頃までの長泉寺の日常です。ありがとございました。



載っていたか忘れてしまいました。ですから、そのご研究をここで改めて皆さんに紹介することができません。今はパソコンの時代ですから、ご興味のある方はお調べになって、詳しくご覧になっていただくとよろしいかと思えます。

さて間もなく節分がやってまいりますが、長泉寺の節分はいつの頃からかわかりませんが、年男の方々が各自スリコギを両手でもちまして福男が「福は内、鬼は外！」と掛け声をかけながら福豆を撒いた後に、「ごもつとも！」と大声に叫びながらそのスリコギを、豆を拾わんとする人（特に女性）の股間に押し当てるという奇祭が伝わっております。

この「ごもつとも様」と言う長泉寺の節分の風景はテレビでこれまでも何回も放送され当地でも有名になっていきます。この風習は秩父の三峯神社に伝わっている奇習だということを知り、三峯神社の節分では、そのスリコギを大事そうに厳かに天に向けて捧げ上げるように「ごもつとも！」と大声に奏上し、五穀豊穰を祈っている姿がNHKで放送され深い感動を覚ええました。

鬼は外と言って豆をまき、その豆をほりほりと食べるだけの現代的な豆まきとは異なり、むかしの節分に

は身近にある様々な疫病を追い払い、今年も稔りの多い年になるようにという切実な現実的願いと子孫繁栄がその行事に込められており、その熱い心を感じます。

さて、今年の長泉寺の節分豆まきは、2月1日、日曜日の夕方4時からです。本来であれば節分当日に行うのが当然ですが、子供たちのため、集まりやすい日曜日の午後節分の意味を、お話をしながら行事を実施しているわけです。どうぞ皆様も多数お越しいただき、今年の厄落とし、五穀豊穰、子孫繁栄を祈願していただきたいと思います。

お菓子等もたくさん用意しております。お待ちしております。

2月1日(日) 午後4時から

2月1日(日)は、長泉寺恒例の節分会(豆まき)です。《雨天決行》
どうぞご家族様おそろいでお参りいただき、縁起物の「福豆」をひろって下さい。
たくさんの福菓子も用意しております。《参加費無料》

せつぶんついなえ

節分追儺会

今年の豆まきは
2/1(日曜日)です!
間違えないでね!

長泉寺の豆まきでは、「福はうち、鬼はそと!」の年男・年女の発声のち「ごもつとも」と呼応して、若衆が持ったスリコギをそっと参集者の股間に押しつけます。つまり子孫繁栄と五穀豊穰をお祈りしながら「鬼の門には難入る」を地でいこうというわけですね。どうぞこの少しエッセイな豆まきに皆さんおそろいでおいで下さい。

F981-1505
角田市角田字長泉寺 6 9
TEL 0224-62-1004
FAX 0224-63-0063

曹洞宗
長泉寺

課題・・・平成27年2月6日

おはようございます。

先日の2月1日の豆まきには雪で足元の悪い中、親子約三百50人の方々がお集まり頂き、盛大な豆まきが行われ大変嬉しく感謝をしております。

当初は戸外で豆をまく予定でしたが、雪が降り積もっておりましてので急遽本堂の中で、まあ芋洗い状態の中で賑やかに、賑やかというよりもなんか入り乱れて年男様も豆を拾う子供たちもわけがわからないうちに豆まきが終わってしまいました。ともあれ今年1年健康で無事で良い年であるように願いたいと改めて思っています。

さて、名古屋で年老いた女性を未成年の若い女子学生が殺害をしてしまうという悲しい事件がおきました。新聞によりますと、この加害者の女性は子供の頃から人を殺してみたかったという願望を持っていたということ。殺人事件は言うまでもなく、この報道は、私たちにいっそう衝撃を与えたニュースでした。

そこで、幼稚園の先生方にレポートを提出するよう課題を与えました。それは子供から「なぜ人を殺

してはいけないの？」と質問されたら一体どう答えるかということ。です。

このような質問を大人にいたしますと、まあほとんどの大人は次のような行動を取ります。

つまり、その問いにふさわしい適当な答えがどこかに書いていないかとまず本を調べたり、あるいはパソコンを開いて検索をして他人様がどのような答えをその時にはするのだろうかということを探します。そしてその中に自分の考えと合った、あるいは書かれた人の考えにギリギリ納得をして、同調出来る答えが見つかりますと、あたかもそれが自分の考えであるかのようにして子供に返答するということ。をします。

けれども、それでは子どもの中にはきちんと届かないと思います。当たり前です。借りてきた考えですから子どもに納得させる迫力がありません。間違っているにしてもいいから、自分が生きているこの時間、今まで生きてきてこれまで培ったまた経験や考えを下にして自分の考えできちんと子供に相対する、こういう姿勢が大事だと思います。

正しいもつともらしい事を答えるというよりも正面から子供の心にぶつかっていくそういう親の

視線が子供にとっては嬉しいもの信じられるものだと確信します。

さあ、あなたなら「一体なぜ人を殺してはいけないの？」それに対してどう答えるでしょうか。一人一人の課題として今回のニュースを見てほしいと思います。

失礼致しました。

メガネ・・・平成27年2月17日

おはようございます。

最近、とみに視力が低下して困っております。先日検診をいたしました。今までは左右眼鏡を使用して1.0と1.0でした。ところが、今回は左目だけが0.6まで低下して非常に驚き、自分もがっかりしております。さっそく眼鏡を新調と言うことになったわけですから、実は昨年の春からこれで三度も眼鏡を取り替える羽目になっているのです。

視力が低下していちばん困るのはお風呂に入った

時です。お風呂にあるボトルに入ったシャンプーとかリンスとか、そういうもの、もちろん私は頭を剃っておりますのでリンスなどには縁がありませんが、そのボトルに表示されている字を読むことができません。眼鏡をかけて入浴される方もいらっしゃるかもしれませんが、大体は眼鏡を外してからお風呂に入るのではないのでしょうか。ですからこのボトルにいったい何が入っているのかわからないと言つことで苦勞します。

それから、まあいわば色々なそういう小さな字、これが読めなくなってきた、目に老人に優しい表記とか言う言葉が本当に身にしみて感じられるようになりました。

僧堂においては、これは節電というか何と表現したらいいかうまく言葉で言い表せませんが、とにかく照明が暗いです。御本山では3時あるいは3時半に起きて暁天坐禅に参りますけれど、本当に暗くて長い廊下を歩きます。また坐禅堂も暗く、暁天坐禅が終わり、ご本堂で朝課のお勤めをする場合の照明もなかなか薄暗い状態で、そういう環境に慣れているものですから修行僧にとりましては、世の中はうすぼんやりした明かりという

のが当たり前だと思えて来ます。

けれども、若い修行僧にも眼鏡を多く使う人が増えてきました。そしてフレームですけれど、仏様には金属は無礼に当たると言う理由で、例えば永平寺では黒いプラスチックのフレームの眼鏡を使うことが定番になって居るようです。

方丈さん照明を明るくした方が眼鏡の度をアップするよりも効果がありますよと、どこの眼鏡屋さんでも御指導いただくわけですが、それがかなわない私ども修行僧にとりましては度数を高くするしか方法はないと言う悲しい立場の人間になってしまいました。

さて、童謡に「トンボのメガネは水色メガネ。青いお空を飛んだから」と言う美しい歌詞の歌があります。先入観や偏見によって人や物事を見るステレオタイプの色メガネだけはかけまいと誓っています。

その一言・・・平成27年3月1日

おはようございます。

東京に出かけると驚くことが多いです。先日も所用のため東京に出かけ、山手線や都バスに乗ってふと中吊り広告を見ましたら、生きている人間のためのマンションの広告より亡くなった方々を納骨するマンション型霊園の広告が圧倒的に多くて本当に驚いてしまいました。

マンションというビルは永久的に建っているわけでもないでしょうからビルが無くなったらこの納めたお遺骨は一体どうなるのかな、そんな疑問の目で広告を眺めておりました。企業人はいろいろなことを考えるものです。

すると、ある学園の入学案内の広告が目に残りました。その広告の中に、次のような言葉が書いてありこれを読んでまた驚きました。「その一言」という言葉です。その一言で励まされ、その一言で夢を持ち、その一言で腹が立ち、その一言でがっかりし、その一言で泣かされる、ほんのわずかな一言が、不思議に大きな力持つ、ほんの一寸の一言で、というものでした。

あれ!?!?と思いました。と言うのは山田洋次監督の大ヒット作映画「フーテンの寅さん」の舞台となる団子屋さんの「とらや」、その電話の上に中国のある僧侶の言葉よりという小さな貼り紙があつて、映画好きの方なら誰も気づかれる言葉ですが、その貼り紙の言葉を思い出したからです。文言は次のようなものです。

言葉は心。一つの言葉で喧嘩して、一つの言葉で仲直り、一つの言葉で頭がさがり、一つの言葉で笑いあい、一つの言葉で泣かされる、中国のある僧侶の言葉より。

募集広告とフーテンの寅さん、この二つの言葉がすごく似ており、私はフームと思いました。早速帰りまして調べてみたところ、この学園のほうの言葉は1999年の4月1日に学園の創始者がお作りになられて、学園の入り口の記念碑彫られてあるということがわかりました。

フーテンの寅さんのほうは「中国のある僧侶の言葉より」となっておりますので、なんとなく古いような感じがいたします。まあ似通っているだけで二つのこの言葉には関係がないのかもしれませんが、私は何となく、いまでも不思議な気持ちであります。

また、この中国のある僧侶の言葉とありますが、一体どのお坊さんの言葉であるか調べてみたのですが、私には出典がわかりませんでした。ともあれ、この中国のお坊さんの言葉を私は大きく書いて幼稚園の先生方に1枚ずつ配り、お部屋に貼って保育の心構えの一つとさせています。

なお、今日の私の話に関連して、臨済宗妙心寺派實相寺公式サイトに、「ひとつの言葉で喧嘩して」があります。参考にどうぞ……。

3月11日・・・平成27年3月11日

おはようございます。

今日3月11日は東日本大震災発生の日で、あれからもう4年、数多くの方が犠牲となり、そしてまた数多くの方々が行方不明のまま今も見つかっておりません。まことにその衝撃は私たちの心に深く残り、悲しみは今もこれからもずっと消えることはありません。

宮城県ではこの日を「みやぎ鎮魂の日」と定め、各地各方面で哀悼の誠を捧げております。当長泉寺でもご供養をもうしあげ、多くの犠牲の方々に改めて慰霊の誠を捧げました。

さて先般、長泉寺のお檀家の方で震災の犠牲になられた方のご遺体が3年10ヶ月目で発見され、ご葬儀をさせていただきました。ご家族の様の心の中には、震災でもう娘は生きてはいないだろうなという諦めの気持ちも少なからずあったと思いますが、結局ご遺族の方々は遺骨が発見された日をご命日と定められました。震災に遭遇したとしてもどこかできつと生きているにちがいない、そういうご自分のお気持ちが発見日を死亡推定のご命日と決めたことに託されたような気持ちがいいたします。

「天災は忘れたことにやってくる」とか「災難のときには災難に遭うがよろしい」（良寛）のお言葉もありますけれど、真意はともかく、被災された方々には何の意味もなく、むしろ腹立たしくさえ思えるにちがいません。悲苦の現実を受入、折り合いをつけるのは自分自身でしかできません。それに私たち支援する者がいかに手を差しのべるかが大切なのであり、いろいろな手立てで救われるという

事はなかなか難しいことだろうと思います。

悲しい出来事を決して忘れぬよう深く心に刻み、被災された方々との「縁」をつなぎ続けること、これが最も肝要なことと信じます。

五月病・・・平成27年5月10日

皆さんこんにちは。

文章を書くのが苦手で長い間ご無沙汰をいたし、前回の文章を載せてから二ヶ月も経ってしまいました。年度末、年度始め、いろいろな事があって、なかなか筆を持つ意欲が湧かなかつたと言ってしまうばそれまでですが、本当にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

今日は幼稚園の話を書かせていただきましたと思います。4月に入園をした子供達をご両親の元を離れ、ようやく幼稚園の生活に慣れたところに連休が入りますと、子供達はまた甘やかされる家庭生活に戻れるという訳で連休後、登園を渋ったり泣いて登園をするお子さんが多くなってしまう

す。

小さい幼児が親元を離れて初めて経験する集団生活の場、そこが幼稚園ですから、幼児が不安になるのも当然です。これはお家、特にお母さんが恋しくて泣くとばかり私は思っておりましたが、そうばかりではないという事をこの頃初めて知りました。

それは、私が幼稚園に行くとお母さんは「幼稚園でどんな事をしてるのかな？一人で大丈夫かな？」と心配になる。私がいけないことで不安になっているお母さんのことを思うと、子どもは逆にお母さんのことが心配になってしまっただけ泣いてしまう、こういう子供もいるのだという事が最近わかりました。

ですから、おうちの方にはまた登園を渋るのではないか、幼稚園で泣くのでないか、駄々をこねるのではないかと心配顔で幼児を幼稚園に送り出すのではなく、「あなたがお母さんを頼らず自分の力で幼稚園に行くってくれるのは嬉しいよー」と笑顔で送り出して欲しいとお願いをするのですが、やはりお母さん方は心が表情に出てしまって心配顔で送り出す方が多いようです。泣く子の親御さんの方がどうも子離れが苦手のようです。

このように、私たちがこうではないかと思ってい

ることが、実はそうではないことが世の中にはたくさんあるものです。

例えば、様々な理由で部屋に閉じこもっている、所謂、引きこもりの子供達にしても自分の思っただけでどうしてなのかな？と考えがちになりますが、もうちょっと相手の身と心に寄り添って見方を変えろということが大事なのだと思っと思っています。

5月は五月病という環境不適應による精神的不安定状態の病気が起る時季と昔の人は言っておりましたが、それらも見方を変えれば単なる五月病というものではないかもしれません。

さて、私の住む角田の山や森は新緑の季節を迎えたというのにポツポツとまるで円形脱毛症のように木々が失われています。震災復興のために山を切り崩し、山土をかさ上げ工事のための盛り土にしているからです。震災復旧のためとは言え、この光景は私の心を五月病にさせる何とも残念な光景です。失礼いたしました。

おむすび・・・平成27年5月20日

おはようございます。

能登の大本山総持寺祖院、金沢の大乗寺、富山市の光厳寺とお寺の用件で歩いてまいりました。その時にコンビニのおむすびを求めて食べたのですが、値段はこれまでと同じだと思いましたが、おむすびの大きさが随分と小さくなったのに驚いてしまいました。これでは3個も食べないと力が出ないと苦笑しました。

さて明日は幼稚園の遠足です。子供たちがお父さんお母さんと一緒に仙台の「八木山動物園」や「みちのく杜の湖畔公園」に遠足に出かけます。

お弁当の人気者はやはりお母さんが作ったおむすびです。けれども大学生などは「お母さんが作ったおむすびは不潔で嫌だ、機械で出来たコンビニのおむすびの方が美味しい」。そう言う声が聞かれるのだそうでこれにも驚いてしまいました。

ご葬儀で、亡くなったおばあちゃんを見送る子供あるいはお孫さんがお別れの言葉や思い出のお話をする事がよくあります。そのお話の中でおばあちゃんの思い出として一番にあげるの「学校からお腹をすかして帰って来た時におばあちゃんが作ってくれたおむ

すびが美味しかった。味噌をつけたおむすびがとてもおいしかった」と、お話をするお子さんやお孫さんが多くいます。その時に私は「そうだね、けれどもおばあちゃんはその手が汚れていたかもしれないと思い、一番最初に作ったおむすびは君たちにはあげなかったんだよ。そしてもう一度手を洗って二番目に作ったおむすびを君たちにあげただよ」と言うお話をします。

すると、子供たちはエツと驚きます。このようにお母さんやおばあちゃんも小さな子供さんに食べさせてあげるおむすびにはやはり見えないところで清潔に気を使っていたことを思い出してほしいと思います。

来月は宮城県の^{6.12}防災訓練があります。その時も炊き出しのお母さんおばあちゃん方はマスクをし三角巾をかぶりそしてナイロンでできた調理用の手袋を手にはめておむすびを作ります。それは訓練だから致し方ない事かもしれませんが、とっさの場合はそのようなものがなくても、手そのもので握り締めてくれるおむすびはどんなにか美味しく心の支えになると思います。

一つのおむすびに込められた色々な思い出を、

以前自転車で全国を歩いている火野正平さんのテレビで見ました。『女の子が小さかった時に山に遠足に出かけることになりました。お母さんがいないのでお父さんはお昼の時間にお弁当を届ける約束をしたのだけれど頂上についてもその女の子にはお弁当が届きません。泣きそうになり、心配していると、ハアハア息を切らしてお父さんが駆け上がった来ました。そしてみんなとはちよつと離れたところでお父さんと2人でお父さんが作ってくれたおむすびを食べた』という話の番組でした。いいお父さんだなあと私はちよつと涙ぐみました。

千日回峰行といって野山を千日間も駆けめぐる荒行がありますが、その修行僧の命を支えるものは一日たった2個のおむすびだけだそうです。千日回峰行に立ち向かう修行僧を応援する台所当番僧のガンバレという心の支えの魂がそのおむすびにギュッと詰まっているからでしょう。

おむすびに関するお話をさせていただきました。失礼いたします。

山を愛する人・・・平成27年6月3日

おはようございます。

先日、長泉寺のお檀家様をお連れして出雲大社他山陰の旅を2泊3日で旅行してまいりました。飛行機に乗って座席のフリーペーパーを開いてみましたら、牧野富太郎さんの特集がされておりました。

ご存じのように牧野富太郎先生は高知県生まれで日本を代表する植物学者、または植物分類学者と言った方が良いのかもしれませんが、とにかく子供の頃から野山を歩くのが大好きで一日寝そべって花や植物を眺めていたそうです。そういうこともあったためでしょうか、小学校を中退をして、その後は独学で素晴らしい植物学の大先生になったわけです。

道元禅師の言葉に「山を愛する人は山に愛される」、そう言う意味の言葉がありますが、牧野先生もおそらく野山草花を愛し、野山草花から愛された先生に違いないと思います。

ところでご周知の通り、現在国会では衆議院安全法制特別委員会において集团的自衛権など安

全保障関連法案の審議が取り行われています。与党野党、喧喧諤諤の論争が繰り広げられているようです。

さて、「世界の平和を論ずるためにはまず家庭を平和にすることが大切です」などこの委員会でお話をするものなら、なんと間抜けなことを言っているのだろうかと笑われるのでしょうか・・・。

先の大戦では、僧侶など我が国の仏教者の方々が戦争に加担したということで仏教者の戦争責任について様々な研究がなされましたが、その研究の成果は一体現在どうなっているのか？と自分自身を省みることがあります。それは、私は現在憲法9条を守る会の会員になっており、末席とは言え、名を連ねているだけで平和実現のため何もしない自分自身を少し後ろめたく思っているからです。

ここで話をまた前に戻しますが、祖国を愛する人は祖国から愛され、また同時に他国を愛する人は他国からも愛される。そのような考えで、世界平和の議論を積み重ねる国会、世の中になって欲しいなと思っと思っています。

坐禅会・・・平成27年6月12日

おはようございます。

毎週日曜日、夕方の5時から細々とはありますが、日曜坐禅会を行っております。一般の方々を交え約45分ほど坐り、その後茶話会を開いて和やかに開催しています。

春夏秋冬、それぞれの景色それぞれの季節の音に囲まれて坐禅をするのは気持ちの良いものです。とりわけこれから梅雨の季節を迎え、雨の雫がポチポチと降る中で坐禅を組むのは大変気持ちの良いものです。

雨期の季節は外で労働が出来ない。また、虫などの生き物を踏み殺すこともある。そこで「雨安居(うあんごう)」と言って一定の期間部屋にこもって坐禅修行することが釈尊の時代からの習わしとなり、この季節こそ坐禅を集中してする時期となりました。(4/15もしくは5/15から3ヶ月)。

坐禅中姿勢を正し呼吸を整え「調身・調息・調心」と言われるように身も心も正して坐ります。どうしても足が組めない方のためには椅子を用

いての坐禅も行っておりますが、なかなかお寺の山門をくぐって坐禅会においでいただく方が増えません。いささか残念でもあり、また主催する自分の力不足というものを痛感しています。

坐禅中には、巡香という役目の修行僧が、いわゆる「警策(きょうさく)」という棒を持って姿勢や昏沈(こんじん)(仏教で説く煩惱の一つで、「沈んだ心」を指します。)を正してくださるわけですが、一般の方はこれで肩をパンパンと叩かれると思っっている方が大部分ですが、警策を用いて打つことはほとんどありません。それは集中して座っている方の妨げ、音による妨げになるからです。

坐禅の経験を積んでいくうちに鎌倉の臨済宗の禅寺に行ってみよう、あるいは旅行中に出会った禅寺にも行ってみたいと、いわゆる昔の武者修行道場破りのように転々と各地の坐禅会に参加したくなる方も居るようです。それはそれでいいかもしれませんが、正師を求める遍参(へんさん)脚(あし)ならいざ知らず、たんなる朱印帳(しゆいんぢょう)巡(めぐ)りの旅ではどうでしょう?。

曹洞宗(そうとうしゆ)では、何処(どこ)で坐禅をしたかではなく、誰のもと(正師)で坐禅をしたかを大事にしています。例えば、絵画を見る、あるいは音楽を聴く。それに

置き換えてみますと、何を聞いたか何を見たかではなくて、誰と見たか誰と聞いたかを大事にしないと言わうわけです。正師に随侍(ずいじ)して行住坐臥(ぎようじゅうざが)をともしする。すると正師の生き方、悟りに薰習(くんじゆく)され啓発(けいはつ)されて私も正しい生き方を歩めるようになる。これが禅の教えのような気がいたします。

私はしがたい売僧(うりそう)まいす(※意味は辞書で調べてください。)ですが、皆様の正師と頼れる禅僧を紹介することなら出来ます。また、時において正師となるパートナーと出会えた人は人生の幸せ者(しやうざ)と言えるでしょう。

長泉寺(ちやうせんじ)の蓮もこれから日毎に蕾(つぼみ)が膨らみ、水面に大きな花を咲かせる季節となります。どうぞお寺に足を運んでいただき、ひととき静かな心になつて坐禅の中で自己を見つめて欲しいと思います。お待ちしております。失礼いたしました。

朝の散歩・・・平成27年7月3日

おはようございます。

お寺には、今年3歳半になる雄の柴犬「竹千代」くんがおります。竹千代くんと朝散歩するのは私の役目、夕方の散歩は家内の役目となっています。ですから、私はだいたい朝5時半から6時半ぐらいにかけて毎朝、竹千代と散歩します。お寺のそばに台山公園があるものですから、お寺や台山公園の周辺は散歩する方、ジョギングをする方、ペットを連れて散歩する方、たくさんの方々と出会う場でもあり、時間でもあります。

ところで私は自分なりにルールを決めており、出会ったら必ず私の方から「おはようございます」の声掛けをするように努めています。けれども向こうから歩いてきた方が「あっ、お寺の住職だな」と思ってコースを変えたり、あるいは挨拶をしてもその返事がない方などもあり、それはそれなりに結構面白いことではあります。

当然ながら、お互いに声掛けをすると段々に顔が馴染んできて、ある程度の距離になると「おはようございます」「今日は」の挨拶ばかりでなくいろいろな会

話を交わすようになり、嬉しくも楽しく思います。

ところでペットを飼われている方の中には、おそらく始末をするのを忘れたのでしょうか、山門の側に犬の糞が落ちていたり、お墓の前あるいは道路際にそのまま糞を放置されている人も中にはいるようで、少しこれには困ったことだなと思っています。

臨済宗の言葉で「トイレに行ってウンチをしたらお尻を拭きなさい」（自領出去じりようしゅつこ）という意味の言葉があると聞きました。後始末をきちんとしなさいということです。曹洞宗の言葉にも「ご飯を食べたらお茶碗を洗いなさい」という意味の言葉がありますが、それと同じだと思います。

ペットが糞をして、その糞の始末をしないで主が去っていくとしたら、その糞をしたのはペットではなくて主がしたのだ。その主がお尻を拭かないで帰って行ってしまったのだ。そういう意味にもなるかと思えます。ペットが笑われているのではなく主が笑われている。飼い主として笑われないようにしようと思って、ペットの糞の始末をし

てほしいなと思います。

「ペットの糞を片付けよう」という市役所や台山公園、お寺の立て看板が目に入らないかなと残念に思います。

失礼いたしました。

立秋・・・平成27年8月12日

おはようございます。

8月8日は立秋でした。それまで大変な猛暑続きの毎日でしたが、季節とは正直なもので立秋を境にこころなしか涼しくなった気がします。蝉の声に混じって夜には虫の声が聞こえます。

さて、お盆の頃となりお寺やお墓にはたくさんの方々が参りに来られ賑やかです。けれども、毎年同じ行事とは言え「同じように」準備し、「迎え火」を焚き、「おまいり」をし、「送り火」に手を合わせることは、なかなか至難のことと思われるます。伝統の行事や教えを守り維持するためには、それなりの覚悟と信念がなければ出来ません。

例えば、僧堂では毎朝お粥とゴマ塩をいただくわけですが、これを毎日同じように調理するのは大変難しいことです。それには様々理由が考えられるでしょうが、とにかく同じことを繰り返し繰り返し、しかも完全にすることくらい難しいことはありません。これを達成出来る人、それを「名人」とか「達人」と言つのでしよう。

ある老舗の料亭では、毎朝決まった時間に「ご飯」「みそ汁」「漬け物」「たまご焼き」「焼きのり」だけの朝食を一年365日毎日作らせ、それを料亭の主が食し、出来不出来がないか、ムラなく毎日調理できているかを点検して調理人の技を磨かせる修行を課しているという話しを聞いたことがあります。それを聞いて私は流石と思いました。

私のお寺でも毎朝の勤行を欠かしません。全く同じに出来ているかと自問すると、自信がありません。

原子力発電だって人間が作動させるもの、ずっと同じように安全に運転出来るか不安になるのも当然な気がします。

失礼いたしました。

校歌・・・平成27年8月30日

おはようございます。

立秋を迎え、お盆が終わってみたら朝夕めつきり涼しくなり、時には肌寒くさえ感じる今日この頃です。

あの猛暑がまるで嘘のようです。

今年は天気も暑かったですが、高校野球夏の甲子園大会も熱い試合が続きました。とくに仙台育英と東海大相模の決勝戦はどちらが優勝してもうなづける、それほどいい試合だったと思います。

さて、8月25日付の河北新報に「甲子園、東北勢なげ優勝出来ぬ」という特集が載せられており、野球に詳しい5人の識者がそれぞれウンチクを述べていたようです。けれども私は、ひたすら無心になってプレイした高校野球児にとっては何の意味があるのか？、と私はいささか面白くなく拝読いたしました。

それはさておき、高校野球のもう一つの楽しみは各出場校の校歌が聞けるということです。以前、私の住む角田には角田高等学校（男子校）と、角田女子高等学校がありました。私はその男子校である角田高等学校を昭和47年に卒業しましたが、少子化と男女共学化の波に洗われ、やがて二校が合併し、新しい「角田高

等学校」が生まれました。平成17年のことです。ですから、今の新しい高等学校の校歌を私は知りません。同時に私は、私の角田高の校歌を失いました。校歌というのは単に学校の歌ではなく高等学校の3年間の生活が凝縮された人生そのものだと考えています。「臥牛館内名に高き豊成閣のいしずゑを」という角田高等学校の歌、あの四拍子の歌を聴くたびに懐かしい同級生の顔やバカなことをした毎日が即座に蘇って来ます。

大学は山形大学を経て駒沢大学大学院でした。駒沢大学の校歌は北原白秋作詞・山田耕作作曲の名歌です。やはりその歌を聞くと青春の日々が臉に浮かんできます。早稲田大学には早稲田の、東京大学には東京大学の、慶応大学には慶応大学のそれぞれ名歌とされる大学校歌がありますが、やはりなんといっても我が母校の校歌が一番です。そして自分の母校の校歌が一番と思うのは私だけではないと思います。

今は少子化でどんどんと小学校や中学校が閉鎖され、自分の母校が消えていこうとしています。が、我が人生の応援歌でもある校歌までが消えることの何と寂しいことでしょう……。

ともあれ、やがて20年経ち30年経って、本年の甲子園野球大会準優勝校の球児達が寄り集まって、肩を組み「南冥遙か天翔る」と校歌を声高らかに歌うならば、彼等の心には優勝や準優勝などという小さな思いではなく、『やりきった！生ききった！』という大きな至福感だけが湧き起こるにちがいない。私は強くそう思っている。

内観・・・平成27年11月26日

おはようございます。

少しの間エッセイを休ませていただきました。ご迷惑をおかけいたしました。

さて去る9月、ちょうどお彼岸頃ですが、縁があつて鳥取市にある「心身めざめ内観センター」を訪れました。千石真理先生という綺麗な女性のご指導下で、誕生から現在までの自分自身を見つめる内観をして帰ってまいりました。

その内観センターは大変閑静な所で自然豊かな場所にあり、室内も純和風にしつらえたお家でした。私と一緒に内観の指導を受けたのは日蓮宗に在籍の若い僧侶の方でした。私と彼と2人、別々の部屋で2泊3日にわたる内観をしたのです。非常に家族的な雰囲気です。三度々、おいしい食事を提供していただき、リラックスした雰囲気の中で千石先生による懇切な指導を受けたわけです。

内観というのは、そもそも浄土真宗の僧侶の吉本伊信老師という方により開発された一種の自己探究法であります。1番（してもらったこと）2番（お返ししたこと）3番（ご迷惑をかけた事）、この3つのことについて自分と身近な人たちとの関係の中において過去から現在までのその事実を振り返るわけです。

こういうことをしてもらった、こういうことをお返ししたと云うことを相手の立場に立って見直すと言ふ事です。今回、私は、私の母親、父親、妻そしてまた母親のことを内観して、そのつど千石先生と面接をさせていただいてお話をすると云うことを2泊3日の間ずっと朝5時に起床して夜10時に就寝するまで繰り返し面接を受けたと言

うことであります。そういったしますと、親は親なりに私に対して精一杯なことをしてくれた、また色々な人の助けがあったからこそまで行き着くことができたという感謝の念が無意識のうちに呼び起こされ感謝だけ感じて帰ってまいりました。

「大事にされている」「愛されている事」を心から実感できたように思われ心から幸福感に満たされ、私も他人の幸福のために何かをしなければいけないと言う心が自然と沸き起こったような気がいたします。

周知の通り、私は1人の僧侶としてたくさんの方のご葬儀をさせていただいております。その中で「あなたは今死んでも後悔ないですか?」「いつ死んでも後悔のないように」と口先だけで言うのではなく死にいく人の心の内面から救える、そういう僧侶になりたいと常々思うものの、僧として未熟なる者の悲しさ、その域に立てません。しかし今回の内観によって最後に頼れるのは仏様だよ。仏に出会うことができた人は幸せだよと自信を持って言えるお坊さんという立場に喜びを感じずる人になったような感じがします。

まあ人生、世の中は諸行無常だと言われておりま

すが、この中で縁という不思議な縁(えにし)で今生かされている自分の命を後悔のないように生きて、安心して浄土にいける境地に私もなりたいし、他人様も導いていければと感じて帰ってまいりました。

ジュースの季節・・・平成27年12月10日

おはようございます。

今年の夏は毎日毎日とても暑くて皆様方も夏を過ごされるのが大変だったと思います。お寺のお坊さんたちも毎日毎日、顔を赤くし汗を拭き拭き境内を掃除しておりました。そこで、せがまれて「Vショップングでお馴染みのジュースを新しく求めて、ご本尊様からお下りの果物をジュースでジュースにして頂くことにしました。届いたその日は、一同、輪になり箱を開ける手もうやうやしく、早速試しては「ウォー!TVの画面と同じだ」などと歓声をあげ、お陰で元気に過ごすことが出来ました。

年の瀬に・・・平成27年12月18日

おはようございます。

一昨年の秋、ここ長泉寺にて曹洞宗宗立専門僧堂が開催された時の話です。ある名のある御老師様が講師として長泉寺にお越しいただき、私はその御老師様の身の回りのお手伝いをさせて頂きました。

御老師様は、「これは私が若い頃、禅師様に頂いた着物を着る時の腰紐だ。長いこと使ったようにずいぶん傷んでしまった。」見るともう紐はボロボロに傷んで色も褪せたボロ紐でした。「古くなったのでこれを屑かごに捨ててくれ」と私に手渡しました。私は、はっとして「御老師様、これを私が頂戴してもよろしいでしょうか？」と申しましたら、「捨てたのだからお前の勝手にするが良い」と言われました。捨てるのであれば、わざわざ長泉寺までそれを使って着物を着て来るはずがありません。ですから、これは御老師様が私に下さるために意図的に着けて来た物なのだとは直感的に感じたのです。

つまり、腰紐がこのように擦り切れるほどになつたところが、あの暑さを忘れるほど涼しい秋が早くやって来て、ジューサーの出番は激減。今度は寒くなり、またリンゴやミカンなどのたくさんの果物が仏様にお供えされ、そのお下がりやジューサーでジュースにして、また飲ませて欲しいなあとおねだりしたら、「方丈さんジューサーの季節はもう終わりました」とお手伝いの和子さんのつれない声に凹みました。見ると大掃除が終わった台所の片隅に、ご法要会食のお膳を包んでくるビニール袋を被ったジューサーが、ひとり寂しく座っております。さりとして私もジューサーを飲んだ後の後片付けが大変なことを知っておりますので、仕方がない来年の夏まで冬眠させようとジューサーを寂しくなでました。そして、「冬眠を永眠にさせないで！」と女性軍をにらみましたアハハ。

寒くなる季節、また年末年始の忙しい時期を迎え、風邪などで感染性の病気あるいは自動車の運転、暖房器具の取り扱いなど健康・事故に気をつけて良い年の瀬を迎えてほしいと思います。

失礼をいたしました。

るまでお前は修行しないといけないと言う温かい策励と私は思ったのです。

さて、この1年を振り返りますと、私はどれほど勉強をし、どれほど修行したのか、非常に恥ずかしく思っています。

来年こそはと思ってはみても、来年の年の瀬には、また今年と同じように反省するばかりの一年になりそう、新しい年を迎える前から何とも面目ございませぬ。

除夜の鐘・・・平成27年12月26日

おはようございます。

暖冬とは言え朝夕冷え込みが厳しくなり、朝などは起きるのが辛く感じる日も少なくありません。

さて、長泉寺では朝6時と夕方5時に鐘を撞いております。周知の通り、鐘楼は高さが4〜5メートルのところ、床があり、人が立って鐘を撞く形式になっています。ですから鐘楼に登って鐘を撞く時に北風が吹くと寒さを感じます。鐘は1声大体2分間隔で九つ撞

きますから16分ぐらいかかります。

鐘を撞く担当のお坊さんは寒いので早く鐘を撞き終わりたいと思うのでしょうか、2分間隔が少し狭まりまして狭まると同時に鐘の音も低くなってしまい早く終わりがります。そこで私は下から大きな声で怒鳴るわけです。「もっと鐘を大きく撞け!」。病院で入院をしておられる方、施設に入られているお年寄りの方、みんなお寺の鐘が鳴ったなあ今日も一日が始まるなあ、今日も終わったなあと、そういうふうには鐘を聞いている方もいらつしやるのだから精一杯大きく、皆さん頑張ってください、元氣ですか、そういうつもりで鐘を撞くと下から大きく怒鳴るわけです。

けれど、お坊さん達も忙しいのでしよう、早く鐘を鳴らしてしまい、「届かなかったよ」「聞こえなかったよ」と言うようなお叱りが届くようになってしまいます。お恥ずかしいことですが、ご迷惑をかけております。

さて12月31日大晦日がやってまいります。今年の締めくくりを長泉寺の鐘に込めていただき、除夜の鐘をどうぞみなさんも撞きにきてほしいと思います。そして新しい一年を潔い気持ちでお迎え

下さるようお待ちしております。温かい甘酒や年越しそば、そして紅白の鐘もち大福を準備して皆様方のお出でをお待ちしております。

今年1年、長泉寺のホームページをご覧いただきました皆様方に御礼を申し上げます。良いお年をお迎えください。ありがとうございました。

あけましておめでとつございます・・・平成28年1月1日

あけましておめでとつございます。

皆様お揃いで良い春を迎えることとお慶び申し上げます。本年もなにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて今年が平成28年、西暦で二〇一六年、「丙申ひのえねの年」であります。丙申は赤猿とも言います。一名火猿であるとも言います。灼熱の魂を持つ猿ということ



だそうです。エネルギーがあまって、馬が走り回り、猿があちこち飛び跳ねるように心の抑えが効かず、煩惱・妄念・情欲等が制し切れない、いわゆる意馬心猿いばしんえんの年にならぬよう心引き締め気を引き締めて一年を過ごして行きたいと思っております。

私は馬年生まれですから、尚更この申年にはこの意馬心猿の言葉を自制の言葉として胸にきざみ、隠忍自重の生活をするにしています。

ところで、猿で思い浮かべる諺(ことわざ)と云いますと、これはもう誰もがそうであるように「猿も木から落ちる」と云う言葉だろうと思います。同様の意味の諺は「弘法も筆の誤り」でしょうか?、ともあれ油断大敵との諺だろうと思います。

この油断大敵でまた思い出されるのは、学校の時教科書で勉強させられた「高名の木登り」というお話だろうと思います。これは『徒然草』の第百九段にでてくる有名なお話で、木登り名人と言われる人が、ある方に指図して木登りをさせ、下から見て、高い所では声をかけなかったけれど、降りてくる途中、軒の高さくらいまで降りてきた時に「油断しちゃいけないぞ」と声を掛けた。つ

まり失敗というのは難しいところにあるのではなく、むしろ簡単に舐めてかかるようなところにこそあるのだと指摘して、それを見ていた吉田兼好はなるほどと感心したというわけです。

これに似たような話で、ある方が仏の教えというのはなんだと聞きましたところ、「諸悪莫作・衆善奉行・自浄其意」と応えた。すなわち、「悪いことをしない良いことをするそして心清らかにする。これこそが仏の教えだ」と。すると、「なんだそんな事は子供だって知っているぞ」と返事をする。それに答えて、「それはそうだ子供の知っていることだと思っけれどもそれを実行するのは大の大人でも難しいぞ」と言われ「なるほど」と言ってそれに返す言葉がなかったと白楽天と鳥窠道林禅師との有名な問答が残されています。

初心にかえり、生き方の基本を守る一年を過ごしたいと思います。倍旧のご指導とご支援をよろしくお願ひ申しあげ年頭の挨拶といたします。皆様方の幸せ多い一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

二本の松・・・平成28年1月28日

おはようございます。

ミネ幼稚園の入り口向かって右側、二宮金次郎の像の前に姿の良い松の木が一本、同じく向かって左側プールの側にも同じような松の木が一本、二本の松が園児を見守ってくれておりましたが残念なことに二本とも松くい虫にやられ、この冬休みに利用して二本の松の木の伐採をしました。



冬休みが終わり正月早々幼稚園に戻ってきた子供たちは「アレなんだか変だな、何か変わったぞ」。そうです、松の木が無くなったことを幼稚園の子ども達も気づきました。保護者の方も気づきました。そこで幼稚園の子どもたちがお正月明けに初めてご本堂にお参りしに来た時、松の木を倒したわけのことを子どもたちにお話しました。「二本の松は、松くい虫の病気になって元気がなくなり、このままだと倒れて幼稚園のおともだちにけがをさせてしまう。病気から助けてあげられずゴメン

ナサイと言って松の木を手でなでてあげました。園長先生は涙が出ました」と。すると子供たちは、「そうだ、じゃお寺のご本堂から幼稚園に戻る時、お寺の門を出て遠回りをして松の木にさようならを言う」そうして園児たちも松の木と別れをしました。

さて、天神町から以前の遠藤旅館さんと松川呉服店さん跡の角を西に折れて長泉寺の門までまっすぐ向かう道を昔の人はウグイス横丁と呼んでいました。それはウグイスが梅の枝にとまって鳴くことにかけて、お葬式の際には長泉寺に向かう道を通るわけですから、ご遺族の方々はその悲しみで「泣き泣き」、お墓に「埋め」に来る。それでウグイス横丁としゃれて言ったわけです。

昔、そのウグイス横丁の中ほどに松月堂という美味しい和菓子屋さんがありました。その松月堂さんと長泉寺の山門の間の参道、そこは両側に広々とした田んぼが広がってありましたので、その参道の両側に松の木をぞろりと長泉寺では植えて飾らせて頂き、そこは特に地元の方々から松原と言われる名所になりました。その松原の道のすぐ脇に大きな石の石碑が建っており、その台座が舟の形をしておりました。(根本培翁之碑) それでその台座を舟石と呼ん

で、その舟石をベンチ代わりにして、夏の朝といいたといい、涼みに来る方がたくさんおりましたが、その松原の松は今回幼稚園の二本の松を倒したことで全部なくなってしまい、わたしが子供の頃から慣れ親しんだ風景とお別れをしました。

こうやって自然も変わり、私も歳をとるのだなと、そうお正月は思いました。寂しくなりました。

定物定位・・・平成28年2月24日

おはようございます。

先日、ある人から誘われて「餃子の王将」というお店に入りました。初めて入るお店です。外食する店にあまり入ったことがないものですから、珍しくて店内をきよろきよろと見回していたところ、厨房に「整理整頓」という貼り紙が貼ってありました。その隣に何と読むのか、「定物定位」と書いてありました。

あれはどういう意味なのかな？、皿は皿を置い

てあるところに、井は井のあるところに、物は決められたところに後片付けをして、次の人が使いやすいようにしなさいと、そういう意味なのかなと思ひ、食事をいただいた後に、レジで支払いをする時、店員さんにあの張り紙はどういう意味なのですかと尋ねました。すると店員さんは、何と表現したらいいのかわからなくて困っている顔をしておりましたので、前述したように小皿は小皿があるところに井は井のところという風に決められた所に洗い終わった食器を片付けるのですか？そういう意味ですかと聞きましたら、そうですと応えられました。

私たちの道元禪師がお書きになられました書物の中に、「典座教訓(てんぞきょうくん)」というお示しがございます。これは禪寺で厨房に立つ修行僧の心構えについてわかりやすく道元禪師様がお示し下さった書物です。その中に「高処は高平に、低処は低平に」という言葉があり、同様に、高いところに置くべきものは高いところに、より低いところに置くべきものは低いところに後片付けをして整理整頓をしなさい、いつも使いやすいように片付けておきなさい、そういう意味です。

修行というと、ややもすると私たちは坐禅をしたり

何か特別な行をすることであって、そのような行が大事であって、ご飯を作ったりする「仕事」というのは軽んじる傾向にあります。道元禪師におかれましては、私たちが日常行うこのなんでもないことに上下はないし、また行の高い低い浅い深いもないんだと言う事です。

ご本山あるいは修行僧がたくさんいる禪寺に参りますと、いろいろな日常の仕事の役割を分担してやります。例えば「風呂当番」あるいは「お墓掃除」「ご飯炊き」です。そして、やはりどうしてもお坊さんたちは衣を着てご本堂で活躍をしたいという気持ちがあって、そのような仕事をおろそかにしたい気持ちなるわけですが、みんな一人一人、役に重さの高い低いはないとお示されたわけです。

「餃子の王将」さんでも整理整頓して器物を置く場所を決めるところからさらに踏み込んで、「ご飯を作る人」「ご飯を配膳する人」「洗う人」あるいは「レジを打つ人」みんなそれぞれ一人一役みな同じ、その役割に高い低い、重い軽いはないということまで徹底しているのだなど、ちょっと嬉しく思っただけです。

別れと出会い・・・平成28年3月11日

おはようございます。最近三つほど嬉しいことがありました。

一つ目、3月1日は宮城県にある県立高校の卒業式が行われた日です。私の母校である角田高等学校でも卒業式が行われました。

その日の夕方、あるお婆さんがお孫さんを連れてお寺を訪ねてこられました。何のご用かなと思っておりましたら、何とそのお孫さんとはミネ幼稚園を卒園したA君だったのです。A君は「園長先生、おかげさまで高等学校を今日卒業して大学に行くことが決まりました」と恥ずかしそうに報告をし、お婆さんが持っていた風呂敷包からお赤飯を出して私に差し出しました。12年ぶりに会う笑顔からは幼稚園の頃のあのあどけない顔は消え、たくましい青年になっていました。「やあおめでとー!」。その日の夕食は、A君のお赤飯で家族でお祝いをさせていただきました。

二つ目、この度ある家のお爺さまが80歳でお亡くなりになりました。ご葬儀に行きましたら何とそのお孫さんはこれまたミネ幼稚園の卒園児で、しかもA君と同じく今年角高を卒業したB子さんでした。B子さ

んも山形にある大学への進学が決まっております。

「残念だったね。こんな時にお爺さんが亡くなって寂しいね」と私が声をかけますと、「寂しくて悲しいですが、元気なうちに大学の合格を報告することができたのでほっとしています」と返事をし、その後次のように言葉を続けました。「私ね、園長先生が晋山式でお寺に入る時、稚児行列に加わって園長先生と一緒に撮った稚児行列の写真とビデオを大事にしてるよ」。こう言われ、私はビックリしました。平成14年、先住職の一周忌法要に併せ行った私の晋山式で稚児行列をしてくれたお友達がもう大学に入る歳になったのだと歳月の流れに驚き、そしてその事をいつも心にかけてくれたB子さんに感謝をしました。

それから三つ目の嬉しい事がありました。それは今から約20年ほど前、私は保護司という仕事をさせていただいておりますが、その時出会った女の子に、その女の子のお母さんのお葬式の時に出会いました。「なんだか恥ずかしくて言えなかつたけど奥野先生だよねえ」。その声をかけられて、? と思ったら何と彼女はなんと私が担当していた女

の子のお友達だったのです。「私たちがぐれていた時は先生に大変お世話になりました」。その声をかけてくれました。「ん…君達がぐれている時、お母さんはどんな気持ちだったかなあ」と話をしたら、コトコトコトコトと涙を流しました。「どんなところで出会うかわからないね」と、いろいろお話をさせていただきました。

3月は別れの季節ではありませんけれど、新しい出会いのスタートの季節でもあります。みんな、それぞれの道でそれぞれに活躍してほしいと思いました。

今日3月11日は東日本大震災より5年目の日。震災の年に生まれたこども達はもうすぐ「3才児・年少組」を修了し、震災2年前に生まれた子ども達は来る3月15日にミネ幼稚園を巣立つことになります。54回目の卒園式です。

開花・・・平成28年3月30日

おはようございます。

待ちに待った桜が咲きました。3月27日の日曜日、朝、鐘を撞きに行きま



すと鐘楼のすぐそばの桜が開花をしていました。これが今年の長泉寺桜の開花でございました。

早い開花はうれしいけれど、4月8日の花祭り、それから4月10日に予定している幼稚園の入園式の日までこの桜がもつかなあというのが最初の感想でした。

なぜなら、この時期には「月に叢雲花に風（つきにむらくもはなにかぜ）」という言葉があるように、3日に一度は強い風が吹く季節でもあるからです。桜の花の一枚の花びらも散ることなく、可愛らしい子供たちがまた大勢幼稚園にやってくる、その目出たくも誇らしい入園式をお祝いしてほしいというのが幼稚園の園長をつとめている私の思いでもありました。

桜というどうしても花見というイメージが強く、花見になりますと賑やかにドンチャン騒ぎ。以前は長泉寺にもいろいろな方がお参りの次いで、夜遅くまでにぎやかに花見をされていた記憶があります。最近は方々に花見が出来る公園が整備され、お寺にいらっしやる方がほとんどおりませ



ん。それはそれで静かなことでありがたいのですけれど、桜景色のお寺の風景を無言で一人で撮りにくる方々ばかりでなく、お友達と仲良く楽しくおしゃべりしながら桜をご覧になりに来ていただければなと思います。夜のライトアップもいたしますが、とは言え夜遅くまでのご勘弁をお願いいたします。

ところで御法名の中にいろいろな草花あるいは木々の字が入ることがありますが、考えてみますと松とか竹とか梅とか、また菊とか蘭、蓮などの字は多いように感じますけれど、桜と言う字は意外に少ないように感じます。「花の色は濃きも薄きも紅梅」と枕草子にありますように、花ではやはり昔から梅というのがいちばん人気なのでしょう。NHKの朝ドラマ「あさが来た」でも、主人公の白岡あさが夫の新次郎さんとの結婚40年を記念して庭に植樹したのも桜ではなく梅でした。

ともあれ、桜は咲くのも嬉しいが散るのも美しいと、日本人には独特の美学があつて、なかなかややこしいものです。

お城のある風景・・・平成28年4月29日

おはようございます。

「西を仰げば臥牛の城趾、思い出永久とわにつきせぬところ・・・」とは、我が母校角田小学校の校歌の出だしです。ありがたいことにミネ幼稚園の園長として私は年に二度、角田小学校様よりお招きをいただき、校歌を歌います。一つは入学式、一つは卒業式です。ですから年に二回この校歌を歌つては小学校時代の楽しい思い出にひたる喜びを味わわせていただいております。

ところが最近、入学式ではこの校歌を歌わなくなり、代わりに角田市民歌を歌うようになり、この市民歌の中にはお城を称える言葉がなくなり、なくなりました。

角田城趾は小高い丘の上であり、寝そべっている牛の姿に似ていることから、臥牛城跡と言われているのですが、角田にはいわゆる天守閣を有するお城はなく、いわゆる館（要害）であります。

子供の頃から「いいかお前ら、宮城県というのは仙台県と角田県の二つが一つになったのだ。なぜそうなったか」と、私たちの郷土角田は仙

台藩伊達一門筆頭の石川公のお膝元なのだ。そういうところにお前らは生まれ育った。ここで一生懸命勉強して角田城趾のところに、あの丘の上に建っている角田高校で学んで故郷に錦を飾れ。」そう言われて、角田に生まれ育ったことを矜持として、ああ、自分は立派ないいところに生まれたんだな、と言う誇りを植えつけられて育てられたのでした。

角田高等学校の校歌は「臥牛館内名に高き豊成閣のいしずゑを・・・」をというものでしたが、この校歌も先年、角田高等学校と角田女子高等学校が合併したことにより今は聞かれなくなってしまいました。寂しいことです。

お城のある町で育った者にとっては、お城に対する特別の想いがあるのではないのでしょうか？とりわけ、正岡子規ほど生まれ育った郷里のお城、すなわち松山城を大切にした人はいないと思います。『松山や秋より高き天主閣』この歌を正岡子規はお城の写っている写真の裏側に書き留め、死ぬまで終生肌身離さず身にしめていたということです。この正岡子規に秋山好古、秋山真之を加え、三人を主人公として司馬遼太郎は小説「坂の上の雲」を書きましたが、その書き出しも松山城から始まっています。

さて、4月14日、4月16日と九州で大きな地震があり、特に熊本では甚大な被害にあわれております。テレビの映像で地震のため熊本城が噴煙を上げて屋根瓦が落ち、城の石垣が崩れるところが何度も放映されました。城下町に育ったものとしてはお城というのは自分のアイデンティティーでもあります。あの映像を見るたびに熊本の方々も精神的にも非常な困難な状況の中で今ご苦労されていることが伝わってきます。被害に遭われた熊本の人々の窮状を、熊本城がまるで切々と訴えているようです。

心からお見舞い申し上げますとともに長く続く余震が収まり、一日も早い復興が成ることを願うばかりです。館とは言え、お城のある町で生まれ育ったものとして角田の皆様方のお力をお借りして熊本の方々の一助となるべく托鉢をします。ご協力をお願いします。



かえるのうた・・・平成28年6月16日

6月の雨の日の幼稚園は静かです。暑い夏の雨降りならば勇ましい園児たちは裸ん坊で泥遊び、砂遊びに歓声をあげ、笑い興じるのですが、梅雨寒むの天気にはさすがに飛び出してくる子はいません。どつやら、お部屋の中で歌を唄ったり、お絵かきしたり、ゲームをしたりして遊んでいるにちがいない。

6月の「ごじか」(ミネ幼稚園の園便りのこと)を見ると、今月の歌は「かえるのうた」と「かたつむり」だ。幼稚園や家庭のみならず、どんな人とも一緒にうたえる歌を、と言う幼稚園の先生方のはからいらしい。毎月のお誕生会には誕生児の保護者(殆どがお母さんですが)の方もお祝いに来園され、その月の歌を全員で唄うのですが、それはそれは皆幸せそうな笑顔となり、幼稚園全体が嬉しい一日となります。

ところで、さきごろ北海道で「しつけ」と称して、小学二年生の男児を山中に放置するという事案が発生しました。放置した時間はわずか5分間程のようでしたが、男児が無事発見されるまでには6日間の日数を要する世界的な大事件になってしまいました。

その事の顛末を報じるニュースを観ながら思ったこと

は、ふだん家族といっしょにどんな歌を唄っているかでした。嬉しい時はもちろん、辛い時悲しい時人は歌を口ずさむものです。この少年は6日間どんな思いでいたのでしょうか。叫んだり歌を唄ったりしなかったのでしょうか？。

私など一週間も知らない山中に、しかも何の食料もなく放置されたら泰然自若(たいぜんじやく)として少しも騒がず、ゆったりと坐禅を組むなどと言うことは到底出来るものではありません。おっと、話が脱線しました。

さて、幼稚園のお誕生会では「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」の歌を何の不思議もなく唄うわけですが、考えてみれば、「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」に代わる日本の歌、日本に於ける誕生日を祝う歌が無いというのも不思議なことです。ご先祖様に感謝する「お盆」や「お彼岸」の行事は毎年あっても、誕生日を祝う習慣はなかったのでしょうか？。

施設に入居している老母も89歳になりました。誕生日の歌を唄いながら、あと何回ハッピー・バースデーの歌を唄えるかと思うと、ふと諸行無常の言葉が浮かび、目頭を拭ってしまいます。

竹の子にも親切な良寛さん・・・平成28年6月30日

おはようございます。

曹洞宗報付録「てらスクール」6月号に『竹の子にも親切な良寛さん』という面白い話が載っていました。今日はそのお話をします。あらすじは以下のようです。

良寛さんは、五合庵と言う藁屋根の小さなお家で住んでいました。ある夏の日、その良寛さんの庵に、タケノコが生えてきました。良寛さんが見ているとタケノコはすくすくと大きくなり、やがて屋根にかえるまでに背が高く伸びてきました。このままではタケノコが屋根につかえて困ってしまうだろう。かわいそうに思った良寛さんは、藁屋根に穴を開けてタケノコを屋根の上まで伸ばしてあげようと考えました。

そこで良寛さんは、ろうそくの火で穴を開けてやろうと藁屋根にろうそくの火を近づけました。すると大失敗、藁屋根が燃えて家が火事になってしまいました。優しい良寛さんは、ついタケノコのことばかり思っただけで火事になることを忘れてしまったのですね、と言うお話です。

ところが、この話を幼稚園の五歳児のお友達に話したところ、私たち大人が想像もしない反応を示しました。それは、園長先生！タケノコはどうなったの？やけどしたの？やけて死んでしまったの？…などなど、家のことではなくタケノコのことを皆な心配したのでした。

そこで私たち大人は、はっと驚きます。そうだと良寛さんはタケノコを大切に思い、タケノコのために藁屋根に穴を開けようと思って火をつけてしまったのだ。いつの間にか私たちは焼けたお家のことばかりに気をとられ、タケノコの命のことを忘れてしまっていた、その事にあらためて気がつくきます。

小さな子供たちは、家というものより命のあるタケノコの方を大切にしているところ、そのところが、私たちは小さな子供やお年寄り、そのような幼老弱者の命を大切にしようとするあまり、頑丈な屋根や天井を設けて穏やかな環境の中で育てようと考えています。するとやがて、環境整備に力点に移り、保育や介護のためには、より良い適切な環境を整えれば整えるほどより良い保育や介護が出来るにちがいないと勘違いしてしまうの

です。

本当に大切なのは、より良い育ちを援助する良寛さんのようなあたたかい「同事行」の心なのにな…。

さて、住む家が火事になってしまった良寛さん。屋根が無くなり、これでタケノコは存分に背が伸びると嬉しく思ったでしょうか？それとも、タケノコを助けようとして家が焼けて残念だ。失敗したと思っただでしょうか？。

今日はこのお話で終わりいたします。ありがとうございました。

お盆を前に・・・平成28年7月27日

昭和47年私は大学に入学し、その年の7月、父親を師匠として法戦式（ほっせんしき）をあげました。法戦式というのは、お坊さんとして独り立ちする目出度い儀式の一つでもあります。

ところが、まさにその日、大学の医学部6年生になる従兄弟が、江ノ島でクラブ員たちとヨット遊び

をしているうちにおぼれて亡くなったという訃報が届きました。お祝いの気持ちで盛り上がっていたお寺の空気が一気に沈み、母親はあわてて実家に帰りました。母親の実家の伯母は、その長男の葬儀が終わるところから悲しみのあまり体調を崩し、数年後には大学病院へ入院をするようになりました。

そして私が学部を卒業し大学院に進学する頃、いよいよ病状は悪化しました。伯母の命はあまり長くないと母親が父親と話している声を聞いたことがあります。ある時、私は伯母にお見舞いに行きました。当時の大学病院の病室は木造で入院患者たちが使う炊事場もありました。10円を入れると何分かガスが使えるガス台もありました。伯母は大学院へ進学はどうなったか？と心配しながらその炊事場でカレーを作っていました。あなたが来るというので作っていた。と話をしてくれました。病気を見舞う側の私があべこべに心配されているとは話しが間違っていると感じその優しさにかレーは喉を通らず味もせず、いまではただその時の光景だけが思い出されます。

やがて私は大学院に入学し、入学と同時に伯母

は他界しました。伯母が他界した日、なぜか私は角田におり、おばさんが亡くなったから早く巨理の家に行つて手伝いをしると父に言われ急ぎ伯母の家に行き、親戚のおじさんたちと部屋を片付け帰りを待ちました。

しかし、帰ってくるまでは時間があるからといって何か口にする事になりました。大切な伯母を失い、悲しくても腹がへればご飯を口にするようになるとは、何と情けないことだろうと涙がポロポロ出ました。

さて修士論文を提出する日の朝がきました。白石駅から特急ひばりに乗り東京に向かいました。ところが夜、自宅に帰ってみると家にたくさん車の車が集まり、電気が煌々としています。何かあったのか？と思つて入りましたら私の祖母が亡くなっていました。

祖母は病床にあつて臥せつてはいましたが元気ででした。朝、桜餅を食べみんなでお茶を飲んだ後、病状が急変し絶命したのだと聞かされました。息をひきとる時間の頃はまだ特急が上野に着いていない時間です。私が出かけて間もない時刻です。あまりのあつけなさに死んだという事実をどうしても受け入れることが出来ず、ただただぼう然としました。諸行無常とは言え、人の死とはこういうものでしょうか？病気で寝ていて会話することも多くありませんでしたが、私の部屋の

隣室からいつも励ましてくれていた祖母でした。

父親が遷化したのは平成14年5月13日でした。方丈さんの葬儀だ、とんだことになったと長泉寺は大騒ぎになりました。

多くのお弟子の僧侶の方々、教区のご寺院の方々、関係する僧侶の方々、護持会役員の方々、幼稚園の保護者、檀信徒の方々、その他大勢の方々のご協力を得て大本山総持寺の板橋興宗大禅師猊下を乗炬師（ひんこし）にお願い申し上げ四十九日目に本葬させて頂き、8月20日が百か日でした。

この辺で言う二十日盆の日に百か日を迎えました。父親が亡くなった後バタバタと過ぎ、忙しさでいままで悲しみの境地に立てなかつた私でしたが、その日の夕方西日の当たる父親の部屋で初めて声を出して泣きました。

毎年お盆が近くなるとなんとなく決まって亡くなった家族の事を思い出すものです。失礼を致しました。

お盆が過ぎて・・・平成28年8月19日

おはようございます。

今年のお盆もあっという間に過ぎ去ってしまいました。お盆が終わったなら台風ノ号が北上して、何かお盆の余韻もなく過ぎ去ってしまったような感じがいたします。

さて、皆様はお帰りになられた仏様とどのようなお話をされたでしょうか？オリンピックに気をとられ、仏様と話もしないうちにお盆が過ぎ去ってしまったなどという方もいるのではないのでしょうか。

私もお盆の前にこのホームページに記述させて頂きました。自分と仏様との心の交流は他人にお話してもなかなか伝わりません。けれどそれは、それぞれ個人の心の問題ですから、それはそれで良いのだと思います。

お盆中、お寺にはあんなにたくさんのお参りの方々が来ていたのに、今では人影がまばらです。そのかわり「ポケモンGO」の若い男女達が訪れてきています。そこで私は彼らにたずねてみます。「長泉寺に来てポケモンをゲットできましたか？」「いえ。仙南にはそうたくさんのお参りポイントがないんですよ」「それでも

ここ長泉寺はある方ですよ」と言う声が聞かれます。

私はそのゲームの楽しみもルールも解らないものですから、一体それがどんなに楽しいのか理解出来ないのがすごく口惜しいです。このゲームがダウンロード開始と同時に、神仏に会いに来るのではなくポケモンに会いに来るために若い人たちが全国各地のお寺や神社に集うという社会現象を引き起こし、神社仏閣を賑やかにしていると言う皮肉な結果となりました。

ですからご本堂に手を合わせるのはお参りに来るお年寄りの方々やそれぞれの御信心のある方々、若者はただお寺という景色の中でゲームをするという不思議な二重構造のお寺になって来てしまいました。このポケモンと遊んでいる人たちがやがて将来どんなお盆をお迎えするのか、私も長生きをして未来のお盆の姿を見たいと思います。

ともあれ、角田では台風が無事に通り過ぎて、大事に育てた農作物への影響も少なく、このまますすめば今年も良い稔りが期待出来そうです。秋のお彼岸もご先祖様に感謝して、生きていま命あることに感謝したいと思います。

仲秋の名月・・・平成28年9月14日

9月15日は仲秋の名月です。それにちなみ、名月を愛でる「寒山拾得」の掛け軸をかけました。この絵は、丸森町出身の齋藤弓弦先生の作、地元でも有名な画家

の一人です。この作品は、東京にお



られた頃の作と思われる、丸森に帰ってきてからは画風が変わり、専門家からの評価が下がったと言われていますが、私にはそのへんのところはよくわかりません。ともあれ非常に穏やかな「寒山拾得」の絵で、私の好きな作品の一つです。※1。

さて、今年の夏は非常に暑い夏で毎日辟易していましたが、何か夏に1冊ぐらいは本を読みたいと思いに手に取ったのが頼住光子先生の「正法眼蔵入門」という本です。角川ソフィア文庫の中に入っています。

この本の中で私が一番感動したのは何かと言いますと、二三〇ページから書かれてある文庫本のあと

がきで、(それぞれに長い時間をかけて道元の文章と悪戦苦闘してきたことをうかがわせる学生たちのゼミの発表を聞きながら、道元の文章が実にさまざまな読みの可能性を含んでいることを改めて思い知らされた。私とは違う読み筋ながら、学生たちの読みはそれぞれに説得的で、道元の文章は、多様な読みを許容する、それどころか、多様な読みを触発することを目指して書かれたのかもしれないとさえ思った。学生たちの多様な道元の読みに接して、ふと私の頭をよぎったのは、「それぞれの読み筋は、その人の運命なのではないか」ということであった。本文でも書いたように、道元の文章は、私たちが潜在的に持っている認識の前提を切り崩してくる。そのような前提を取り払った時に見えてくるのは、その人をその人たらしめる核心、原質というべきものではないだろうか。仏教が説く「空」や「無我」によって、人は空っぽの抽象、スタティックな理想の境地を得るのではないだろう。「空」や「無我」という考え方は、人が世俗を生きる中で不可避免的に身に着けてしまった思い込みや執着から人を解放する。常識という名の思い込みや執着に揺さぶりをかけてくる道元

の文章を読むことで、人は自己の原質、つまり自己の運命に向き合うのだろう。その意味で、本書は、道元によって触発された私の運命の一端に触れたものと言っているのかもしれない。

ここを読んで私がぐっと感ずることがありました。「それぞれの読み筋は、その人の運命ではないか」と言う一文を読んでハツとして呻ってしまいました。世間では縁を見つけるか見つけないか、縁とするか縁としないかはその人の実力であり、力量であるというような言い方をしますが、頼住先生は読み方がいろいろなのはその人の力量によると言わないでその人の運命であると、こう言われたところにおっと感じたわけです。

当然ながら、正法眼蔵とは道元禅師がご自身のお悟りの体験を書かれたものです。私たちは、私たちが体験したことを拠り所として道元禅師のお悟りの跡を読ませていただいているわけです。そこで、私たち一人一人が正法眼蔵を読むということを自己の修行とし、道元禅師の修行の跡をなぞろうとするわけです。日常、私たちは悟りの世界に入ったり出たりして生きている。その生きている環境の中で正法眼蔵を拝読するというのはまさにそれぞれの運命で

す。そのところを頼住先生に突かれて私は感動いたしました。

さて、僧侶の中には、最終的には道元禅師の書かれた著述は坐禅をした者にしか分からないことだ、坐禅をしない人は頭だけで理解しているにすぎないというようなことを言われる方もいます。

8月の末に縁があり、図らずも頼住先生は遙か東京大学からこの角田の長泉寺にお越しいただき、^①時間ほどご講義を頂く縁をいただきましたが、坐禅をしなければわからないというお坊さん方もその中にはいたように思えます。しかし坐禅をしなければ解らないというようなお坊さんは意外に坐禅もしてないお坊さんだとも感じました。

ともあれこの夏、暑い中にこの僅か二百数十頁の本ではありましたが、暑い中でも拝読させて頂いたというのは貴重な夏を過ごさせていただいたなと感じております。正法眼蔵から生き方を学び、寒山拾得の境地で名月を愛でたいと願うばかりです。

秋、涼しくなりましたお体ご自愛下さい。

※1：日本画家。宮城県（丸森町）生。本名は亀治。別号に灑山。小堀鞆音に師事し、土佐派を

研究、数々の審査会で入選し、作品は東宮職・皇后職御用品ともなる。大正3年第8回文展で初入選し、その後も文展・帝展で活躍のかたわら、教科書の挿画も手がけた。戦後は地元に戻り、創作に励んだ。昭和49年（1974）歿、93才。

年の瀬に・・・平成28年12月14日

今年一年、長泉寺のホームページをお読みいただいた方々に心より御礼申し上げます。

「日々の出来事について感じたことをもっと気軽に書かれたらいかがですか」と応援して下さる読者の方もおいでですが、私の性格上そういう訳にもいかず、書いては掲載する時宣を失ってしまい紙屑かごにポイした原稿は数知れません。加齢とともに遅筆になった事は否めない事実です。

一度文章を書いたら推敲を重ね何度も文章を練り直す。というのが、私が小学生の頃から教わった作文の書き方だったように思えます。

私もお盆の前にこのホームページに記述させて頂

きました。自分と仏様との心の交流は他人にお話してもなかなか伝わりません。けれどそれは、それぞれ個人の心の問題ですから、それはそれで良いのだと思います。

ところが、最近の若者はとにかく感情の赴くまま、すらすらぺらぺらと書き驚くばかりです。うらやましくも思えます。

風邪をひき、3週間もぐずぐずした生活をしてご迷惑をお掛けしておりますが、年末年始の行事は例年通りですので、どうぞお参りにお越し下さい。

お待ちしております。

年の始めに・・・平成29年1月1日

あけましておめでとうございます。

今年もよろしくおねがいします。ご家族皆様方のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。各人、みんなと仲良く楽しく、幸せに過ごせる一年になりたいものです。

さて今年は酉年。鶏と聞いて、一番最初に思い出すことわざは皆さん何でしょう？ 私は高校生？の時に教えていただいた、「鶏口けいこうとなるも牛後びうごとなるなかれ」と言うことわざです。

これにはいろいろな解釈があるようですが、大体は次のような意味合いでしょうか、。それは、「小さな団体であってもその頭領になる方が大きな団体の末端にいるよりはいい」と言うことだろうと思います。

昨年、このことわざ通り、自民党の一議員でいた女性が都知事選に出馬して、みごと都知事になられた方がいました。小池百合子さんです。彼女こそまさしく「牛後ではなく鶏口」となった女性のリーダーではないか、代表格でないかと私は思っています。昨年はいろいろな意味で都知事さん大活躍の一年でありました。今年も「都民ファースト」「市民ファースト」で私達の為に活躍をしていただきたいと思いますと思っています。



さて、これは中国の「莊子(そうじ)」と言う書物の中に出てくる例え話ですが、「木鶏(ぼっけい)に似たり」と言うことわざがあります。

・・・紀渚子きせいしという男が王のために闘鶏を育てていた。闘鶏を訓練し始めて十日のち、王が紀渚子にもうだいじょうぶか、ときいた。紀渚子は、まだ鶏は虚勢をはっているからだめた、という。また十日してきくと、まだ相手の動きに心を動かすことがあるからだめた、という。さらに十日たつてきくと、もうよろしいでしょう、と答えた。そのときの闘鶏のようすが、ちようど木鶏のようであった。これを見てはどんな相手でもこれと闘う気力を失い、逃げ出してしまった、というのである。・・・

見たところ、木でつくった鶏のようだ。敵意を持たないものに対しては、これに反抗する敵はない。無心で他に対することが、万事を処理し、困難に打ち勝つ最上の方法であるのとえです。

一年の間には面白くないことも多々ありますが、木鶏の如くに無心にして泰然自若「氣に入らぬ風もあるうに柳かな(仙厓和尚(せんがいおしょう))」の心境でいきたいものです。

今年もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

寒行・・・平成29年1月25日

おはようございます。

寒い日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？。雪の降る夜はなぜか過ぎ去った懐かしい思い出がよみがえります。

これは昭和39年東京オリンピックの頃のお話です。当時、私は小学5年生でした。そしてその頃、長泉寺では高校生から30才くらいになるまでの兄弟子10名程と一緒に生活をしていました。

ちょうど大寒から旧正月にかけての一番寒い時期になると、兄弟子達は寒行といって大きな声を張り上げ経文を唱える修行をするのでした。夜8時になると、秋葉堂の建っている秋葉山（小高い丘）に向かってぞろぞろと歩いて行きます。頭にタオルで鉢巻きをしたり、お寿司屋さんの職人さんのようにぐるり廻したり、ターバンのように巻いたり、それぞ

れ防寒と気合の意をこめた格好です。皆「どんぶく」という綿入れ姿であった記憶がします。

リーダー僧が「まかはんにやはらみた心経」と声高に唱えると、全員で星空に届けとばかりの大声で般若心経を練習するのです。大悲咒（だいひしん）や観音経（かんのんきょう）とお経の練習は続き、次第に体が温まってきたかのように顔は赤くほてっていました。子どもの私はお経は読めず、声を張り上げることも出来ませんでした。が、真っ暗な秋葉山、しかもすぐ側はお墓です。そんな場所について行けることは大きな冒険でした。なにか大人になったような気分で、とても嬉しくワクワクしたものでした。秋葉山からは近所の民家の灯りが静かに見えるだけで、この冬の空間を私たちお坊さんだけが独り占めしたような不思議な満足感を覚えたものです。

寒行は朝の勤行と同じほどの長さ、つまり30分程続き、終わると急に寒い寒いと下りてきて、台所の炉辺にまるく座り熱い砂糖湯を飲むのです。「砂糖湯を飲み過ぎると腹が痛くなるぞ！」年長者の淑郎さんはいつも私に言ってくれたのです。バチバチバチと赤く燃える囲炉裏の炎でみんなの

顔は一層赤々となり、わたしもふうふうと砂糖湯を飲んで幸せな心地でした。

九時となり、開枕（かいちん）。就寝の時間です。木版を鳴らしてまた唱えます。生死事大。無常迅速。各々宜しく醒覚して慎んで放逸なること勿れ。

こうして冬の寒行は10日間程も続いたのでしょうか？よく思い出せません。寒行のおかげで長泉寺の兄弟子たちは全員お経が上手です。ありがたいことです。

鐘の音・・・平成29年2月22日

おはようございます。

お寺の境内の梅の花もほころび始めました。とは言え朝夕はまだまだ寒さが厳しく昨日などは轟々と風が吹き、朝の鐘を撞く時には鐘楼から飛ばされるのではないかと心配いたしました。

さてこの季節の言葉に三寒四



温という言葉があります。何を基準にして三寒四温というのかが私にはよくわかりません。ともあれ寒い日や暖かい日を繰り返しながら冬と春が綱引きをしながら少しずつ春がやって来るといった意味なのでしょう。夜が明けるのも早くなり6時の鐘を撞く時には散歩をする人影が見えるほどになりました。

さて先日テレビを見ておりましたら福島県の郡山市に「いぼなし梵鐘」呼ばれる鐘があることを知りました。ご存知のようにお寺の鐘には、ぼつぼつとイボのようなものが鐘の上に付いております。その数は一〇八ちようど除夜の鐘の数と同じ数がついています。そのぼつぼつがない鐘が郡山市の如宝寺にあって、それは国の重要文化財に指定されているということを知りました。まだ拝見をした事はありませんが、是非そのお寺にお伺いをしてどんな音がするのか聞いてみたいと思います。

と申しますのは鐘を撞いていてわかることです。が、天気には音は非常に左右されます。雨の時にはやはり湿った音がして晴ればカーンという高い響きになるようです。それから長泉寺の鐘だけか

もしもですが、毎日撞いているうちに振動で鐘を吊っている鍵の部分から少しずつ左右に振れて撞木と鐘の当たる角度が微妙に異なる事に気づいてきました。ですから毎日同じ響きで鐘を撞くそのためには意外にお坊さんたちも見えない苦労して撞木と鐘がきちんとなる角度に合っているか、今日の天気はどうか、風向きはどうか、工夫しながら鐘を撞いている事を思っていただけがあればありがたいと思います。それから撞く人の性格ですね、これがよく表れると思います。

何でも一つの事を一生懸命するということは難しい事です。毎日毎日の繰り返しが同じようで同じでない。私たちの人生も同じだと思います。同じように毎日毎日生活をする事の大切さをこの難しさの中から私は学ばせていただいたように思います。

明日また6時に鐘を鳴らします。どうぞお聞き下さい。ありがとうございました。

東日本大震災七回忌追悼大法要・・・平成29年3月11日

今年は、東日本大震災から満六年、七回忌でした。長泉寺ではこれを祈念し「東日本大震災七回忌追悼大法要」開催しました。



法要後には震災後から鎮魂像を続けている大沼敏修先生（市内高倉在住）による講演と柴田町「明了館」の皆様による合気道「古流・夢想神伝流」が行われました。

七回忌大法要・・・長泉寺本堂 今の私に出来ること

このたびは方丈さんから本堂にお招き頂きまして誠に有り難いことと恐縮しております。西根から参りました大沼敏修と申します。



なにごんにも不慣れであります。メモを見ながらの話になることをお許し下さい。

6年前の今日、3月11日午後2時46分私は山で薪を切っております。その時揺れを感じました。ご存じの通り天地が今にも裂けるような強く長い揺れでした。

強烈な揺れの中で、土煙がもくもく。辺りが一気に暗くなり、あっという間に視界がゼロとなりました。

「山崩れた。終わりだ!」

と観念した程であります。

視界を遮ったのは杉の花粉とわかりました。揺れが杉の花粉を一齐に大量にまき散らしたものでした。あの時の恐ろしさは忘れられません。思い出すと今でも身体が震えます。

3.11震災が「風化している」と言われます。が、「そうでしょうか？」風化しているのではなく風化させていると私は感じています。

6年前に戻ります。

震災発生後、真っ先に駆けつけたのは石巻でございます。恩返しをするために軽トラックの荷台に、米、味噌、水、おにぎり、かき集めたガソリン、テント、寝袋、一輪車にスコップ、バール、斧を積み込みました。

石巻は私が20代に4年間勤務した勤務地でありました。

当時お世話頂いた恩人、知人、友人が被災していましたし、家内の生まれ故郷でもあります。家内の肉親は、避難所に逃れていました。

遠回り迂回を重ね、震災発生後、六日目、3月17日にたどり着いた。その石巻は、まさに想像を絶する惨状でございました。

言葉にならず耳を疑い目を覆うばかり

「ここに人の暮らしがあった?」

とはとても信じられない現実が目の前にありました。

北上地区では、土台の石、基礎コンクリートの一欠片も残らない、まるで月のクレーターを思わせる惨状でございました。それを見た時、唇はワナワナ、膝はガクガク思わずその場にしゃがみ込んでいました。恐ろしくすざましい津波の破壊力。地獄絵図より、もっともつとむごい有様でございました。

北上地区に続きまして向かった先は、旧北上川河口に近い川沿いの住宅地でございました。ヘド口の掻き出し作業の手伝いです。かつての同僚た

ちも駆けつけていました。そのお宅は木造二階建て一階には茶室もある和風住宅で大正生まれのご夫婦がお二人で住んでいたお宅です。一軒だけぽんと残っていました。

出迎えてくれた息子さん「親父も母ちゃんも避難所では終わりたくねえ。ここで死ぬ。の一点張り、仕方ないんでさらっとリフォームして、立ち退きになるまでの間だけでも思っています……。うちは門の前の物置が波きりの役目をしたんですよ。ご近所は津波をもろに受けました。うちだけ残っちゃって……。」と疲れ切った表情で話してくれました。

私たちは見るのも聞くのも気の毒で、辛くて胸が苦しくなるばかりでした。ヘド口の掻き出し作業は家の中から手をつけました。どの部屋もヘド口だらけコールタールのような黒いドロドロの中にありとあらゆる物がおもちゃ箱をひっくり返したようにごちゃ混ぜとなっていました。

息子さんが言います。「家の中の物は一切合切がれき置き場に捨ててください。品定めは無用をお願いします。はかどりません。訪問着？帯？もう着れない。捨ててください。」

花入れ？茶道具？教室は閉鎖。もういりません」。

「そんなの見せたら、また、オイオイ母ちゃん大泣き、もう聞きたくねえばホントにかまねがら遠慮しねで全部出してもらって結構です」と声を張り上げます。私もはそんなヤケになった息子さんの顔をまともに見られず横を向いています。そんな訳で家の中の物は何もかもすべてがれき置き場に積み上げました。

ヘド口の掻き出し作業二日目です。

私は内心、「こんで、石巻立ち上がれるかな」と案じながらスコップを運んでいますと、スコップの先が「カチン」と音を立てたので、思わず作業を止め、しゃがんでヘド口の中を見ました。音を立てたのは焼き物のお地藏さんでございました。それも次から次とひーふーみーの三体が続けざまに現れて参りました。どれも子猫ぐらいの大きさのお地藏さんです。それを見て「地獄で仏、本当なんだな」と思い、軍手を外し素手でお地藏さんをつかんでバケツの水でチャプチャプすすぎました。

よく見ると、色、形、大きさはまちまちです。でもどのお地藏さんも素朴で優しい顔をしています。この場面では息子さんを手招きしました。

私が濡れ縁に並べたお地藏さんを一目見た息子さん「あ、母ちゃん作った手作り地藏！物置に残ってたんだ。粘土をこねて釜で焼いてみんなに配ってたんです。人様にくれ散らかすのが趣味でこの物置に釜があるんです。さてと困ったな」と腕を組みます。

この時、元同僚の誰かが「物置に残ってたあー！。それじゃ波きり地藏だべー。あの大津波から家を守ったんだ。瓦礫？罰あたつとー！」と息子さんを睨みます。「だめ、だめ、だめ、絶対だめ、母ちゃんに見せたらオイオイ三日は泣いてる。うーん。どうすつぺ。あつそうだー！この地藏さん。大沼さんのスコップにぶつかつたんだから責任取つて角田さ連れてつて下さいよ。頼みますよ。やっぱり瓦礫バチあたる」と息子さん。三体のお地藏さんを私に託しました。

ヘド口の掻き出し作業はいったん中断。北上川の水をバケツに汲んでもう一度ヘド口を洗い落としました。そして首のタオルと腰の手ぬぐいで包みまして、軽トラックの運転席にお移り頂きました。．．．このお地藏さんが、その波切り地藏です。残りの二体は、留守番をお願いしました。後ろに「愛」と有りますが、愛子さんと言う方が作者です。どうぞ手に取つて、ご覧下さい。．．．

石巻から角田にお連れして参りましたお地藏さんは庭先に鎮座してもらいました。「花も供えないとな」と思ひまして裏の竹藪に適当な竹を探しに行きました。竹の花入れを作るためです。目に止まったのは孟宗竹でした。細身、立ち枯れのさび色、節の間隔が詰まった竹でした。その竹を揺すつてみますと「グラグラ」と根元が動きまわったので、オシ、道具なしで倒っせかなと思ひ、力を加え、揺すりますと「バキッ」と根元で折れてしまいました。

「しまったやはり道具をもつてこればな」と悔やみながら竹の根元に目を移しました。すると竹の中に祈りの姿が現れました。．．．この竹がその時の竹です。どうぞ手に取つてご覧下さい。

ささくれひげ根は私が整理しましたがお姿は殆ど手を加えていません。

なお竹藪から生まれたものでございまして、私



は勝手に藪地藏と呼んでいます。藪地藏との出会いは「偶然」と思っていました。その頃からなぜか？、枯れ木、竹の根、朽ちかけた木に目が止まるようになりました。

山仕事に行く度、それらの枯れ木を持ち帰り、木小屋に大事にしまうようになりました。なお我が家は明治に建てた蚕農家でありまして、雨漏りに耐えきれず屋根こそ葺き替えましたが、その他は明治のまんまでございます。

今も庵に木をくべ暖を取ってしまして薪の確保は私の大事な仕事です。

木小屋が枯れ木だらけになったそんな時に、南三陸町志津川の総合防災庁舎で殉職されました遠藤未希さんのニュースが耳に入りました。

自分の命を顧みず避難を呼びかける「叫び」に胸を打たれまして、何とも痛ましい。魂を鎮めないといついても立ってもいられない気持ちになりました。気がつきますと木小屋の枯れ木に手をのばしていました。その枯れ木をなたで切り、彫刻刀で削り遠藤未希さんの鎮魂像を仕上げました。出来たのは震災の年の6月末の事でした。遠藤未希さんの鎮魂像を作ったのがきっかけとなりまして、拾い集めていた枯れ木を日毎夜毎

削ることになりました。

私は、学業は0点いたらずら満点の悪童でございまして、ごしゃがってばーりいました。子どもをおどしつける時のうちの親の決まり文句は「神仏を尊び、神仏に頼らず」に始まり、「このぬわどり、なんぼ言ったらわかんた、そごさ座れ！！、ずごくにおどされっぞ！、針のむしろに座らさっれぞ、石の皮むがさっれぞ、べろ抜がれっぞ！味噌漬けてくれっぞ！このたがらもの！！」と続きまして。地獄がこわくてたまらず少しはおとなしたものです。でも信心深くはなく、ご先祖様と神棚に手を合わせるだけのぶじよほうな者でございまして。

そんな私が「安らかに」の思いを込めまして、こつこつと彫刻刀を握り続けておりましたところ、震災から3年目には鎮魂像は300体ほどになりました。

そんなある日娘さんを津波で亡くされた70代のご夫婦が石巻から訪ねて参りまして、奥様がある像の前で足を止め「娘にそっくり、戻ったみたい」と涙を浮かべ喜んでくれました。

この像は松の木を削ったもので木は朽ちていました。その朽ちた部分を削り落としまして一心に

彫ったものでした。実際は私が作ったと言うよりも風雪と蟻さんムカデ君がかじって作ったものでございました。

自然が作る線はとつても素敵で惚れ惚れします。とても人間の手では出せないライン、あの天才ミケランジェロも脱帽するような像でございました。その像を奥様は「是非」と申しますので私は喜んで差し上げました。その後、礼状が届きまして「おかげさまで娘と一緒に居る気持ちになれて、今は趣味の手仕事も出来るようになりました。やっと笑えるようにもなりました」と結ばれていました。この礼状に力が湧きました。土に帰る木がご遺族の力に、「よし続けるべ」と、もともと短気で飽きやすく細かい仕事は大の苦手の私が「安らかに、どうか安らかに」と念じながら一人静かに彫刻刀を握り続け千体を目指しました。震災から4年目には千体に届



きました。

ところが千体達成のこの日、目を疑うことが起きました。「三劫三(さんごうさん)千仏(せんぶつ)」と言う難しく聞いたことも無い文字が目飛び込んできたのです。方丈さんのおられる場で、まことにおこがましく恐れ入りますが続けさせていただけます。

「三劫三千仏」とは、

三劫。この三劫の劫は「未来永劫」の劫であります。つまり、過去現在そして未来の三劫に、それぞれ千体ずつ、合わせて三千体の仏をあらわすことで、衆生つまり下々までみんなが往生できるとの教えでございます。ご存じの千体仏は、平安の貴族の方が自分一人、己のみが極楽往生すべく彫らせた物とありました。

日本歴史小百科『彫刻』と言う本に書かれています。この本は私を陰で支えていてくれました、博識の先輩が古本屋で偶然見つけて私に届けてくれた本でございます。

この時先輩は、頭を抱えるだけの私に「千まで来たんだ、三千まで続けねどな、無駄になる。震災の犠牲者はみんなが往生できる。ご遺族の癒や

しにも。材料はすんぺすんな、枯れ木を集めればいいんだべ、まかせろ、おまえはただひたすら削り続ける。

「安らかに」の思いを込めてさ。一体一体に。下手で良い。思いを込めればきつと伝わる。犠牲者も浮かばれる。三千めざせ！」と肩をたたいてくれました。そして震災発生から5年間。おとしの夏には2千5百体を数えるまでになりました。

少し、肩の荷が軽くなった丁度その頃、たしかお盆の時、福島から年配のご夫婦が訪ねて参りました。

偶然とおりがかって立ち寄ったとの事でございます。一通りご案内をしまして、帰り際になった時、奥様が「何体お作りに？」とおっしゃいましたので「はい、三千体でございます」とお答えしました。その答えに奥様は怪訝そうな顔で「えっ三千体？。二万體ではなくて？」とおっしゃいます。私は金縛り。頭の中は真っ白、思考停止、声も出ません。

奥様は静かに真剣な眼差しで「震災の死者、行方不明者それに震災関連死の方々を集めると犠牲者は約二万人と聞いております。二万體彫っていただけなの？」と私の顔を見つめます。立ち尽くすだけの私。奥様は、そんな私に頭を下げまして「どうか娘の分も、実はまだみつからなくて」と、声を振るわせませす。無

言の私。何も言えませんでした。

我に返ったのはお二人の車が出た後でした。車のナンバーを目で追い、いわきナンバー。ご遺族か？「がんばります」と言えねがった。2万は無理だし、約束は出来ねし、んでも嘘でも良いから「なんとかがんばります」と言ってやれば良かったな。あんなにがっかりすねで帰れたべな。んでも声がでなかった。「なじよしたら、いがったんだべ」と、ため息の一日となりました。

この日から、耳の奥に「どうか娘の分も」との声が聞こえてなりません。その度に「数に拘るな、祈りを込めて、ひたすらでいい」と自分に言い聞かせました。そして彫刻刀を握りますとなぜかその声は消えてくれました。夜なべ仕事を続けましてこの年の12月17日三千体となりました。しかし、達成感は湧きません。ふと手元の像に目を戻しました。三千体目の像は萱材でございました。萱材をくれた方は私の友人でこの年の秋、突然亡くなった大工さんです。そうだ。まず大工さんに三千体達成を報告しねど、あれ、49日にあたり日、いつだった？とカレンダーを見るとあたり日は12月18日でした。「あっ、明日だ、線香立てねど」と我に返り

ました。

翌日、早速参上。お位牌に報告を致しました。その帰り際、大工さんの息子さんが「親父が拾ったクルミなんです。このクルミでなにか出来ねるか？」とクルミを持ってきたので有りがたく頂いて帰りました。家に戻りクルミを割って中の身を取り、ふとクルミの殻を見ると

割った断面に手を合わせる姿が見えました。その姿におもわず頭が下がり「あーおほどげさん、続けっからないん」と自然に声が出ました。クルミの中の姿を発見した時に二万体を目指す決心ができました。

この日から、迷わずただひたすら彫刻刀を握り続け、今現在「3.11鎮魂像」は五千二百体を数える事になりました。

省みまずと絵も描けない図画工作の通信簿は、お情けの「2」。日曜大工は不得手不器用の見本。その私を突き動かしたのは自分の命を省みず避難を呼びかけた遠藤未希さんの「叫び」でありました。そしてまた津波で娘さんを亡くされたご遺族から届いた手紙とご遺体はまだ見つからないご遺族の悲痛な言葉が、自分自身予想だにできなかった2万人におよぶ尊い命を奪った3.11の犠牲者と同数の鎮魂像を目指す

力となりました。

今、現在五千体を超えたとは言え、残るは遙か彼方、気が遠くなりそうです。とてもとても生あるうちに達成はかなわないと存じます。しかしながら、言葉では上手く言い表せない不思議な縁によりまして、彫刻刀を手にする事になった者のつ



とめとして一体でも多くの鎮魂像を作ることが御仏の導きにかなうものと思えます。

そしてそれが犠牲となりました方々の魂を鎮め、ご遺族の悲しみを少しでも和らげる事になるのならこれに勝る喜びはありません。精進を積み重ね、ひたむきに歩めばいつの日かきつと2万体に届くかもしれない。その時まで諦めず彫刻刀を握り続けて参ります。合い言葉は「忘れない。二万の思いとたましいを」それが今の私に出来ることでございます。

つたない話に耳を傾けて頂きました皆様に対し、心から感謝申し上げます。おわりと致します。誠にありがとうございました。

合気道「古流・夢想神伝流」



鐘を撞くという事に・・・平成29年4月5日

おはようございます。

先日、鐘をつく撞木を吊している鎖が切れて朝夕の梵鐘を一週間ほど休ませていただきました。ご周知の通り、現在の梵鐘は二〇〇一年年に21世紀平和祈念鐘という名称で新しく铸造した梵鐘です。

ですから、計算をしてみますと二〇〇一年から

二〇一七年まで16年間梵鐘をついて来た撞木の鎖ということになります。今回どうした拍子か鎖が切れ、皆様方にはご迷惑をかけましたが、一週間のお休みをいただき新しい鎖に換え撞木を吊り直し、また朝夕鐘を鳴らしております。

ところが撞木が梵鐘にあたる角度や位置が今までと変わったのか、どことなく鳴りがいまひとつ思うように鳴りません。あれこれ工夫しておりますが、まだ一定の音色で鐘を鳴らせないでおります。申し訳ないことだと思えます。

考えてみればその日の天気、温度、湿度、あるいは撞木を振り上げ振り下ろす力の具合、また撞く人の感情と申しますか心の置きどころの具合で鐘の音色が違ってしまうと思います。ともあれ毎日同じような音色と響きで鐘を撞くという事は大変難しいことだとつくづく感じております。

さて道元禅師が著した『普勸坐禅儀』には「坐禅は習禅にはあらず」という有名な言葉が出てきます。この言葉は「坐禅とは戒・定・慧の三学の定の坐禅ではないぞ。また六波羅蜜の禅定の禅ではないぞ。悟りを得ようとする坐禅でもなければ心を静めようとする坐禅でもないぞ。」という意味でありましょう。

そうであるが故に、いはゆる禅定と言われるような習禅を離れてさらに正伝の坐禅を組むと言うことはなかなか私どもには難しいことです。むしろほとんどが習禅の気持ちで坐禅をしている有様ではないかと自省するばかりです。

朝夕毎日鐘を撞いていても同じ音色で鐘が鳴らない。毎日行じていても同じ坐禅ができない。難しいことだと思えます。しかし、だからこそ毎日鐘を撞き、毎日坐禅を組む理由もそこにあるわけです。先年、おかくれになられました永平寺の宮崎奕保禅師は、「毎日がまねごとの坐禅だとしても一生まねごとの坐禅をすれば本物の坐禅になる」とお示しされました。ですから、やがて本物の坐禅になるかどうかは毎日のこの日々の勤めの日にあると私もそう信じて生きている次第です。

桜の花も綻び始めました今年も佳い季節が巡ってまいりました。

道悟桜・・・平成29年5月3日

おはようございます。

長泉寺の坐禅堂のすぐ前に一本の桜の老木が立っています。私たちはこれを道悟桜と呼んでいます。道悟桜の名前の由来について私はよくわかりませんが、道悟と言う方は38世もくあんどうひ黙庵道悟大和尚様のことであろうかと思えます。道悟和尚様は明治27年7月にお亡くなりになられていることが記録でわかっております。



この方丈様が植えたのでそんな由来の名がついた桜なのかと私は勝手に考えております。ともあれ長泉寺の桜で一番早く、しかも冴え冴えしたピンク色の見事な花を咲かせてくれる大切な桜の老木です。

しかし近年ますます木が年老いてくるのが素人の私にもよくわかり、庭を管理されている庭師の方からは「方丈さん、早くこれを倒さないと坐禅堂の建物を壊したりあるいは場合によっては風で飛ばされて大切な本堂を痛めてしまいますよ」と処分を毎年

のように促されております。けれども見事なその枝ぶりや花の美しさに、いつも春の季節になると「どうしたらよいものかなあ」と迷っては、「いやいやまた来年咲かせてくれるのを楽しみに待ちたい」。そう思い、倒すのを断念しております。

今年も桜の季節が終わりました。花が散った後には青々とこの道悟桜は他の桜と同じように綺麗な葉をその木にしたされております。

さて坐禅堂の瓦は6年前の震災の時に大部ずり落ち、屋根の下地も痛んでいるように思い検査をしていただいたら、「やはり屋根替えの時期ですね」と大工さんに言われました。「屋根替えをする時にはこの桜を切らなければなりません。先代の方丈様が昭和54年にこの坐禅堂を再建した時に、この桜を保存しようと思ったのでしよう。桜の幹に屋根が当たらぬようにしたために軒が少し短いです。だから少し強い風雨が降った時、あるいは台風の時など雨が坐禅堂の中に入りやすいんですよ。この桜を倒してもつと軒を深くしないと坐禅堂が大変なことになります」。このようににも大工さんに言われてしまいました。毎日庭に出ては、この桜と「どうしたら良いかなあ」とお話をするこの頃です。

五感で聴く・・・平成29年5月23日

おはようございます。

新緑のいよいよ美しい季節となりました。朝早く目覚めてみますと色々な小鳥のさえずりがあちらこちらから聞こえてまいります。鳴き声のする方を見ても鳥の姿は見えません。しかし色々なさえずりの音が聞こえて参りますから色々な種類の鳥が森には住んでいることがわかります。さえずりの声を聞いてこれはなんとという小鳥の声か、どんな意味のさえずりなのか、それがわかれば楽しい嬉しいと思うことがあります。

さて先日観音講の集いがありました。その中で「聴く」と言う字についてお話をしました。これは耳への聴という字、視聴覚の聴という字のお話です。耳へんに作りのほうの上には十という事を書きます。これは心のアンテナを表しています。その下の漢数字の四に見えるのは目を横にした字です。そして、その下に一、その下に心と書く。つまり耳だけではなく心のアンテナを立てて、目、心、そういう五感を一つに集中して聞くこと、これを聴くというお話をしました。

以上は、臨床仏教研修講座で神仁先生から教えていただいた話です。ですから私たちも人とお話をする時、あるいはいろんな動物とお話をする時、また最近はやりの「傾聴」と言われる聴き方とは耳だけでなく五感を集中して聞くことです。その癖をつけてみましょうとお話をさせていただきました。心を通わず聴き方、また話し方も同様と思います。

ですから、お墓やお仏壇やお寺にお参りした時にもただ無言でご先祖様や仏様に手を合わせるのではなく、「ご先祖様や仏様とお話をしてみましよう」「ご先祖様や仏様の声を聞いてみましょう」と言うお話をさせていただいたのです。そうすると必ず私たちはご先祖様や仏様とお話が出来、同じ境涯に立つことができ、ここに私だけが一人で生きていると言うのではない。ご先祖様、仏様の力で今ここにこうして生きている、その感謝が私たちに生まれてくるような気がいたします。

さて名古屋屋にあるお寺（桂芳院）に愚痴聞き地藏がお有りになることを知りました。お寺の片隅にその小さなお地藏さんは静かに立っておりまして、周囲からは見えないうように工夫されていた

ように思います。夜になると会社帰りの人などがお地藏さんにお参りにあらわれ、座っているいろいろなその日の出来事やあるいは面白くないことをお地藏さんに向かって愚痴るわけです。人生を語るわけです。お地藏さんのそばには柄杓があつて、その柄杓でお水をかけそしてお地藏さんに手を合わせて何かを願う人もいます。そして、ややしばらくお地藏さんとお話を心がすつきりとして帰られるようです。こんな愚痴聞き地藏さんがあるお寺の様子を何年か前にテレビで拝見しました。このようなお地藏さんが長泉寺にも来て欲しいと思っておりますが、まだ愚痴聞き地藏さんは長泉寺にはおいでになっておりません。

「仏仏不言」と書いて、ぶつぶつ言うなと言いますが「仏仏言う(ぶつぶついう)」こともまた大切な事だと思えます。

百日紅・・・平成29年6月1日

おはようございます。

山門をくぐりお寺の本堂に向かって参道右側に樹齡

何年になるかよくわかりませんが、百日紅(さるすべり)の木が一本立っております。昨秋すす病という病気になったと庭園を管理されている植木屋さんから教えられ、「なんとか生かして下さい。」とお願ひしました。そうしたら、すす病にやられて真っ黒くなったその樹皮をこともあろうに年末の寒くなった時期に全部

剥ぎ取り、まるで因幡の素うさぎのようにされてしまいました。

これで一

体大丈夫なんだろうか？

寒さで枯れるのでは？と私は非常に心配をしました。病気で元気が無くなった枝なども若干切りとられてしまったからです。けれども桜の花が終わる頃から

少しずつ枝の先から芽が吹き出て、今では今年もこれでは花を咲かせるかなと言うほどに葉が勢い良く出てきました。



以上は、臨床仏教研修講座で神仁先生から教えていただいた話です。ですから私たちも人とお話をする時、あるいはいろんな動物とお話をする時、また最近はやりの「傾聴」と言われる聴き方とは耳だけでなく五感を集中して聞くことです。その癖をつけてみましょうとお話をさせていただきました。心を通わす聴き方、また話し方も同様と思います。

ですから、お墓やお仏壇やお寺にお参りした時にもただ無言でご先祖様や仏様に手を合わせるのではなく、「ご先祖様や仏様とお話をしてみましよう」「ご先祖様や仏様の声を聞いてみましょう」と言うお話をさせていたいただいたのです。そうすると必ず私たちはご先祖様や仏様とお話が出来る、同じ境涯に立つことができて、ここに私だけが一人で生きているというのではない。ご先祖様、仏様の力で今ここにこうして生きている、その感謝が私たちに生まれてくるような気がいたします。

専門の方はさすがだなと驚くばかりと同時に、瀕死の状態になっても植物はこんなにも生命力があるのだと、つくづくその百日紅の生命力に感動しています。

また、その隣には、もう半分以上幹が腐れてまる

でやせ細った老人のようになった桜の木があり、その桜も毎年花を咲かせてくれます。二本とも幹を支えの棒でつかえをしなければ倒れそうな木ですが、植物の命というか、自然の命というものはすごいものだただただ驚くばかりです。

その木々を見るたびに最近「終活」という言葉をよく耳にしますが、私たちの終活というのは一体どういうことなのかと考えてしまいます。

失礼をいたしました。

阿武隈急行・・・平成29年7月4日

おはようございます。

梅雨のこの時期、丸森駅から福島県の兜（かぶと）駅に至る、いわゆる阿武隈川溪谷を阿武隈急行線に乗って電車の一人旅するのが好きです。

古くなった車両がガーガーと喘ぎ声を出しながら車輪の音をギーギーと立て電車は阿武隈川溪谷を縫うように走っていきます。「五月雨をあつめてはやし最上川」ではありませんが、こちらの景色

もなかなか良いものです。東京の方へ出かける時には私は殆どこの阿武隈急行線を利用して角田から福島駅までの約一時間の旅を楽しみにしているのです。

私の長男が小学6年生の晩秋の頃、丸森駅のすぐ隣に住む先生のお家へ独りで電車に乗って遊びに出かけたときの話です。

やがて夕方になり、その帰りどうしたわけか角田に帰る電車と福島行き電車と間違えて乗ってしまった丸森駅の次の「あぶくま駅」ではっと気がついたのでしょうか。でもそこは無人駅であたりも淋しいし、子供ながらここで下車したらまずいと驚いて、次の兜駅に着いたら辺りには民家が見えるので、ここで車掌さんにお話をし、近所の家に助けを求めて入りました。

そうしたらそのSさんは親切な方で、わざわざお寺へ「あなたの息子さんを保護しております」と電話を入れて下され、そこで我が家は大騒ぎになった事件がありました。そんな事をなつかしく思い出すのもこの景色の中なのです。

いま、長男は2児の父親となり、長女は幼稚園の年少組です。この子供達も大きくなるまで、またいろんなハプニングを起こすことがあるかもしれませ

ん。そんな時、自分も小さな頃にビックリ小旅行をしたつくと、父親となった長男も思うに違いありません。

ともあれ3人の子ども達がそれぞれに小さな時には私も子育ての良い経験をさせてもらったとなつかしむ年齢となりました。

私も自然を眺めながら色々な事を思い出したり、考えるのが好きになりました。

日光東照宮・・・平成29年7月12日

お寺の観音講の講員の方々30名を引率して日光東照宮を参拝してきました。

さいわい天気にも恵まれ、親切な巫女さんの案内で美事に修復された陽明門をじっくり拝観させていただきました。



さて、二層建ての陽明門の中央には高欄と呼ばれる欄干があり、「唐子遊び」と言われる有名な子供の彫刻が横一列に並んでいます。中国風の服を着た子どもたちが、鬼ごっこやジャンケン、木馬遊び等々、楽しく遊びに興ずる姿が生き生きと彫られています。

遊ぶ子供の姿は平和な世のシンボル。それを彫刻で表現することによって、未来永劫、人々が平和に暮らせる社会を作り上げることが徳川幕府の目指すところとアピールしたとのこと。巫女さんの説明に一同感服しました。

時代は変わろうとも仲良く遊ぶ子供の姿は平和のシンボル。とくに幼稚園生活の中にあっては遊びの中に学びの全てが含まれています。子供の遊びは生活そのものです。

私達も徳川家康公になった気分で、いま一度子供の遊びの価値を見つめ直し、清らかな心で正しく生き、自分自身に誇りを持つ人間になれるよう子供を育てて欲しいと思います。

そのためには、私達大人は子供たちが安心して仲良く遊べる環境作りに努力する義務があります。子供の「いじめ」の責任は学校だけにあるのではなく、私達一人一人にあることを改めて痛感した陽明門拝

観でした。

エンディング産業展・・・平成29年8月30日

おはようございます。

先日（8月23日）、東京ビッグサイトで開催中のエンディング産業展を見学してきました。その様子の一部は当日のNHKニュースによりテレビで紹介されました。世間での関心の高さが伺えますが、展示タイトルの示す通り、それはあくまで葬儀に関する「産業展」であって宗教とは切り離されたものであり、それはそれで興味深く見学してまいりました。

まず第一に来場者の多いことに驚かされました。



大別すると、①業界関係者、②僧侶など寺院や教団関係者らしき者多数、③一般、④ひやかし、になります。エンディング関係の産業展ですから仏式のみならず神式、キリスト教式、その他の宗教式とあってしかるべきと思うのですが、大部分が仏式関係の展示ブースばかりでした。また創価学会、立正佼成会、幸福の科学等々、明治期以降の比較的新しい教団関係に関する特別なブースは見当たりませんでした。

理由としては、新しい教団に於いてはそれぞれの教団内部で市場が確保されており、新規参入する隙がないからではないでしょうか。

第二に、各ブースを見ると、①法具（仏具）関係、②石材関係、③霊柩車関係、④納棺関係（棺、納衣、骨函、骨壺等）、⑤写真関係、⑥遺体一時保管関係（冷蔵庫、冷凍庫等）、⑦祭壇周囲関係（仏壇、祭壇、生花、照明、音楽等）、⑧二関係、⑨遺言書関係、⑩仏事相談コーナー、その他となります。

まるでおもちゃ箱をひっくり返したようににぎやかで多種多彩。これまでの伝統的な品々を無理矢理斬新的な色彩やデザインにしたものがずらりと並び呆気にとられてしまいました。けれども意味的にはそれらの物は昔と今と大同小異でほとんど変わるものでなく、

特に惹かれるものではなく残念に思いました。

僧侶の格好をして、たどたどしい発音で般若心経を讀経するロボット君がいましたが、そこにこのエンディング産業展が象徴されていたように思います。

すなわち、エンディング産業に宗教は不在。むしろ不要と言うことです。セレモニーに珍しさだけを添えるだけの産業展だとすれば何と底の浅い業界なのだろうかと残念です。

むしろITロボット僧侶は、現代の我々僧侶に対するブラックジョークだと考えれば、私達はこれを真摯に受け止めなければなりません。つまり、修行のあとがその後の僧侶としての生き方に滲み出る僧侶、仏心、慈悲心のある僧侶、そしてお経の上手い、仏教のことなら何でもお話できる僧侶になるべき努力を不断に怠ってはならぬことを自戒すべきでありましょう。

この意味で、唯一、浄土真宗（西）本願寺のブー

スがあっってお寺や僧侶に対する意識調査のコーナーを設けていたのには嬉しさを覚えました。こういう場においてこそ私達僧侶は私達を取りまく社会から学ばなくてはならないとする姿勢が

見てとれました。姿、形だけのお坊さんでは生きていけない時代です。既成仏教のお坊さん達がもっと来て欲しかったエンディング産業展でした。

貪らない・・・平成29年11月30日

おはようございます。

六月より長らくのお休みをいただいていた長泉寺の梵鐘ですが、ようやく撞木の修理が完了し、再び皆様へ鐘の音をお届け出来るようになりました。

11月25日の夕方5時から調整のための鐘撞きを再開し、12月1日朝6時より正式に朝夕の鐘を鳴らす事といたします。毎年恒例の大晦日除夜の鐘は12月31日午後11時からとなります。昨年同様、多数の方のご来山ご参加をおまち申し上げます。

なお、新しい撞木は坐禅堂屋根瓦工事に伴い伐採された、いわゆる道悟桜の幹を利用したものです。梵鐘の一音、一響、その桜を知る者にとっては感慨深い音色となることと思えます。

さて、私事ながら秋頃より体調がすぐれず、お檀

家の皆様には元気なそぶりで接する努力をしている一方、午後には体力の風船がしぼむように布団に横になる生活が続いています。加齢と言えどもそれまでですが、何とも情けないことです。

今回は、次の文章を引用させていただき、読者の皆様のお許しをお願いするばかりです。

例えば初詣で。お賽銭を投げながら頼みごとだけ山ほどしていないか。何かの寄付をする。寄付者名や寄付額が発表されるかされないかで、寄付額が大きく変わる。寄付とひきかえに名誉を買っていることになっていないか。車中で席をゆずることさえ、「ありがとう」の一言の礼を期待している。まぎれもなく貪りの心である。

一歩進めて「貪らずとはへつらわざるなり」と説かれる。貪りの心の奥にわが身かわいい思いが居すわり、そのためのへつらいである。諷笑といって、笑うことにさえへつらいがまじりこむ。道元禅師はそこを見逃さない。禅師の秀徹した眼に照らされ、こころして新しい年を迎えたい。

青山俊董著『あなたに贈る人生の道しるべ…続』

ことばの花束』（春秋社）より

青山老師は愛知専門尼僧堂堂長。曹洞宗師家会会長

あけましておめでとうございます・・・平成30年1月1日

みなさまおそろいで、よい春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年はいぬ（戌）年。「犬も歩けば棒に当る」の年です。最近はこれを犬でも人間でも出しゃばると思わぬ痛い目に遇うから、おとなしくひっこんでいる方が無難だと理解する人が増えていくようですが、もともとの意味はどうなのでしょう？。

『広辞苑』に拠れば、物事を行う者は時に禍にあうというのが本来の意であるが、やってみると思



わぬ幸いにあうの解釈が広く行われるとあります。

禅門では「棒」と言えば坐禅中に老師から肩を打たれる棒（警策）のこと。意地悪の棒ではなく策励としての修行のはげましの棒。だから、見込のない僧は棒にも見放される。棒に当たるとは災難どころか望外の幸せなのです。

ご尊家皆様方の益々のご健康とご活躍、ご繁栄、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

節分会・・・平成30年1月26日

おはようございます。

毎日、厳しい寒さが続いています。ラニーニャ現象のせいでしょうか？今年はいつの年にまして雪も降り特に寒いような気がします。

さて、寒い寒いと言っていますが間もなく節分がやってまいります。以前にもここで紹介したと思いますが、長泉寺の節分はいつの頃からかわりませんが、年男の方々が各自スリコギを両手で

持ち、福男が「福は内、鬼は外！」と掛け声をかけながら福豆を撒いた後に、「ごもつとも！」と大声で叫びながらそのスリコギを、豆を拾わんとする人（特に女性！？）の股に押し当てるといふ奇祭が伝わっております。

現代の豆まきは、ややもすれば「鬼は外」と言っ
て豆をまき、その豆をぽりぽりと食べるだけですが、むかしの節分には身近にある様々な疫病を追い払い、今年も実りの多い年になるようにという切実な現実的願いと子孫繁栄の願いがあり、長泉寺の豆まきにはその熱い心を感じます。

今年の長泉寺の節分豆まきは、2月3日（節分）、土曜日の夕方3時からです。どうぞ皆様も多数お越しいただき、今年の厄落とし、五穀豊穰、子孫繁栄を祈願していただきたいと思っております。

お菓子等もたくさん用意しております。お待ちしております。

もちろん、福豆に心願成就のパワーを封ずる祈禱法要にもしっかりと参列して下さいね！



上野・国立博物館にて・・・平成30年3月7日

先日『洞谷記』の研究會出席

の次いで、上野で新幹線を下
車して国立博物館へと歩いた。

開催中の特別展「仁和寺と御室
派のみほとけ」を観るためであ
る。博物館は予想通り混雑して
いたとは言え、平日の昼下がり
ということもあって待ち時間40
分の案内ではあったが30分程の
行列で入館でき、館内も大混雑
と言っほどではなかった。運が良かった。

だから、1041本の手があると話題になっていた
葛井寺の千手観音菩薩坐像も間近で、然もぐるり360
。。じっくり丁寧に拝観することができた。ホール
中央に坐するこの像に正面合掌すると、私には思わ
ずマーラー的な音楽の調べが聴こえた（ような気が
した）。ともあれ、菩薩様の背からピンと臂を伸ば
し、限りなく遠くのたくさんの衆生の苦を救わんと
差し出すその1041本の手に圧倒された。拝している
うちに、それは人間の中で生じては消え、消えては



生じ、やがて増殖していく我儘な欲望、生き方の
内容に対し、「これでは1000本の手でも足りない
なあ」と嘆きつつ救わんとする菩薩の悲痛な姿に
も思えてきた。

すると、急に千手菩薩坐像の景色が一変し、
そこは芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の世界となっ
た。。。。

遠い遠い極楽の天上から銀色の蜘蛛の糸が、ま
るで人目にかかるのを恐れるように、一すじ細く
光りながら、するすると地獄の血の池にいる自分
の上へ垂れてくるではありませんか。犍陀多に遅
れまいと数限りない罪人たちがまるで蟻の行列の
ようにやはり上へ上へ一心によじのぼって来るで
はありませんか。。。助けてくれとすがる手に
その1041本の手が変わって見えました。「申し訳
ありません」。菩薩様にお詫びしてその場を辞し
た。

私が今回の特別展で一番に感動したのは、大
阪・道明寺の十一面観音立像であった。平安時代
8〜9世紀頃の作らしいが、展示会のためガラス
ケース越しに立つ高さ100cmほどのその像は、秘
仏とされる他の像よりも保存(?)状態が良いと

思った。

さて、ご承知と思うが、宮城県伊具三十三観音霊場第三十一番札所に指定されている我が長泉寺にお祀りされている観音様も同様に十一面観音菩薩である。残念ながら明治元年の祝融に遭い本来の像はうかがい知れない。現在は、その後で作られた立像、坐像合わせて5躰がお祀りされている。

みほとけとはこのような方を言うのであろうと理屈抜きに感じたし、そうであって欲しいとも思った。私は無意識的に日常ふだんの自分自身を内省して、「すみません」「許して下さい」「ごめんなさい」と気弱く反射的に涙し、その場でうっかり頭を下げてしまった。すると、「お坊さんも見学に来てるんだね・・・」。そんな声が聞こえてきた。

アルマーニの制服・・・平成30年3月14日

私は長泉寺の住職と同時にミネ幼稚園の園長も兼ねております。ですから、いろいろな時に、いろいろな方面の方から様々な質問をいただくことがあります。

ます。つまり、返答に窮するような質問ということとです。

最近、特に多い質問は銀座に位置する公立の小学校で、校長先生の判断によりこの4月新1年生として入学する児童からイタリアの有名ブランド「アルマーニ」の制服を採用する、しかもそれは8万円ほどの価格がする制服であるらしく、それが新聞その他で報道されましたから、それについて園長先生として住職はどう思うかと言うような質問です。幼稚園の保護者の方、また法要の会食にお集まりのお檀家の方々からお話をかけられますが、それには「基本的にはこれは当事者の問題ですから私にはわかりません」とお話をして、この話題からは逃げるようにしています。



またテレビのバラエティ番組で、お寺のお参りの仕方、お葬式の参列の仕方、神社のお参りの仕方、あるいはお盆の迎え方、仏壇でのお参りの仕方等々が放送されますと、地元の方々はみな素直

な方々ばかりですから直ちに反応をされて、テレビではああ言っていたけれど本当のところはどうなのだろうか、これまた電話なり、いろいろな場面で尋ねられ困り果てることがあります。

一口で申しあげますと、大変失礼ではありませんが世の中は暇なんだなあという一言に尽きます。当事者の問題ですからそれについて外野があれこれ言っても仕方のない話だろうと思います。『知らなかった、本当の仏事のしきたり』のようなテレビ番組は、所詮、テレビのバラエティですから、茶飲話程度のことであって深刻に騒ぎ立てることのない内容が多いように思います。けれどもこのように返答をすると、世間の人からはいい加減な返答をする住職だと逆に相手にされなくなる心配もあり、いささか面白くない気持ちになります。

小学校の制服の件に関しては、本園の先生方にはこのようにお話をしました。

・・・かように、当事者以外のいわゆる第三者があそこの小学校はどうだの、あの校長先生はこうだのと、話しというものは尾ひれがついて世間で騒がれるようになるものだ。従って、うちの幼稚園としては、とにかく保護者との信頼関係を大切にして、

幼稚園としてのふさわしい幼児教育それに徹して肅々と平穩無事にやっていくことが大事なのだと・・・

仏事もそうです。しきたりに縛られるあまり、供養の本来のこころを忘れてしまっただけは本末転倒です。自己流であったとしても心のこもった、そして心が安らぐ仏事やお参りをすれば作法云々という事はその次でよかつと思えます。

もしかしたら、私たち日本人は、いつの間にか価値観が一緒でないと不安になったり、あるいは同一私は無意識的に日常ふだんの自分自身を内省して、「すみません」「許して下さい」「ごめんなさい」と気弱く反射的に涙し、その場でうっかり頭を下げてしまった。すると、「お坊さんも見学に来てるんだね・・・」。そんな声が聞こえてきた。

幼稚園の新しい一年・・・平成30年4月3日

ご入園、ご進級おめでとつございます。

「なすことの ひとつひとつが楽しくて 命がけなり 遊ぶ子どもら」。これは江戸時代に現在の新潟県柏崎地方で活躍された禅僧・良寛さんのうたです。

目をキラキラと輝かせ、毎日毎日楽しく遊ぶ子ども達の姿を見て、それを命がけで生きていると讃嘆されたのですね。

さて、幼稚園の新しい一年が始まりました。新入園のおともだちが初めて経験する集団生活です。初めて出会う環境に、幼児はもちろん保護者の皆さんも戸惑うことがあるかと思えます。そんな時は私達保育者に何なりとご相談下さるようお待ちしております。

どんななお父さんお母さんでも、子育てに苦労しない親はありません。けれどもそれを、めんどろだ・わずらわしい・いやだと感じては、命がけで遊び生きようとしている子どもたちがかわいそうです。

子育てを苦労や骨おりと考えるのではなく、むしろ親としての生きがいと感じ、親子ともに楽しい幼

稚園生活となるよう手をとりあってまいりましょう。

「私たちにはいつもやさしい」ののさま」がついています。私たち保育者もお子さまの安心・安全保育に命がけであたってまいります。

この一年間、よろしくお願いいたします。



※掛け軸絵画の「為すことのひとつひとつが楽しくて命がけで遊ぶ子供ら」書は

愛媛県新居浜市・瑞應寺専門僧堂

堂長 檜崎通元 老師によるものです。

お盆の終わりに・・・平成30年8月16日

おはようございます。

今年もお盆（盂蘭盆会）はあっという間に過ぎ去りました。昨年は雨が多く梅雨開けもしないままでしたが、今夏はいままで経験したこともない大変な熱暑で、その暑さが治まらないまま盆の余韻もなく過ぎ去ってしまったような感じがいたします。

さて、皆様はお帰りになられた仏様とどのようなお話をされたでしょうか？暑さに気をとられ、仏様と話もしないうちにお盆が過ぎ去ってしまったなどという方もいるのではないのでしょうか。

私も以前このホームページで述べて頂きましたが、自分と仏様との心の交流は他人にお話してもなかなか伝わりません。けれどそれは、それぞれ個人の心の問題ですから、それはそれで良いのだと思います。

さて、冒頭に今年の熱暑の話をしました。ただでなく近年は各地で大雨等の被害が頻発して異常気象と呼ばれています。これらの現象は何年か経つと普通の状態になっているかもしれません。

幸いなことに、角田では接近が案じられた台風の

影響も無く、大事に育てた農作物への影響も無く、このまますすめば今年も良い稔りが期待出来るそうです。

お盆が過ぎれば秋のお彼岸も直ぐです。ご先祖様に感謝して、生きていま命あることに感謝したいと思います。

まだまだ厳しい残暑が続きます。皆様のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

失礼を致しました。

※酷暑、炎暑、熱暑、猛暑を広辞苑で調べると、猛暑だけはその日の最高気温が摂氏35。C以上になった日とあります。猛暑日は2007年4月1日より気象庁が使用を開始したかなり新しい用語です。

霜降・霜始降・・・平成30年10月18日

おはようございます。

やかんのお湯が沸騰するまでの時間が長くなり、季節が冬に近づいてきたことを知ります。

退屈な時はお湯がふつふつと沸く景色を眺めるのも面白いもので一点から小さな泡がプクプク沸き上がり、次第にお湯が沸き、湯気が立ち昇ります。

昨年、及川聡子先生にお寺の書院に大きな湯気の襖絵を書いて頂きましたが、はじめ水面がゆらゆらと、そしてあつという間に激しく沸き立つ湯気の姿にすごいエネルギーを感じ、一刻一刻と変わる生々流転の姿に勇気づけられる気がいたします。

さてこれはだいぶ前に読売新聞

に特集された記事ですが、松浦静山の「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉について書いてみようと思います。松浦静山はご存じのように『甲子夜話』という膨大な随筆集を書いた平戸藩の藩主です。

プロ野球の野村監督もこの言葉に触発され、「負けに不思議の負けなし」と言う本を書かれたようで長らくこれは野村語録のひとつ即ち野村監督が作った言葉だと思われておりましたが、これは松浦静山



の言葉であります。「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉は、勝負事に運はつきものだが運で勝つ事はあっても負けるときには何か理由があるという意味のようです。

さて最近はお寺や仏教に対する眼もなかなか厳しい世の中になってまいりまして、お坊さんやお寺に対する評価と申しますか判定が少し落ち気味のように感じます。ひよっとしたら「負けに不思議の負けなし」と言われるように、評価が低調になったのには何か理由があるに違いないと思います。

人は理屈では動きません。したがって、本を読んで勉強する、それもお寺のお坊さんにとっては大事なことだろうと思いますが、それ以上に日常生活の中で、私たちのご先祖のお墓をきれいにして下さっている、いつもお参りに来て下さいという意味でお寺を掃除してくれている、私たちと同じように共同奉仕の区内の清掃の時には出てきて頑張る、そういう姿をもっと見せることが大事なのではないかと思えます。そして、読経のときは姿勢正しく大きな声で朗朗と読むことです。坐禅で培った丹田呼吸で響くように朗朗と読経する

ことです。マイクを頼りにする僧侶が増え、これでは「ありがたさ」がダウンするばかりでないかと私さえも危惧します。本業は大事にせねばなりません。

いよいよ秋も深まり、長泉寺の紅葉もこれから一枚二枚とたくさん葉を落とします。人数的に回らない時もあります。がせつせと庭掃きをしておりますので声をかけて下さるとありがたいと思います。失礼しました。

※霜降そうこう・・・二十四節気の一つ。元来、太陰太陽暦の9月中(6月後半)のことで、太陽の黄経が210。に達した日(太陽暦の10月23日か24日)に始り、立冬(11月7日か8日)の前日までの約15日間ですが、現行暦ではその期間の第1日目をさします。今年は10月23日があたります。次の節気は立冬です。

年末・・・平成30年12月9日

おはようございます。

12月7日(金)はミネ幼稚園の成道会(じょうどうえ)おゆうぎ会でした。「うた」や「おゆうぎ」、「げ

き」に合奏と盛りだくさんのプログラム。どの子もうれしく楽しい発表会となりました。

ステージで演ずる子どもたちの純心でひたむきな姿は観客席の大人の心をとらえ、ハンカチで涙を拭く祖父母や両親の姿も見られました。自分たちがいつの間にか忘れていた生き方をわが子から思い出されたのかも知れません。

園長である私も(毎年のことではありませんが)子どもたちからたくさん学ばされた素晴らしい成道会おゆうぎ会でありました。

さて、今年は「平成」最後の年末と行うことでテレビや新聞等のメディアで平成の特集を多く見受けられます。しかし30年間を簡単に表現することは容易なことではないのではと思っています。私たちの住む角田であれば一番大きな出来事は「東日本大震災」だと思いますが、一人一人にこの30年間と言う時間が流れそれぞれにいろいろなことがあったと思います。この年末にはゆっくりとご自分の平成という時代を顧みるのも良いのではないかと思います。

皆様も年末はお忙しいと思いますが、年末年始の行事は例年通りですので、どうぞお参りにお越

して下さい。お待ちしております。

12月16日(月) 午前10時 「巳正月」^{みしやうがつ} 祈祷供養

12月24日(月) 午前10時 歳末助け合い托鉢

12月28日(金) 午前10時 年末大祓大般若祈祷

12月31日(月) 午後11時 除夜の鐘

1月3日(木) 午前10時 新年大般若祈祷会

※12月31日から1月3日は葬儀を出しません。※
他の仏事は行います。

文士・竹千代・・・平成30年12月20日

おはようございます。

今年も残すところもうあとわずか、お寺のイヌの竹千代くんも今年1年を振り返っ

て文章をしたためる文筆活動に専念をしております。主人の部屋はかように乱雑ではありますが、およ

そ文化や文明は混沌の中から生まれたのであります。ですから私にとっては最高の部屋です。

ワン！ワン！

今年1年振り返ってみれば頼むと頼まれては犬も木へ登る1年で疲れまし



た。頭を下げて頼まれれば出来ない事でもしてやろうという気になる大変な1年だったなあ。

さて来年はイノシシ年、イノシシと聞いて1番最初に思い浮かべる言葉は猪突猛進という言葉で、猪突猛進というのはイノシシがまっすぐ突っ走るように向こう見ずに激しい勢いで進むこと。即ち目的に向かってがむしゃらに行動することの例えで、なんだかアメリカ大統領の顔もイノシシ似になってきたように最近は思えます。

猪突猛進とよく似た言葉に勇往邁進という言葉があります。この言葉は目的に向かってわき目もふらず勇ましく進んでいくことと広辞苑にありま

す。勇往邁進のような人はと言ったら中国の指導者でしょうか。この方もなんとなくおとなしそうに見えますけれどやっぱりイノシシに顔が似てきたように思います。2人の間に立った我が国の指導者は知らんぷりしてこそこそと牙をといっているような感じもいたします。専守防衛や国土防衛の名のもとに少しずつ軍事力が増す国になるのが私には不安でなりません。

平和のためとは言え、どうぞ勇猛果敢に戦場に立ち上がるようなことだけは絶対にしてほしくありません。来年は平成の締めくくり、そして新しい元号の日本となります。

これまで以上に穏やかで平和な一年になるよう、大晦日午後11時からの除夜の鐘を撞きたいと思えます。おいしい年越しそば、あたたかい甘酒、ウンのつくづくのカミを用意してお待ちしています。

皆様もよいお年をお迎えください。ではイノシシ君、来年はよろしく頼みますよ。失礼いたしました。ワン！



大晦日・・・平成30年12月31日

おはようございます。

今日は12月31日、大晦日の朝で天気は晴れです。12月22日の冬至からたった9日しか経っていないのに夜が明けるのがだいぶ早くなった感じがします。鐘を撞く6時には東の空が明るくなってきているのを感じます。

私の祖母は冬至を過ぎると畳の目1つ分だけ日が長くなるとよく言っていました。その通りだなとつくづく感じます。生活から生み出される昔の人の知恵はすごいなと驚きます。明日の元日をまたずして、もう春が来ていると感じた朝でした。

朝、鐘を撞いて6時20分ごろから犬の竹千代ちゃんと散歩に出かけます。竹千代君の歩く足取りも今までは元気なく薄暗い闇の中を歩く感じでしたが、よくよく観察してみますと竹千代君の朝の散歩のコースはだいたい4コースあるようで、それを順繰りに自分でローテーションしながら歩いているようです。往路の途中、アレこの辺が折り

返し点かな私の思うところで、「さあ竹千代君帰ろう、家に戻ろう」と声をかけると踵を返して方向転換、お寺に向かって戻ります。犬の知恵もなかなか侮れません。

あとわずかで除夜の鐘、お正月です。戌年の締めくくりには竹千代君の最後のパトロールにも余念がありません。

ところで、昔からお坊さんには犬や猫など身近な動物と一緒に生活をしていると思われる文章がたくさん残っております。身近なところでは福井県のお誕生寺さまにおきましては沢山の猫が板橋禅師様と多くの修行僧と共に生活しております。

12月1日から8日までの臘ろうはつせしん八摂心の時もお誕生寺様では猫ちゃんたちも、禅師様と一緒に坐禅を過ごした1週間ではなかったかなと推察しています。犬や猫に仏性があるのかなとかと悟りについて共に語り合いながら身近な動物と過ごしている、お坊さんたちの姿が目には浮かびます。

世間にもよく知られている「南泉斬猫」の公案、これは課題としては面白い話です。けれど、結果的には南泉普願禅師が不殺生戒（ふせつしょうかい）を犯したただけの話で、切り捨てられた猫ちゃんは大

まったものではありません。

今年も年末にはご縁のある各地のご住職さまから喪中の葉書が届きました。心よりお悔やみを申し上げます。

けれども、喪中のお寺のお正月というのが今一つわかりません。教えて欲しい公案です。

涅槃会・・・平成31年2月6日

おはようございます。

2月3日の節分はおだやかな日和に恵まれ、豆まきには子ども達はもちろん大勢の保護者の方々にお参り頂き、賑やかに豆まきをさせていただきました。ご褒美のおやつは50袋用意したのですがほとんどなくなりまして。ですから、それくらい大勢の方々が、今年も豆まきにおいでいただいたと嬉しく思っております。

私はいつも豆まき前の挨拶の中で、心の中にいる「意地悪な鬼」を追い出して仲良し福、ニコニコ福を増やそうと子供たちにお話をさせていた

いております。私たちの心には良い心とイタズラな悪い心が同居しています。良い心を伸ばすことによって悪い心の居場所を無くすることが大切です。私たちの良い心を沢山伸ばすよう豆を沢山まき、まいた種が立派な花を咲かせるよう毎日正しく生きていきたいものです。そのようにお話をさせていただきました。

しかし、最近千葉で10歳の女の子が父親に虐待され亡くなってしまったというたましい事件が連日TVで報道されています。大変悲しい事件です。むしろ怒りをおぼえ、腹立たしくも思えます。弱者を愛しみ保護してこそその大人です。このような事件が繰り返し起きぬよう今回の出来事を他山の石として私たち大人は大きな自戒としなければなりません。何の感慨もなく節分の豆をポリポリ食べていたのではチコちゃんに叱られます！！。

さて2月15日は「涅槃会(ねはんえ)」です。2500年程前にお釈迦様がお亡くなりになられたご命日です。80歳で亡くなりました。クシナガラ郊外の沙羅双樹の間に横たわり、頭を北にし、右脇を下にした形で亡くなりました。

これに習って、仏式では亡くなったときに北枕にして寝かせます。長泉寺では江戸期の作と言われている

大きな涅槃絵図を本堂に掲げ、1日から15日まで釈尊最期の説法である「仏遺教経」を読誦し、お参りを頂いております。

これに合わせて2月9日から2月11日まで3日間ではありますが、涅槃会摂心、坐禅会を行います。どうぞお気軽にご参加下さるようお願いしています。毎夕5時から7時まで坐禅をします。その坐禅の間にお話をいたします。椅子等も準備しており坐禅堂も暖かです。姿勢を正しく、心静かに坐ってみませんか。

※お釈迦様の臨終にあたって遺した言葉は次のように言い伝えられています。

まず集まった弟子達に、今まで説いた事について疑問があれば質問をするようにいいました。弟子達は皆だまっています。するとお釈迦さまは「あらゆるものは、うつろいやすいものである。怠ることなく精進せよ」これが最後の言葉でした。

涅槃はお釈迦さまの究極的な救いの境地を現す言葉です。原語ではヴァー「風が吹く、香をは



なつ」という語から、ニルヴァー「吹消される、静められる」、ニルヴァーナ「吹消された」となりま
す。人生の苦しみから脱し、迷いの火が吹消され
た状態、あらゆる煩惱の火が吹消され静められた状
態を涅槃といいます。心の障害、心の汚れ、むさぼ
り、いかり、愚痴などを消滅することにより、究極
的な自由の境地「解脱（涅槃）」へと近付きます。

一般には亡くなることによつて涅槃の境地に到達
すると考えられがちですが、お釈迦さまの教えは私
達にこの世で悟りを開き、涅槃の安らぎに至らせよ
うとしたものです。迷いの輪廻を断ち切つて本来の
自由となる境地が涅槃です。

多目的ホール（平成31年2月20日）

おはようございます。

ご存知のように、長泉寺では5月のオープンに向
けて、現在、多目的ホールの建設をすすめています。

昨今、ご自宅でいわゆる年忌法要や6日法要等の

仏事を執り行う方が少な
くなり、土曜、日曜はご
本堂での仏事が午後ま
で続く日が多くなりました
。そうしますと葬儀を
施行する時間がなくな
りました。これではいけ
ない、ご本堂とそれを補完
する意味でのお堂が必要
。と思い、多目的ホールの
建設をしています。

さらに現在、長泉寺はミネ幼稚園を運営してお
りますが、その他にも社会的な何かお手伝いがで
きればと思い「こども食堂」も手がけてみたいと
考えております。そのような用途にも対応できる
多目的ホールをめざして建設をしているわけです。
このホールの名前をどのようにしたらいいかと
思案しています。良いネーミングがありましたら
是非教えて下さい。

さてその工事の関係で今日ある建設会社さん
にお邪魔をいたしました。そこにお伺いするのは初
めてでした。



すると、大きな額が玄関に飾られておりました。大本山永平寺の禅師様、福山諦法禅師の書で「千客万来」と書いてありました。大きなケヤキの大板に彫り込まれております。驚きました。更に扁額の下には福山諦法禅師の年頭の挨拶(永平寺の機関誌『傘松』のコピー)が大きく掲示されておりました。これを今年の一年の戒めとしているのだと言う社長さんの話をお聞きしながら社長さんのご案内で社長室に通じていただいたところ、今度は「而今(にこん、じこん)」という書が掲げてあります。これはどなたのですかとお聞きしましたら「山形のほうのお坊さんに書いて頂いたのですがお名前はちよつと失念した」という返事。社長さんはどちらかのお寺のお檀家様ですかと聞きましたら、お墓もないし菩提寺もない。出来るなら長泉寺にお世話になりたいと私に言われました(笑)。

それはそれとして曹洞宗の老師の手による書を座右の書として仕事をされている方がいらっしゃるということに非常に感激し、また緊張もしました。

そのような方々にも恥ずかしくない活動を行えるホールにしなければと考えて帰ってきた次第です。詳しくは後日お檀家様を中心にお知らせをさせてい

ただきますが、どうぞ新しいスタイルの長泉寺が一步踏み出すその機会ととらえていただき、皆様の一層のご支援をお願いするものであります。失礼します。

※最近のお問合せについて

Q1:消費税のアップに伴い、葬儀等の費用(お布施)もアップするのですか?

A:考えておりません。

Q2:中央墓地内の樹木の伐採はどうなっているのですか?

A:伐採作業は、仙南中央森林組合に依頼いたします。昨年より作業計画を作成、作業順序に従い、間もなく春彼岸まで第1期伐採が始まる予定です。以降順次作業を行います。ご理解とご協力をお願いいたします。

Q3:葬儀後の中陰法要(三日、初七日、百ヶ日)の卒塔婆はいつまでお墓地立てておくのですか?

A:一周忌法要まで建立しておいて下さい。一周忌法要の卒塔婆を建立後、古くなった卒塔婆はお寺へ収めて下さい。

◎◎お寺からのお願い◎◎

・墓地内でのゴミ（生花、供物等など）は各自袋に入れてお持ち帰り下さい。

・白木位牌・卒塔婆は直接お寺へお持ち下さい。

・缶、ビン、落ち葉、雑草などは分別して各自お持ち帰り下さい

卒園式（平成31年3月13日）

おはようございます。

明後日3月15日、金曜日は、平成30年度・第57回ミネ幼稚園卒園式です。第一回卒園式は昭和38年3月の昭和37年度卒園式が最初でした。今年の卒園式まで443名の卒園児を送り出しました。今年の卒園児は「すみれ組」「きく組」2クラス合わせて41名の卒園児です。

今日3月13日、その41名の卒園児達がミネ幼稚園での最後の本堂のお参りにやって来ました。本堂に入り、まず仏様に手を合わせ、今日は特別に須弥壇の階段を上り、壇上中央にお祀りしている「ののさ

ま（お釈迦様）」と相対して手を合わせ、「ありがとうございました」とお辞儀をしてそして階段を降りてまいりました。どの子どもどの子ども仏様と間近に手を合わすことができず賑やかです。「園長先生、ののさまあんな高い所にどうやってお飾りしたの？」「のの様は立っていることできないの？いつも座ってるけど？」「大きかった」「目をつぶっているようだった」などなど色々なことを壇上から降りて子供たちはにぎやかに話しをしていました。そして最後に全員でののさまの歌を歌いました。どの子どもどの子ども今までにないぐらい美しい声で、優しい声でののさまの歌を歌いました。

その後、園長先生が子供たちにお話をします。「園長先生は、明後日皆さんの卒園式にお祝いにでかけ、これまで頑張った証として卒園証書を皆さんにお渡しいたします。卒園式に行ってもいいですか？」「良いよ」、明るく返事してくれました。「ありがとうございます。式が終わってお家に帰ったらお祖父さんお祖母さんにもありがとうを言いたいです。卒園証書は大切にご先祖様にもご報告してお仏壇に供えてください」そうお話をいたしました。

さてそれから「どれくらい大きくなったか、園

長先生がお友達のところを一人一人抱っこしてもいい?」「良いよー」の返事。すみれ組のお友達から一人一人抱っこさせていただき、「重い、大きくなった」と一人一人に声かけましたが、すみれ組が半分くらい終わった頃には、園長先生はハアハアフウフウです。「園長先生疲れてきた」「お水飲んでも良いよ」と園児から声援も聞こえます。そして、きく組のお友達が終わりやっとな名の抱っこを終えることが出来ました。「こんなに大きくなったんだなあ。お友達が着ている制服はみんな小さくなった。体が大きくなったのは元気な証拠、みんな制服よりも大きくなって、お父さんお母さんも大喜びだね」。そうお話をいたしました。最後に。へろへろキャンディーのご褒美をいただき、にぎやかに本堂から去っていきました。本堂に上るときには、みんなきちんと靴を揃えて上がったお友達。やがて大きくなってお寺にお参りに来る時も、はきちんと靴を揃えて上がる大人に育ってほしいなあと思いつつながら、私は幼稚園に嬉しそうに帰っていく子供たちを眺めました。

3月15日には良い日に恵まれて卒園式ができますよ、このホームページをご覧の方々も応援してほしいと思います。平成最後の卒園式をこんなに素晴らしい

子供たちと迎えることができ私は嬉しくもあり安心もしております。ありがとうございました。

お彼岸・・・平成31年3月20日

おはようございます。今日は3月20日。明日はお彼岸の中日です。

朝6時の鐘を撞き、鐘撞き堂から降りて来ると「おはようございます」の声が後ろから聞こえてきました。振り向くとAさんが歩いて山門の方からやってきました。「早いですね。今日は一人ですか?」私が聞くと、「婆さんは足が痛いと言って今日はお休み」と80過ぎのAさんも足を引きずりながら歩いてきました。昨年亡くなったご長男さんのお遺骨をお寺の本堂でお預かりしているので、そのご長男さんにお会いにお参りに来たのです。

Aさんのご長男さんは昨年10月の末に54歳の若さで亡くなりました。どういう理由があったかわかりませんが、お父さんであるAさんとご長男さんは元気なころから折りが悪く、家では親子喧

嘩が絶えなかったそうです。おばあさんから話を聞いたことがあります。そうしているうちにご長男さんは家を飛び出してアパートで住むようになりました。アパートから会社に出かけ、一人で仕事をするようになったのです。そのうちにご長男さんは重い病気にかかり57歳で亡くなってしまいました。

ご長男さんが死んでもAさんは「俺は葬式には行かない」「葬式なんかすることない。長男は俺にはむかってばかりいたのだから、家のお墓に入れることはできない。許さない」。頑固なAさんは言い張るばかりでした。そんな訳で、亡くなられてからお葬式までAさんの家族はお葬式どころではありませんでした。私にも相談を受けましたが、家庭内のことでもあり、「それであれば葬儀後、お寺でお遺骨は一時預かるから、その間いろいろ家庭内でお話をするように」そして今のような状況になったのです。ご長男さんのご葬儀の時には話の通りそのAさんは葬儀には出席しませんでした。母親であるAさんの奥さん、つまり、おばあちゃんは葬儀の間シクシクシク泣いていました。「息子なのに葬儀にも出ないなんてバカなオヤジだ！頭が変だ！」自分の旦那の悪口ばかり言っておりまして。

葬儀は故人の年齢が若いということで、義理固い職

場の人達がみんな参列され70名ほどの立派なご葬儀だったように記憶しておきます。ご葬儀が終わリ二七日頃初めておばあさんに連れられておじいさんさんがお遺骨にお参りにきました。むっとした顔で無表情。すぐに帰りました。やがておばあさんあるいはお孫さんに連れられておじいさんも何度かご本堂にお参りに来るようになりました。

現在では10日に一度ぐらいの割合でおばあさんとお参りに来るようになりました。彼岸中ということもあり今日はひとりでお参りに来たのでしよう。ローソクの始末、お線香の始末が心配になり、Aさんがお参りを済ませて帰ったあと、ご本堂に行ってみますとお遺骨のところには亡くなった息子さんが好きだったのでしょう缶コーヒーがお供えされておりまして。触ってみると温かい缶コーヒーでしかも飲み口が開けられておりました。

ラジオからは、今日も気温が上がり、暖かい春の一日になるとの天気予報の音が流れました。

おはようございます。今日は4月10日(水)です。
ミネ幼稚園の入園式も無事に終わり、長泉寺の桜も満開からそろそろ下り坂の時期になりました。

さて、以前、韋駄天についてお話をさせていただきましたが、その続きのお話をさせていただきます

韋駄天様をお祀りし

ている長泉寺に生まれ育った私ですが、生まれた時から体育ほど苦手なものはありませんでした。特に走ること、



これはもう大の苦手と言うべきが大嫌いでした。しかし、だからといって他の教科が得意だったり好きだったりということはありません。

やがて私は角田中学校に入学したわけですが、角田中学校では毎年学年末、すなわち2月末から3月始めの頃に臥牛城趾のお堀を一周する持久走大会が実施されていました。ご存知のように角田のお殿様石川公が居住していた臥牛館を囲むお堀の道、大体1.5キロから2キロぐらいあるのでしょうか、そこ

を走るわけです。

そして一年生の時に体育のご指導をしていたいた先生は渡部匡先生でした。渡部先生は実は柔道の大家であり、体育の指導に熱心な先生でありました。その先生から持久走の呼吸方法を教わりました。「スーサーハーハー」2回息を吸って、2回吐く方法です。これををすると呼吸が非常に楽になり疲れにくくなって長い距離を走りやすくなると、そういう指導をいただきました。私は大変素直な子供でしたから、この「スーサーハーハー」を取り入れれば劇的にその効果が現れ、走るのが楽になるだろうと思いきや大変嬉しく、忘れてはならない呼吸方法だとさっそく取り入れ、「スーサーハーハー」を繰り返しながらいいよ持久走のコースを走り出しました。ところが練習もしていない私です。全然効果があるどころか逆に疲れ切つて、その教えなどはもう忘れ「ハアハア」言いながらビリでテープを切つたと言つ次第でした。

先日、NHKテレビで放送されている韋駄天を見てこの「スーサーハーハー」は、なんと主人公である金栗四三さんが考案した呼吸方法だとこのテレビを見て初めて知りました。ですから渡部先生

の指導法がいかに適切だった事かを改めて思い出し、

呼吸法とともに懐かしく先生を思い出しました。残念ながら匡先生はすでにご他界され、もう会う事は出来ませんが当時の中学校生活を大変懐かしくまた嬉しく思い出しました。

次に、この4月は年度始めと言うこともあり、各地で入学式が行われていることと思われませんが、第一志望で入学した方、第二志望、第三志望で進んだ方、あるいは来年のチャンスを待つという方、それぞれの念いで選択された新年度の春と思います。季節にも寒い春、暖かい春とあるように、桜も自然の流れに従って咲くだけです。どうぞ今の時間を大切に、そしてこれが一番自分に合った人生だと捉え、毎日毎日の生活を規則正しく楽しんで進んでいってほしいと思います。

アレ、アレ、夕方からみぞれが雪になって来ました。自然はあまくないなあ。

点^{てん}浄^{じょう}・・・平成31年4月17日

おはようございます。今日は4月17日、幼稚園の入園式から一週間が経ちました。

今日から子供達はお弁当が始まります。暖かい日になり気温は25度ぐらいでしょうか、風もなぐダラリとポールから下がった鯉のぼりと一緒に、子供達は上着を脱いでブランコに乗ったり滑り台をしたり、あるいは鉄棒でもこんな事が出来るといわんばかりに元気よく遊んでいます。それに引き換え先生方は朝から「さあ今日からお弁当だ」「牛乳の指導もしくちやいけない」「テーパーを拭くお当番さんやそれからイスに座ってお弁当をいただくときの挨拶」「いただきます」。「ごちそうさまでした」。いろいろなことを今日一日で教えなければなりませんから、今日は体力勝負だとそれぞれ先生方に気合いが入っている様子が園長にも伝わってきます。

さて入園式の時には、新入園児のどの子も真新しいぶかぶかの制服でした。おそらくお家のお母さんやおばあちゃんから汚さないようにとか、それからきちんとボタンをとって脱ぐようにとか、

いろいろ大事に使うように指導されてきたに違いありませんが、もう子供達はそんなことを忘れて外で砂場遊びをしています。元気に遊ぶ洗濯物製造機が微笑ましいです。

さて男の人と女の人の仕草を見ると、男の人には見られない仕草が女性にはある事を感じる時があります。それは女性の方が特に新しいコートや服をお召しになった時、ちょっと自分の後ろ姿を振り返って、自分の後ろ姿がちゃんとなってるか確認をするような仕草を見せる事です。そんなふうに思っています。

私たち男は新しい服を着ても絶対にそういうことをしないと思いますが、女性の方はそういう仕草をされます。あれは不思議だなあと思う時があります。特に新幹線で東京に出かけたりする時にホームで新幹線の到着を私が待っていますと、そういう仕草をされる女性の方を見かけては、ははあー上京されるのでおめかししてるんだなと思うことがあります。

さて禅宗では、新しいお袈裟やお衣を着る時に、使い始めの作法として「点浄てんじやう」というものがあります。

点浄の点というのは印しるし、点とちす、浄は清浄の浄です。新しくおろすお袈裟あるいはお衣の裏側にわざと墨で印を付けたら、あるいは古布、つまりぼろ布の小さな片、そうですね3センチ角ぐらいですか、ぼろ布をわざと縫い付ける。そうすることによってこれは新しい物ではあるけれども、もうすでに汚れているものだとして新しいものに対する執着を捨てる作法だと師匠から教えられました。つまり、物に対する執着を捨てて生きるということですよ。

新しい着物だと私もつい緊張といいますか意識してしまい、かえって汚したりします。汚すと失敗したとか、汚したことに對していつまでもこだわってしまうわけですが、そういうこだわりの心を捨てる作法です。

私も人様には教えられませんが、私の印をお袈裟あるいはお衣の裏側にそっとつけています。そんなことを思いながら元気に遊んでる子供達の姿を今日は思い、点浄という言葉を思い出しました。失礼致しました。

新しい気持ちで・・・平成31年4月24日

おはようございます。今日は平成31年4月24日水曜日です。

今年は振り返ってみますと、1月1日に暦上のお正月を迎え平成31年がスタートいたしました。4月1日、これは年度変わりで入学式やあるいは入社式等々、社会が新しく平成31年度としてスタートした日でした。これもまた気分が一新されるということでお正月のような気持ちになったものでした。

そして今度は5月1日、新しい天皇陛下がご即位されて元号が「平成」から「令和」に変わるということで、これまたお正月を迎えるような気持ちであります。なんだか今年は3度もお正月を迎えるような気持ちで嬉しいような、そわそわしたような何とも言えない気分であります。皆様方はいかがでしょう。

さて、先日手前どものホームページで紹介をいたしました動画でございますが、あの動画はお寺のご近所にお住まいの秋久さんという方に撮影をしていただきました。秋久さんのご紹介を失念し

て申しわけありませんでした。

また、現在、建設中の多目的ホールの名称は「みねの里」と命名をさせていただきました。先代の住職が幼稚園を開設するにあたり、長泉寺の山号すなわち六国峰の「峰」を取りましてミネ幼稚園と命名したことにあやかり、私も「みねの里」と命名させていただいたわけです。間もなくオープンとなりますのでよろしくお願いいたします。

※ラベルにお寺の名を印字した長泉寺ブランドのお菓子で皆さんにおなじみの老舗和菓子屋の「鎌田屋」さんが5月12日に閉店することになりました。

鎌田屋さんは1958年創業の老舗で、「二万八千石」「臥牛城」など角田市の銘菓各種や季節に合わせてつくる生菓子も人気で、お土産でのご利用も多く、市外の方々からもたくさん愛されていました。

このような由緒ある伝統のお店が角田から消えることは非常に残念です。



※長泉寺が所蔵する甲冑等を展示する「甲冑展」が角田市郷土資料館で開催されています。是非、皆さまお誘い合わせの上、ご観覧下さい。

期間は4月19日（金）～5月12日（日）です。

ポスターに使用された甲冑が長泉寺に伝わるものです。この他に、岡田家様よりご寄進いただいた金糸織の甲冑も展示されています。